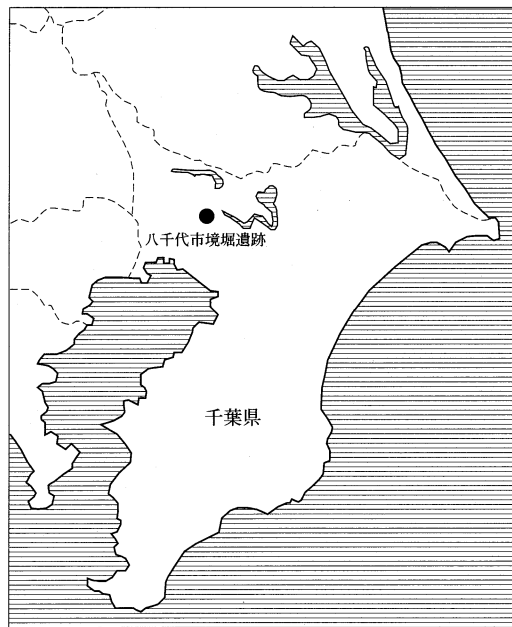


千葉県八千代市

# 上谷遺跡

(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

— 第5分冊 —



2005

大成建設株式会社

八千代市遺跡調査会





# 凡 例

1. 遺構番号は発掘調査時には、遺構種別ではなく調査地区ごとの通番号を付与した。遺物の注記、図面・写真への記録はこれによった。しかし、本書では遺構別に通番号を新たに付与し直した。この遺構番号については、第1章に新旧番号の対照表を掲載したので参照していただきたい。

2. 本書の挿図において使用した地図は以下の通りである。いずれも一部改変・合成して使用している。

図1 国土地理院発行 1/25,000地形図 「小林」「佐倉」「白井」「習志野」(平成12年発行)

図2 大成建設株式会社発行 1/4,000 Y. K, プロジェクト 空中写真測量図(昭和63年発行)

3. 本書の挿図において、方位の表示のないものについては、公共座標に基づく座標北を上としている。

4. 本書の遺構実測図における用例は以下のとおりである。

(1) 図中及び本文中における方位は、公共座標に基づく座標北を示している。

(2) 縮尺率は原則として以下のとおりとするが、これ以外のものについては、図中に示したスケールを参照されたい。

住居跡 1/80 掘立柱建物 1/80 土坑 1/50 溝 1/50 炉穴 1/50 その他の遺構 1/80

(3) 住居跡平面図に使用した一点鎖線は、床の硬化範囲を示している。

(4) 遺構実測図で使用した破線は、推定復元線を示している。

(5) 遺構実測中のスクリーントーンの表示は原則として以下のとおりであるが、個々については実測図脇に表示した凡例を参照されたい。



(6) 竈のある住居跡にあつては、長軸と短軸の距離及び方位は、各コーナーから対角線に線を引いた上で住居の中心を出し、その中心の壁間での計測値を出した。また、主軸は煙道にて計測した。

5. 本書の遺物実測図における用例は以下のとおりである。

(1) 縮尺率は原則として以下のとおりであるが、個々については図脇に示したスケールを参照されたい。

土器実測図 1/4 土器拓影図 1/3 土製品 1/3 石器・石製品 2/3 1/2 1/3 1/4  
鉄器・鉄製品 1/4 銅製品 1/2 支脚 1/4



(2) 遺物実測図中のスクリーントーンの表示は以下のとおりである。

(3) 墨書・朱書は以下のスクリーントーンで表現した。墨書・朱書は不明瞭な部分が多いため、明瞭な部分はベタ塗りで、不明瞭な部分は20%のトーンをかけて処理した。さらに文字の輪郭がはっきりしている部分は縁取りを行った。なお、推定復元部分は破線で示した。



















# 第1章 上谷遺跡V地区の概要

## 第1節 上谷遺跡V地区の調査の経緯

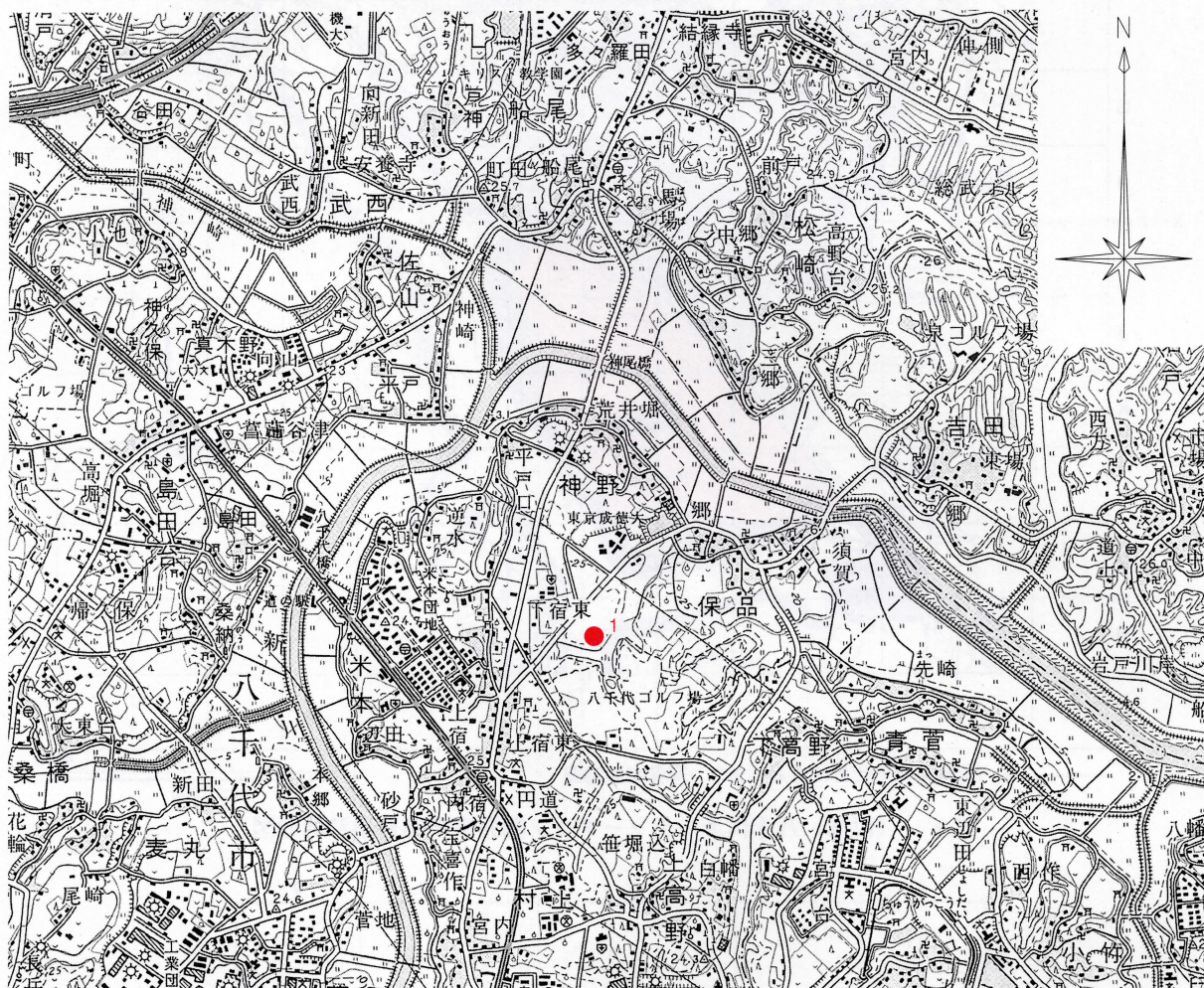


図1 上谷遺跡位置図(1/50,000)

上谷遺跡の発掘調査は、八千代カルチャータウン開発事業関連区域内における埋蔵文化財発掘調査の一環として行われた。例言に記したとおり本報告書は『(仮称) 八千代カルチャータウン開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書』としては10冊目にあたり、『上谷遺跡』としては第5分冊目となる。調査に至る経緯や整理計画などの詳細については、既刊の『栗谷遺跡－第1分冊－』を参照していただき、ここでは上谷遺跡V地区の調査について触れておきたい。

上谷遺跡の発掘調査は平成4年4月より10月にかけて第1次確認調査を、平成8年度から10年度にかけて第1・2・3・4次本調査を実施した。このうち上谷遺跡V地区の本調査は第1・2次本調査の一部がこれにあたり、調査面積は約11,669 m<sup>2</sup>であった。

調査区の設定にあたっては既刊の報告書で触れたとおり、公共座標系に沿ってグリッドを設定した。100m方眼を大グリッド、10mを中グリッド、5mを小グリッドとして調査を進めた。また、記録作成上で別途の調査区番号も用いた。表土層は重機による作業を進め、ソフトローム上面を遺構確認面とした。そして写真撮影や必要に応じた図を作成しながら、遺構の調査を行った。遺構・遺物の記録については光波測距儀による測量を必要に応じて行い、遺構図については航空測量を基本として、それぞれ補完することとした。



















































































































ある坑底が認められた。更に覆土から、2基の土坑の重複であることが認められた。本来の土坑の黒褐色土・暗褐色土を主体とした覆土の、自然堆積による遺構埋没後に掘込まれていた。掘込んだ坑底を火床として使用し、再び暗褐色土の自然堆積によって埋没した土坑である。

遺物 重複した土坑に関わりなく、後期・堀之内1式の深鉢や定角式磨製石斧も出土している。  
所見 遺物は上坑の掘込みによって動かされたと捉え、深鉢や石斧は本来の土坑である下坑に属するものと捉えた。このため後期・堀之内1式期の所産の土坑と捉えている。上坑は不明である。

表8 D352遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 石器 磨製石斧	長軸105×短軸50×厚さ25 重量214.4g 所謂定角式磨製石斧 断面は隅丸長方形を呈する 全面に良好な研磨痕 頭部に敲打痕を残す			略完形	砂岩
2 縄文 深鉢	(300)×ー×(311) 口縁に小突起(恐らく2単位) 口縁上部から小突起をなぞるように沈線が1条めぐる。胴部は地文LR縄文が施され、平行沈線により曲線的な文様が描かれる。 内面は研磨される	赤褐～ 橙褐 普	砂粒	口縁～ 胴部	

#### D355

検出地区 L5-35-3gにて検出した。

遺構 長軸1.58m×短軸1.22m×深さ0.45m、方位はN-45°-E、平面形は不整楕円形に近い形状である。ロームを略垂直に掘込むが、北東壁側に比し南西側は彎曲をもって立上っており、坑底と壁の境は不明瞭である。覆土は、暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 早期・条痕文片が出土するが、少なかった。

所見 出土遺物や覆土から早期・条痕文期の土坑と捉えた。

#### D362

検出地区 K5-39-2・4gにて検出した。

遺構 長軸2.25m×短軸2.09m×深さ0.18m、方位はN-60°-W、平面形は略円形の堅穴状の土坑である。やや掘込みは平面規模に比して浅くなるが、タライ状の堅穴状遺構である。坑底は平坦であり、中央に硬化面を認めた。しかし坑底に検出した3基のピットを主柱穴と捉えることはできず、炉跡も検出できなかった。覆土は、暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 早期・条痕文片や中期・五領ヶ台式が若干出土している。1は早期・条痕文片で口唇は外側に尖頭状となり、開く深鉢片である。流込みと捉えた。2は単節縄文を地文とし、結節文を2段にわたって横走させている。

所見 遺構の形状や遺物から、中期・五領ヶ台式の所産と捉えた。

#### D363

検出地区 K5-38-1・2gにて検出した。

遺構 長軸1.46m×短軸1.46m×深さ0.25m、方位はN-29°-E、平面形はやや角張る円形状である。ロームを略垂直に掘込み、坑底は平坦な堅穴状の土坑である。坑底は比較的踏み固められた様子が認められ、柱穴や炉跡は検出されなかった。覆土は、暗褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 早期・条痕文片の出土が多いが、中期・五領ヶ台式の深鉢片も出土している。1・2はいずれも条痕文片であるが、1は内外面とも縦位の、2は外面は斜位に、内面は縦位と横位に細かな条痕



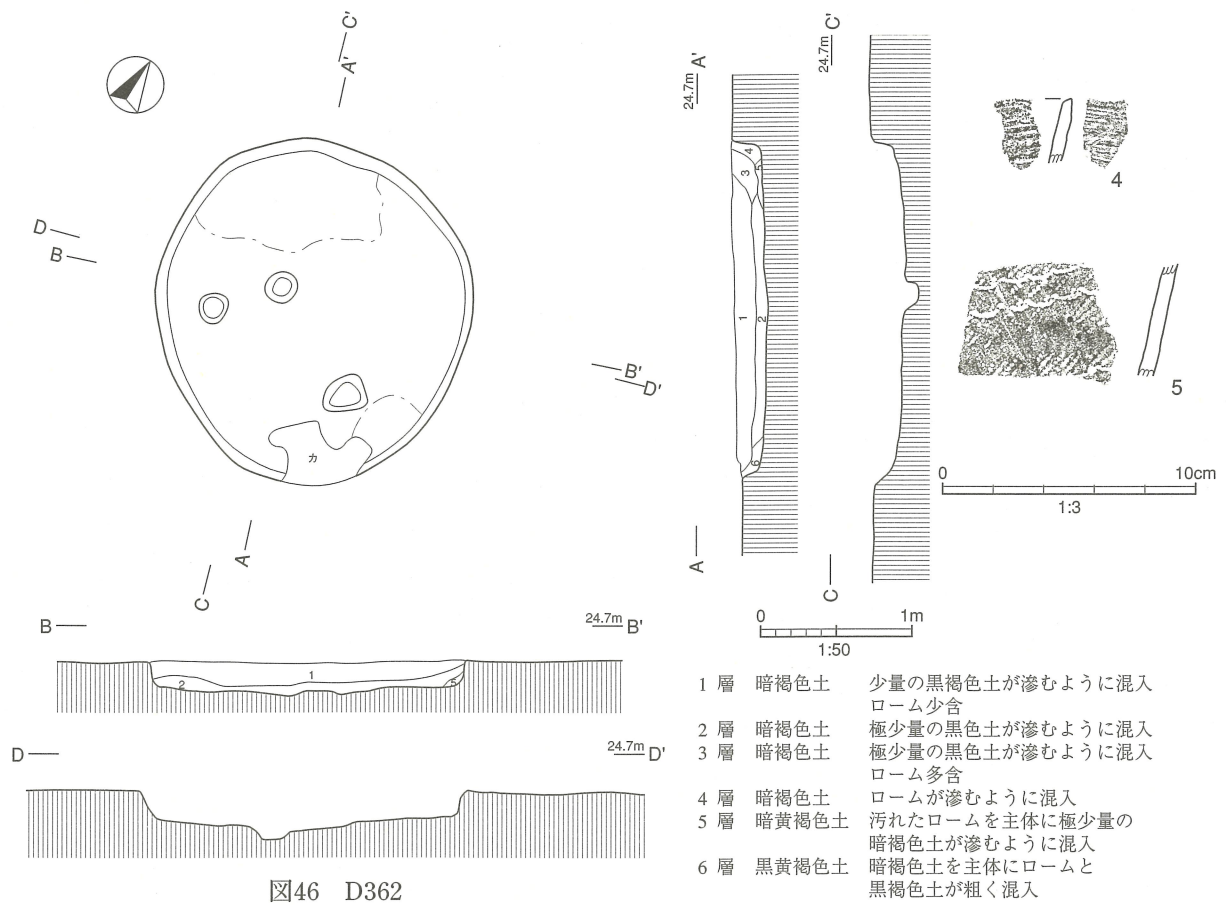


図46 D362

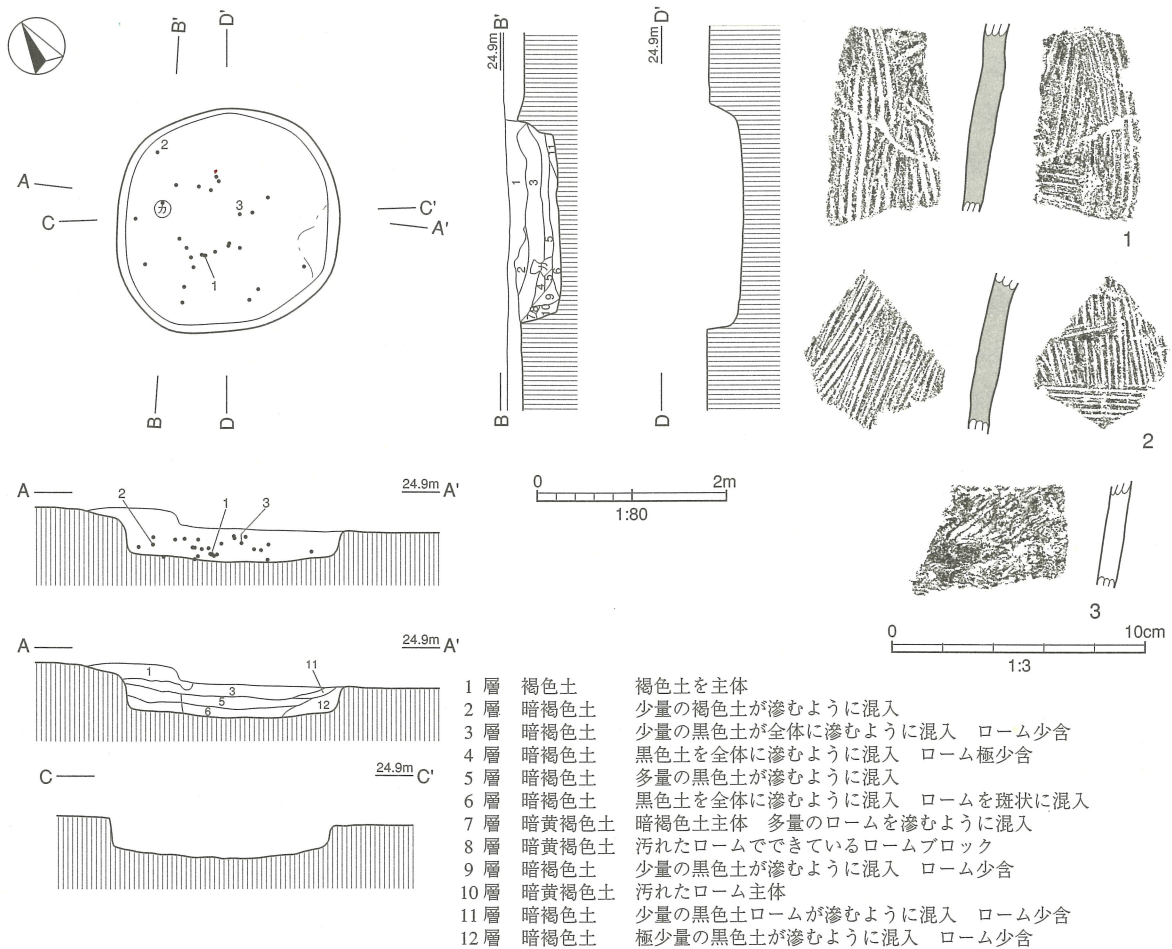


図47 D363

文を施している。3は単節縄文を地文として、結節文を押し送らせている。

所 見 早期・条痕文片の出土が中期・五領ヶ台式を上回るが、遺構の形状などから中期・五領ヶ台式の所産とした、条痕文片は流込みと捉えている。



图48 上谷遺跡V地区弥生時代遺構配置図

## 第2節 弥生時代

上谷遺跡V地区から検出した弥生時代の遺構は、竪穴住居跡11軒であり、土坑やその他の遺構は検出されなかった。竪穴住居群はIV地区からの集落の広がりとして捉えられたが、IV地区の竪穴住居跡がどちらかと言うと平坦部に営まれたの対して、V地区は緩斜面部に営まれていた。また、遺構規模は大型の住居跡が4軒に対して、小規模な住居跡が7軒となっている。

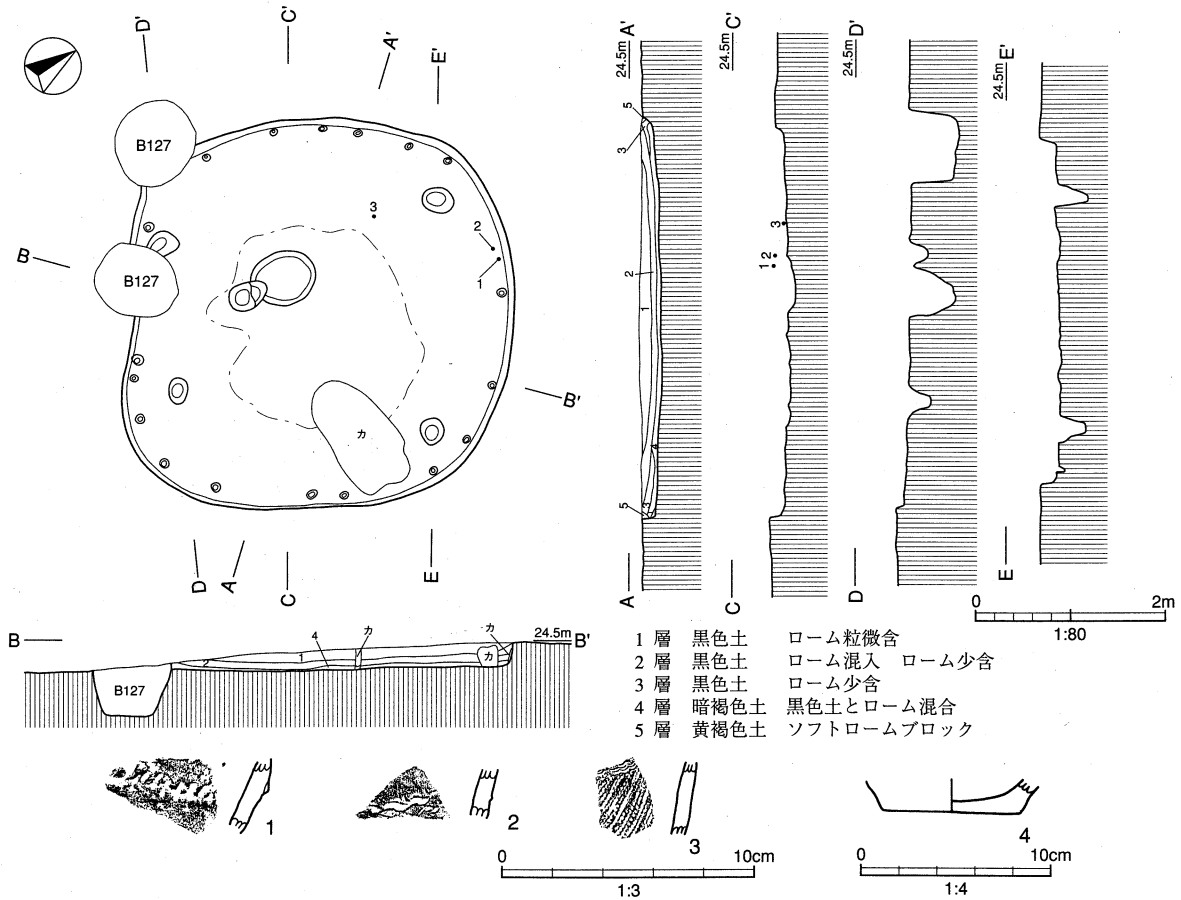


図49 A230

### A230

検出地区 L5-46-4gにて検出した。

遺 構 長軸4.14m×短軸4.01m×壁高0.23m、方位はN-53°-Wを測る。平面形は歪んだ隅丸方形である。ソフトロームを掘込み地床を基本とするが全体的に軟弱であり、住居跡中央は意識的に硬化面と捉えた。緩斜面に立地するため、南東壁は殆ど失われていた。支柱穴は壁寄りに4基検出し、壁際に壁柱穴を19基認めた。炉跡は住居跡の略中央に、床を0.05~0.10m程掘凹めて設けられていた。しかし火床は認められず、火熱痕も殆ど認められなかった。覆土は黒色土を主体とした自然堆積である。

遺 物 弥生・甕の小片を主体とするが出土遺物は極めて少なく、特に西壁寄りには出土は無かった。2~3層に出土の主体をおいている。

表9 A230遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考

1	弥生 甕	-× -× - 外面 輪積痕を痕跡的に一段残し、下端一棒状工具で連続刺突	外橙褐 内淡褐 良	石英 長石 砂粒少	頸部片	
2	弥生 甕	-× -× - 外面 S字状結節文で区画	外褐 内黒良	緻密	頸部片	
3	弥生 甕	-× -× - 外面 胴部一附加条縄文の後上端を櫛描波状文によって区画する	外黒褐 内黒良	緻密	頸部片	
4	弥生 甕	-× (72)× (16) 外面 胴下端一ヘラケズリ	外褐 内黒良	緻密	底部片	

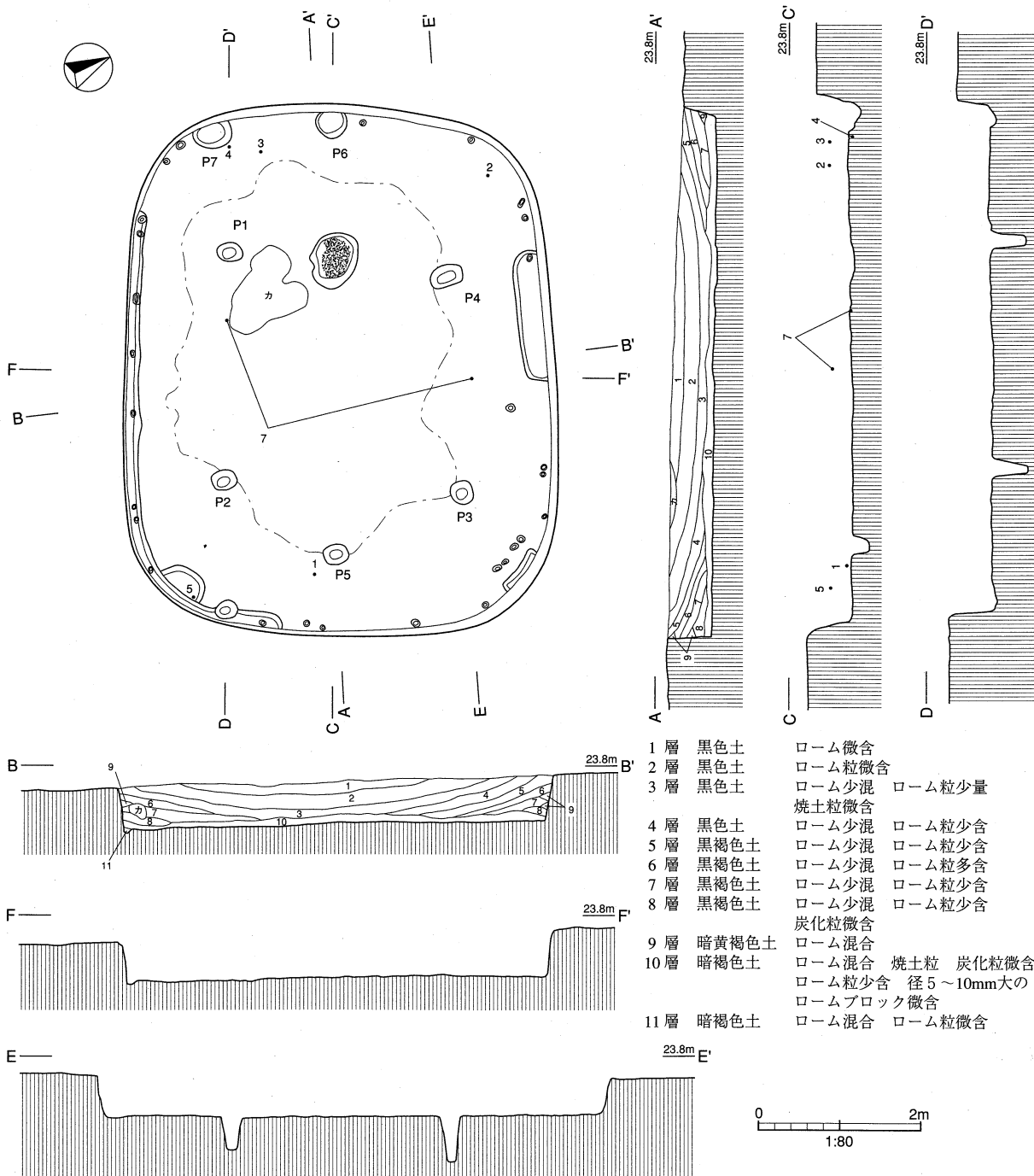


図50 A234







































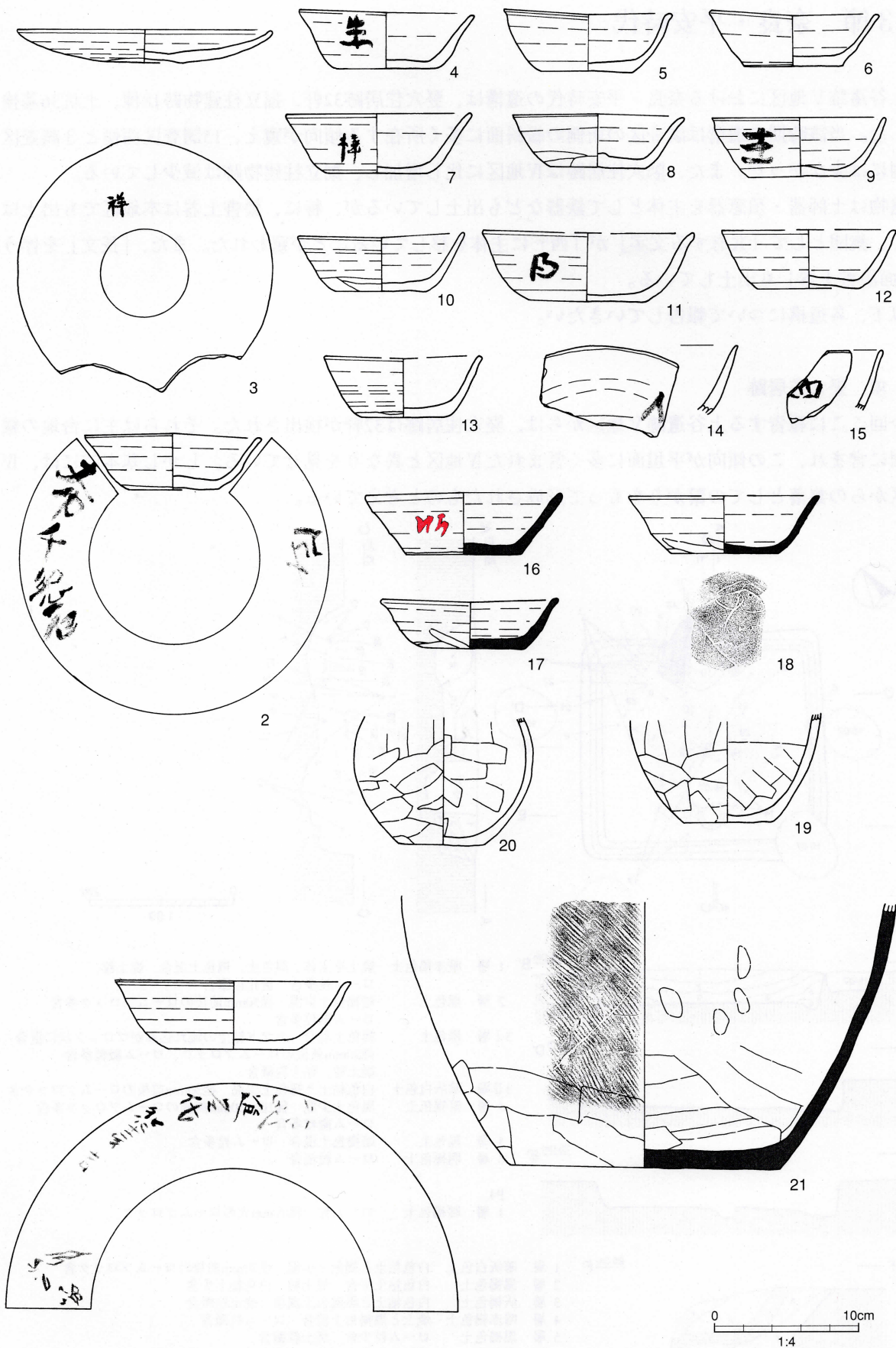


图66 A226 (2)















































































































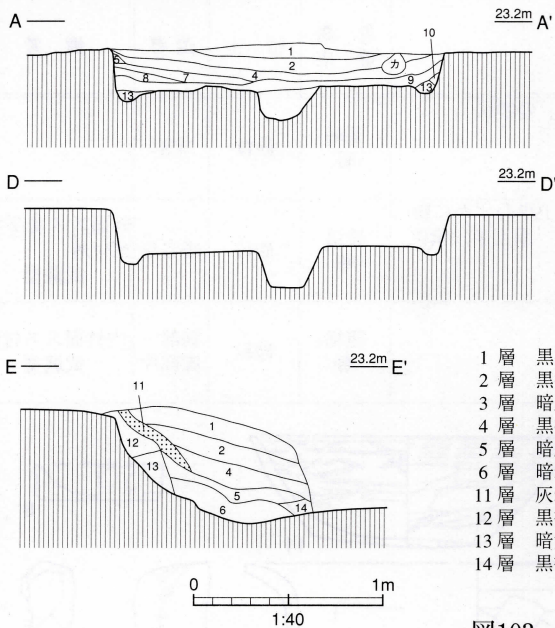
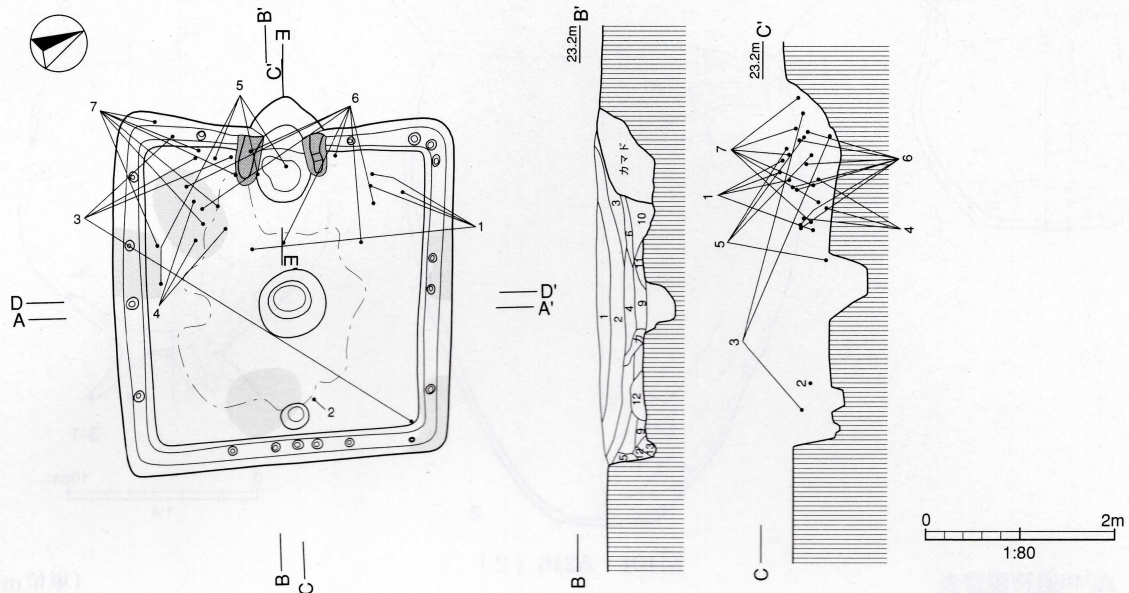












- |     |       |                           |                     |
|-----|-------|---------------------------|---------------------|
| 1層  | 黒褐色土  | 暗褐色土が少混入                  | ローム粒少含              |
| 2層  | 黒褐色土  | 暗褐色土が少混入                  | ローム粒少含              |
| 3層  | 暗灰褐色土 | 白色粘土が少混入                  | ローム粒、焼土粒少含          |
| 4層  | 黒褐色土  | 暗褐色土が少混入                  | ローム粒少含              |
| 5層  | 暗黄褐色土 | ロームブロック少含                 | 黒褐色土が混入             |
| 6層  | 暗褐色土  | 粘土粒を少含                    | 焼土粒ローム粒を微含          |
| 7層  | 黒褐色土  | 暗褐色土少混                    | ローム粒少含 焼土粒と炭化粒微含    |
| 8層  | 黒褐色土  | 暗褐色土少含                    | ローム粒と粘土粒少含 焼土粒微含    |
| 9層  | 黒褐色土  | ローム粒少混                    | ローム粒と焼土粒微含          |
| 10層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土が少混入                  | ローム粒、焼土粒少含          |
| 11層 | 暗褐色土  | ローム粒と焼土粒少含                |                     |
| 12層 | 暗赤褐色土 | 焼土粒多含                     | 焼土中ブロック化有り ローム粒微含   |
| 13層 | 暗褐色土  | ローム粒少含                    |                     |
| 1層  | 黒褐色土  | ローム少混入                    | ローム粒少含 白色粘土粒と焼土粒微含  |
| 2層  | 黒褐色土  | ローム少混入                    | ローム粒及び白色粘土粒少含 焼土粒少含 |
| 3層  | 暗灰褐色土 | 黒色粘土と白色粘土が混合              | ローム粒微含 焼土粒少含        |
| 4層  | 黒褐色土  | ロームと焼土が微含                 | 焼土粒少含               |
| 5層  | 暗灰褐色土 | 黒色粘土と白色粘土が混合              | 焼土とローム粒少含           |
| 6層  | 暗赤褐色土 | 黒色粘土と白色粘土と焼土が混合           | ローム粒少含              |
| 11層 | 灰赤褐色土 | 白色粘土を主体として焼土が多含           |                     |
| 12層 | 黒褐色土  | 黒色土を主体としたローム粒と白色粘土粒と焼土粒微含 |                     |
| 13層 | 暗黄褐色土 | ロームを主体とした黒色土が少混           | 白色粘土粒と焼土粒微含         |
| 14層 | 黒褐色土  | 黒色土を主体としたローム少混            | ローム粒少含              |

図103 A247 (2)

A247

検出地区 L4-97-3・4g、L5-7-1・2gにて検出した。

遺構 主軸3.56m×短軸3.56m×壁高0.44m、方位はN-62°-Wを示している。平面形は隅丸方形である。ハードロームを掘込み地床とし全体に硬化するが、竈前から出入口にかけて良好な硬化面を認めた。床面にピットを2基検出したが、柱穴は不明である。竈袖下まで巡る周溝内に、18基の壁柱穴を認めた。P2は出入口に伴うものである。P1は掘込みは垂直であり、床面上では広がっている。床面から0.70m程深く、覆土下層は突固められていた。柱材が引抜かれた柱穴と捉えられたが、支柱穴かは判断できなかった。竈は北西壁中央に粘土と黒色土が混合して設けられ、竈ピット内に火熱痕の火床を検出した。煙道部は壁をやや幅広く掘込み、煙道下部は火熱痕を認めた。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物 竈穴住居跡としては比較的多く出土し、覆土中層～上層の出土が多く、土師器の小片が殆どである。住居跡南東側は少なく、南西側に多い傾向が窺えた。

所見 出土遺物より奈良・平安時代の所産と捉えた。竈材に粘土と黒色土が混合する状況が、混和剤としての黒色土より他の竈の再利用とも考えられた。















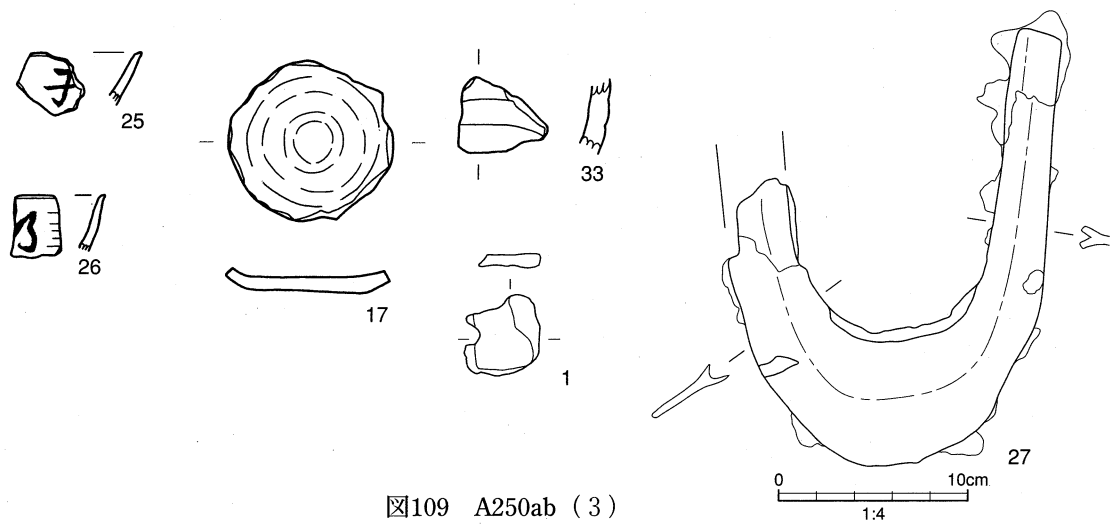


図109 A250ab (3)

A250b

遺構 長軸3.29m×短軸3.56m×壁高0.88m、方位はN-59° -Wを示す。平面形は隅丸方形である。ハードロームを深く掘込み、深さはA250aの柱穴より深い。床はハードロームの地床で、竈前から住居跡中央に硬化した床面を認めた。主柱穴はP6～P9, P11・P12は支柱穴は支柱穴である。P10は出入口に伴うものである。鎌と袖下まで巡る周溝内に12基の壁柱穴を認めた。竈は北西壁中央に粘土を主体として設けられ、竈ピット内に赤化した火床を検出した。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積であるが、A250aとの重複部に覆土の崩れが認められた。

遺物 全体から散在して出土しており、出土傾向を示すことはできなかった。「万」の文字の墨書土器2点が出土している。また、「得」とみられる墨書片も出土した。

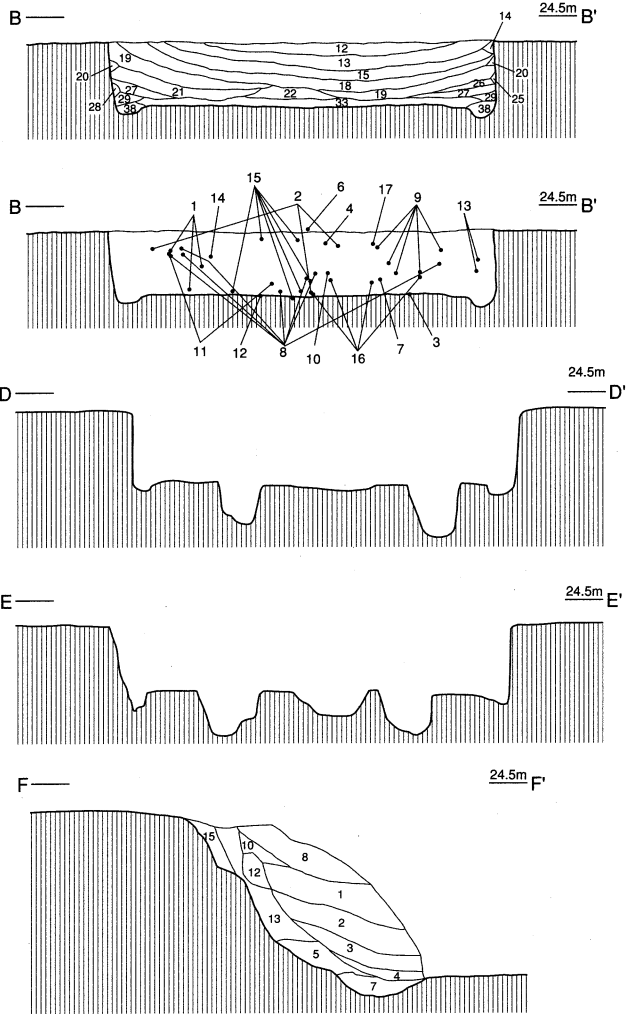
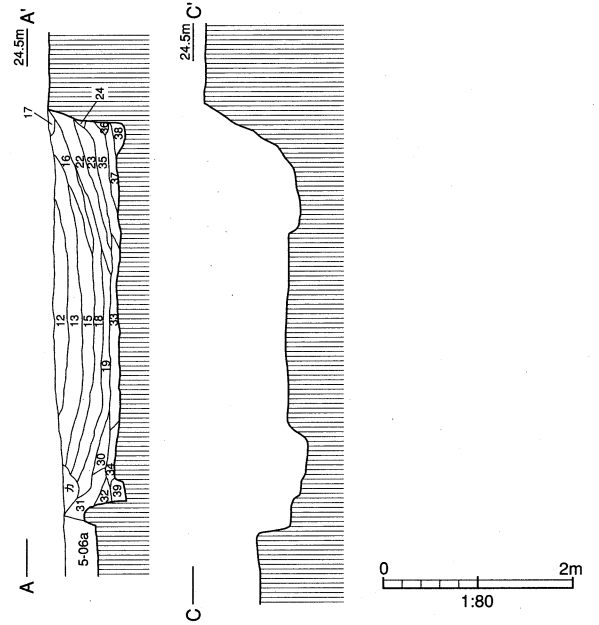
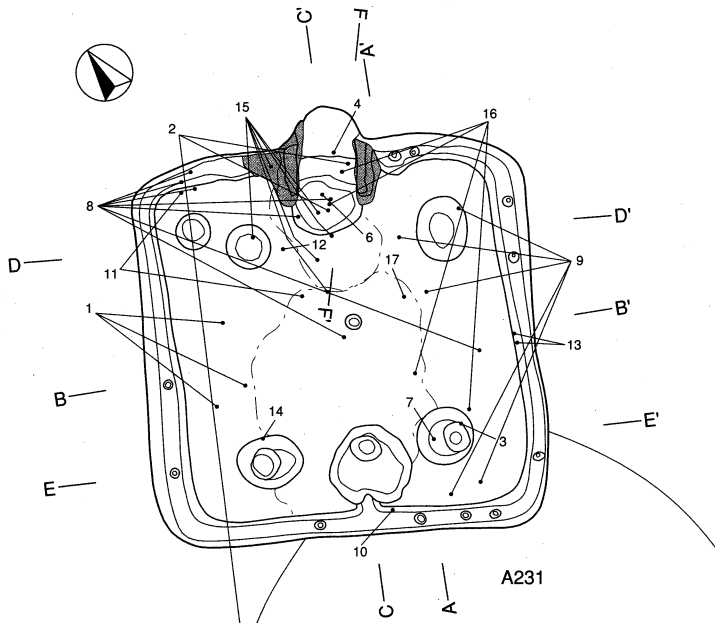
所見 A250aとの先後関係は、覆土よりA250a→A250bと捉えられた。なお、床面には炭化材の散布がみられ、遺構廃絶時に不用材の焼却を行った住居跡と判断された。

表37 A250b遺物観察表

(単位 m m)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 石製品 紡錘車	上部径-×下部径-×器高24 重量5.0g 比較的良く研磨されている	暗褐		断片	滑石 火熱受けている
4 土師器 坏	158×84×48 ロクロ成形 体部外傾し中央部にやや括れを持つ 内面は密に、外面は疎らにヘラミガキ 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り後回転ヘラケズリ	明褐 普	砂粒	完形	墨書「得」 体部外面正位 内黒
5 土師器 坏	116×63×37 ロクロ成形 断面逆台形状 体部下端はやや丸味を持つ 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り後回転ヘラケズリ	茶褐 普	砂粒	完形	外面スス?ター ル?付着
6 須恵器 鉢	301×104×163 底部より直線的に開き、口縁は折れ曲がるように 外反 体部はごく厚手の作り 外面 口縁-横ナデ 体部上半~下半-縦位のヘラケズリ 下端-横位のヘラケズリ 内面 口縁-横ナデ 体部-ヘラナデ 輪積痕	赤褐 やや悪	砂粒 白色粒	3/4	器面剥離 磨耗多い
7 須恵器 甕	(224)×-(173) ロクロ成形 外反する複合口縁 外面に稜を持つ 頸部は「く」の字状 肩部はなだらかな傾斜を持つ 外面 口縁~頸部-横ナデ 胴部-平行タタキ 内面 口縁-横ナデ 胴部-ヘラナデ及びナデ	灰黒褐 普	砂粒 白色粒	口縁~ 胴部	
8 須恵器 甕	197×126×278 口縁外反 外面に稜を持つ 頸部屈曲 胴上半が 張り急傾斜で底部へつながら 外面 口縁-横ナデ 頸部-平行タ タキ後横ナデ 胴上半~下半-平行タタキ 下端-ヘラケズリ 内面 口縁~頸部-横ナデ 胴部~ヘラナデ及びナデ	灰茶褐 普	粗砂粒多 小石 雲母	略完形	
9 須恵器 甕	(239)×(170)×(361) 外反する複合口縁、外面に稜 胴上半が張る 外面 口縁~頸部-横ナデ 胴上半~下半-平行タタキ 下端~ヘラ ケズリ 内面 口縁~頸部-横ナデ 胴部~ヘラナデ及びナデ 指頭痕	茶褐~ 黒褐 普	砂粒	1/3	
10 須恵器 坏	118×61×48 ロクロ成形 断面逆台形状 口縁外反 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り	黒褐~ 茶褐 普	砂粒	完形	外面スス?付着

11	土師器 坏	115× 68× 38 ロクロ成形 断面逆台形状 体部中央に括れを持つ 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	外明褐 内橙褐 普	砂粒 雲母	略完形	墨書「万」 底部外面
12	土師器 坏	126× 60× 42 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐 良	雲母細粒 緻密	1/4	
13	土師器 坏	(108)× -× (35) ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ	橙褐 良	長石 赤色スコ リア細粒 緻密	口縁~ 体部	墨書「口」 体部外面
14	土師器 坏	116× 64× 35 ロクロ成形 口縁外反 体部下端やや丸味を持つ 薄手の作りである 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転 糸切り後回転ヘラケズリ	茶褐 良	砂粒 赤色粒	4/5	
15	土師器 坏	(130)× (80)× 38 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐 良	雲母 赤色スコ リア微細 粒 緻密	1/4	
16	土師器 坏	-× (52)× (35) ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ	明褐 良 堅緻	長石赤色 スコリア 細粒 比 較的緻密	口縁~ 底部	
17	土師器 坏	-× 64× 13 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-静止糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐 良	雲母 赤色スコ リア細粒 緻密	底部	周縁を打ち欠く 土製品か?
18	土師器 坏	114× 73× 38 ロクロ成形 体部外傾し下半に丸味を持つ 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐 普	砂粒	略完形	
20	土師器 坏	(160)× (84)× 42 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 部分的にヘラミガキ 底部-回転 ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 丁寧なヘラミガキ	外淡褐 内黒 良	雲母細粒 緻密	1/4	墨書「万」 体部外面正位 内黒
21	土師器 坏	-× -× - ロクロ成形 内外面ともナデ	黒 良	長石 赤色スコ リア	口縁片	
22	土師器 小型甕	-× 64× (38) 輪積 外面 胴部-ヘラケズリ 底部-ヘラケズリ 内面 胴部-ヘラケズリ後ヘラナデ	外茶褐 内橙褐 良	長石 スコリア 細粒 比 較的緻密	胴下半 ~底部	
23	土師器 坏	-× -× - ロクロ成形	橙褐 良	雲母微細 粒 緻密	体部片	墨書「口」 体部外面 写真掲載のみ
24	土師器 坏	-× -× - ロクロ成形	淡褐 良	雲母微細 粒 緻密	体部片	墨書「口」 体部外面 写真掲載のみ
25	土師器 坏	-× -× - ロクロ成形	淡褐 良	緻密	口縁片	墨書「」 体部外面正位
26	土師器 坏	-× -× - ロクロ成形	淡褐 良	雲母微細 粒 緻密	口縁片	墨書「得」 体部外面正位
27	鉄器 鋏先	長(156)×幅46×厚3			1/3	
30	須恵器 甕	-× (178)× (146) 外面 胴下半-平行タタキ目 下端-ヘラケズリ	外赤灰 内暗灰 良	雲母 石英細粒 やや粗	胴下半	常陸産
31	土師器 甕	(216)× -× (73) 頸部立ち上がり 口縁外反 外面 口縁-横ナデ 頸部-ヘラナデ及びナデ 胴上半-ヘラケズリ 内面 口縁-横ナデ 頸部~胴上半-ヘラナデ	橙褐 普	砂粒	口縁~ 胴上半	武蔵型
32	土師器 甕	-× (56)× (63) ごく薄手 外面 胴部-斜位を主とするヘラケズリ 底部-ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	外黒褐 内橙褐 良	黒色粒 赤色細粒 比較的 緻密	胴下半 ~底部	武蔵型
33	手捏ね 坏形か?	-× -× - 輪積 内外面とも指ナデ	橙褐 良	長石 スコリア 細粒 やや粗	胴部片	



- |     |       |                   |                  |            |                      |
|-----|-------|-------------------|------------------|------------|----------------------|
| 12層 | 黒褐色土  | 黒色土主体             | ローム少含            | ローム粒多含     | 焼土粒微含                |
| 13層 | 黒褐色土  | 黒色土主体             | ローム少混            | ローム粒多含     |                      |
| 14層 | 黄褐色土  | ロームと黒色土混合         |                  |            |                      |
| 15層 | 暗褐色土  | ローム少混             | ローム粒多含           |            |                      |
| 16層 | 暗灰褐色土 | 暗褐色土と白色粘土が混合      | ローム少含            | ローム粒多含     |                      |
|     |       | 白色粘土多含            |                  |            |                      |
| 17層 | 暗黄褐色土 | ローム主体に黒色土少含       |                  |            |                      |
| 18層 | 暗褐色土  | ローム少含             | ローム粒多含           |            |                      |
|     |       | 径10mm大のロームブロック多含  |                  |            |                      |
| 19層 | 暗褐色土  | ローム少含             | ローム粒多含           | 焼土粒微含      |                      |
| 20層 | 暗黄褐色土 | ローム粒を主体とした暗褐色土が少混 |                  |            |                      |
| 21層 | 暗褐色土  | ローム少含             | ローム粒多含           |            |                      |
|     |       | 径10mm大のロームブロック少含  |                  |            |                      |
| 22層 | 暗灰褐色土 | 暗褐色土と白色粘土が混合      | ローム多含            | 白色粘土多含     |                      |
| 23層 | 暗褐色土  | ローム少含             | ローム粒と白色粘土多含      |            |                      |
| 24層 | 暗黄褐色土 | ローム粒を主体とした暗褐色土が少混 |                  |            |                      |
| 25層 | 暗黄褐色土 | ローム粒を主体とした暗褐色土が少混 |                  |            |                      |
| 26層 | 黒褐色土  | ローム少混             | ローム粒多含           |            |                      |
| 27層 | 暗褐色土  | ロームと黒色が少混         | ローム粒多含           | 焼土粒微含      |                      |
| 28層 | 黄褐色土  | ロームブロック           |                  |            |                      |
| 29層 | 暗褐色土  | ローム少混             | ローム粒微含           |            |                      |
| 30層 | 暗褐色土  | ロームと黒色が少混         | ローム粒多含           |            |                      |
|     |       | 径10mm大のロームブロック少含  |                  |            |                      |
| 31層 | 黒色土   | ローム少混             | ローム粒少含           |            |                      |
| 32層 | 黒色土   | ローム少混             | ローム粒多含           |            |                      |
|     |       | 径10mm大のロームブロック少含  |                  |            |                      |
| 33層 | 暗褐色土  | ローム少混             | ローム粒多含           | 焼土粒と白色粘土微含 |                      |
| 34層 | 暗褐色土  | ローム少混             | ローム粒多含           | 白色粘土を微含    | 径10mm大の黒色土のロームブロック少含 |
| 35層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土が混合           | ローム微含            | 白色粘土多含     |                      |
|     |       | ローム粒多含            | 径10mm大のロームブロック微含 |            |                      |
| 36層 | 灰褐色土  | 白色粘土主体にロームが少混     | ローム粒微含           |            |                      |
| 37層 | 暗褐色土  | ローム少混             | 白色粘土多含           | ローム粒少含     | 焼土粒微含                |
| 38層 | 暗褐色土  | ローム混合             | ローム粒少含           |            |                      |
| 39層 | 暗黄褐色土 | 暗褐色土とローム混合        |                  |            |                      |
| 1層  | 黒褐色土  | 白色粘土少混            | 焼土粒微含            |            |                      |
| 2層  | 黒褐色土  | 白色粘土微混            | 焼土粒微含            |            |                      |
| 3層  | 暗灰褐色土 | 黒褐色土主体            | 白色粘土混合           | 焼土粒微含      |                      |
| 4層  | 黒褐色土  | 白色粘土微混            | 焼土粒微含            |            |                      |
| 5層  | 暗赤褐色土 | 白色粘土と黒褐色土と焼土混合    |                  |            |                      |
| 7層  | 暗黄褐色土 | ローム主体で白色粘土と黒褐色土少混 | 焼土少含             |            |                      |
| 8層  | 黒褐色土  | 白色粘土微混            | 焼土粒微含            |            |                      |
| 10層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と黒褐色土混合       | 炭化粒少含            |            |                      |
| 12層 | 暗灰褐色土 | 白色粘土と黒褐色土混合       | 炭化粒少含            |            |                      |
| 13層 | 黒褐色土  | 炭化粒と粘土粗く混合        | 焼土粒微含            |            |                      |
| 15層 | 暗黄褐色土 | ローム主体の土に黒褐色土少混    |                  |            |                      |

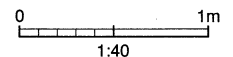


図110 A251b

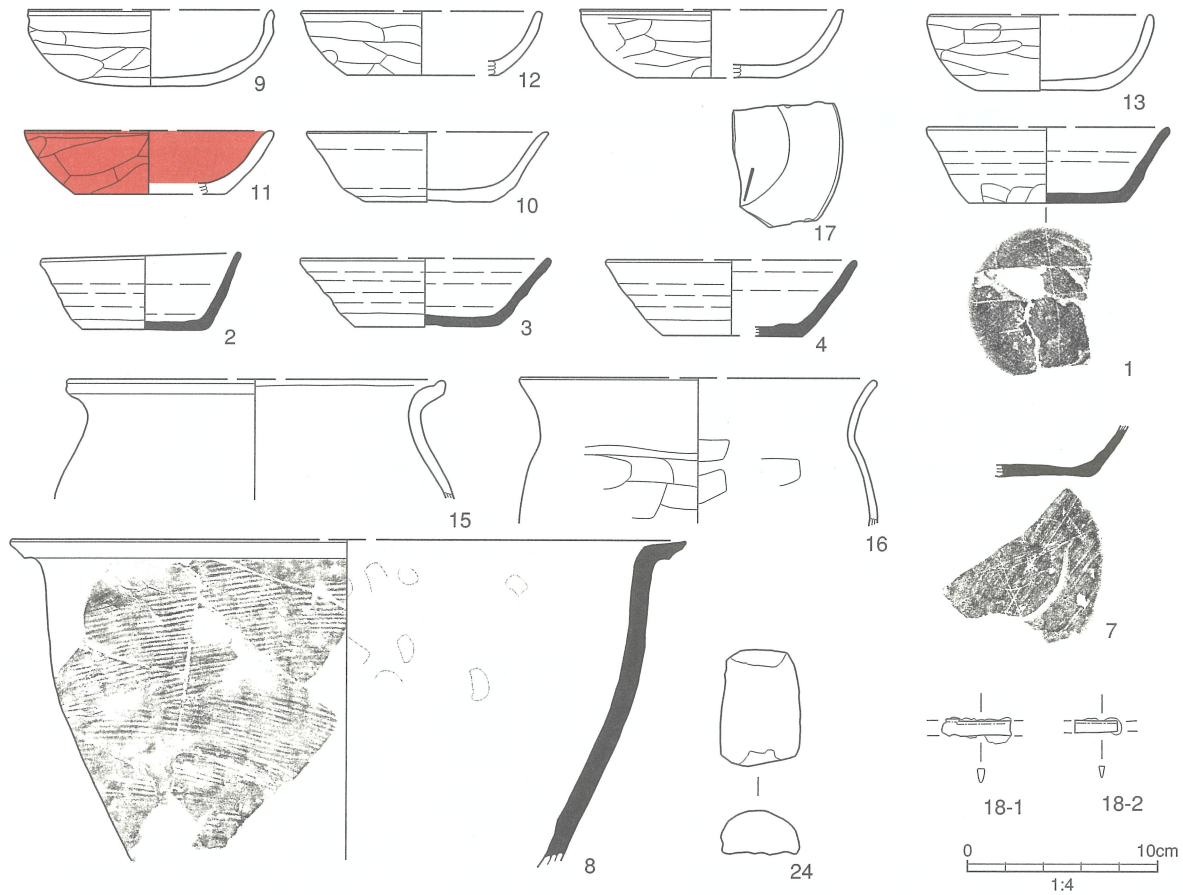


図111 A251b (2)

A251b

検出地区 L5-14-2・4g、15-1・3gにて検出した。

遺構 長軸4.15m×短軸4.08m×壁高0.65m、方位はN-31°-Eを示す。平面形は隅丸方形である。ハードロームを掘込み地床とし、竈前から出入口に帯状に良好な硬化面を認めた。支柱穴は4基検出し、竈袖下まで巡る周溝内に11基の壁柱穴を認めた。P5は出入口に伴うものである。竈は北東壁の中央に粘土を主体として築かれ、袖は地山のロームを掘残して基礎とし、その上に白色粘土のみで積上げていた。ないへきはの焼土化は強く、竈ピット坑底は火熱根を認めるが赤化は確認できなかった。これを火床と捉えている。煙道部は壁を幅広く掘込んでおり、煙道中位以下は火熱痕が認められた。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物 土師器の小片が多いが、住居跡としては出土は多くない。特に出土傾向を捉えることはできなかった。

所見 出土遺物から奈良・平安時代の所産と捉えたが、古い時期に相当する。

表38 A251b遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 須恵器 坏	(128)×80×40 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ	ロクロ成形	灰 良	雲母 花崗岩粒 やや粗	2/3	線刻「」 底部外面
2 須恵器 坏	105×66×39 外面 体部下端-回転ヘラケズリ	ロクロ成形 小形でやや箱形 底部-回転ヘラ切り	暗灰 良	雲母細粒 石英粒 やや粗	3/4	常陸産

3	須恵器 坏	(133)× 74× 36 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-切り離し後静止ヘラケズリ	灰 良	長石 雲母細粒 比較的 緻密	1/4	常陸産
4	須恵器 坏	(134)× (75)× 40 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-静止ヘラケズリ	灰 良	雲母 長石 石英細粒 やや粗	1/4	常陸産
7	須恵器 坏	-× -× - ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-静止ヘラ切り	灰 良	雲母 長石微細 粒 緻密	体部~ 底部	線刻「□」 底部外面
8	須恵器 甕	(356)× -× (170) 外面 口縁-ナデ 胴上半-平行タタキ目 下半-ヘラケズリ 内面 口縁-ナデ 胴部-ナデ 当具痕	暗灰 良	雲母 長石 石英細粒 やや粗	口縁~ 胴下半	
9	土師器 坏	(130)× 60× 41 非ロクロ成形 外面 口縁-ナデ 体部~底部-ヘラケズリ後部分的にヘラミガキ 内面 ナデ後やや雑なヘラミガキ	橙褐 良	長石赤色 スコリア 細粒 比 較的緻密	1/3	
10	土師器 坏	(128)× 67× 37 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り 回転ヘラケズリ	橙褐 良	長石赤色 スコリア 粒 比 較的緻密	1/3	
11	土師器 坏	(132)× (80)× 34 非ロクロ成形 外面 口縁-ナデ 体部-ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	暗茶褐 良	長石 スコリア 細粒 緻密	口縁~ 底部	内外面赤彩
12	土師器 坏	(128)× (80)× 34 非ロクロ成形 外面 口縁-ナデ 体部-ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 ヘラミガキ	茶褐 良	長石 スコリア 細粒 緻密	口縁~ 底部	
13	土師器 坏	(120)× (65)× 40 非ロクロ成形 外面 口縁-ナデ 体部-ヘラケズリ後部分的にヘラミガキ 内面 ナデ後ヘラミガキ	茶褐 良	長石 スコリア 微細粒 緻密	1/4	
14	手捏ね 坏形か?	-× -× - 内外面とも指ナデ	暗褐 普	雲母	体部片	
15	土師器 甕	(200)× -× (63) 口縁端部はつまみ上げ 外面 口縁-ナデ 頸部以下ヘラケズリ後ナデ 内面 口縁-ナデ、以下ヘラナデ	橙褐 良	雲母長石 石英粒 比較的 緻密	口縁~ 胴上部	常総型
16	土師器 甕	(190)× -× (77) ごく薄手 外面 口縁-ナデ 胴上部-ヘラケズリ 内面 口縁-ナデ 胴上部-ヘラナデ	橙褐 良	細砂長石 赤色スコ リア細粒 やや粗	口縁~ 胴上部	武蔵型
17	土師器 坏	(140)× (72)× 36 非ロクロ成形 外面 口縁-ナデ 体部-ヘラケズリ 内面 ナデ後ヘラミガキ	暗茶褐 良	赤色スコ リア粒 概ね緻密	1/5	墨書「□」 底部外面
18	鉄器 刀子	長(36+22)×幅8×厚3~4			茎子	
24	土製品 支脚	長さ(61)× 幅(42)× 厚み(22) 重量62.9g 小形で細身	灰褐 良	砂 赤色スコ リア やや粗	1/6	

## A252

検出地区 L5-15-4g・16-3g、25-2g、26-1gにて検出した。

遺 構 長軸3.72m×短軸3.69m×壁高0.65m、方位はN-72° -Wを示す。平面形は隅丸方形である。ハードロームを掘込み地床とし、全体として硬化しているが、住居跡中央の小範囲に特に良好な硬化面を認めた。主柱穴は検出されず、竈袖下まで巡る周溝内に13基の壁柱穴を認めた。P4は出入口に伴うものである。南壁の2コーナーとP4脇の壁下に1基のピットを検出したが、用途不明である。竈は西壁中央に設けられ、天井・袖とも白色粘土を極めて多量に用いて築いていた。袖の内壁は部分的に焼土化し、竈ピットの掘込みははっきりしており、ピット内に火熱痕のみの火床を検出した。煙道部はやや



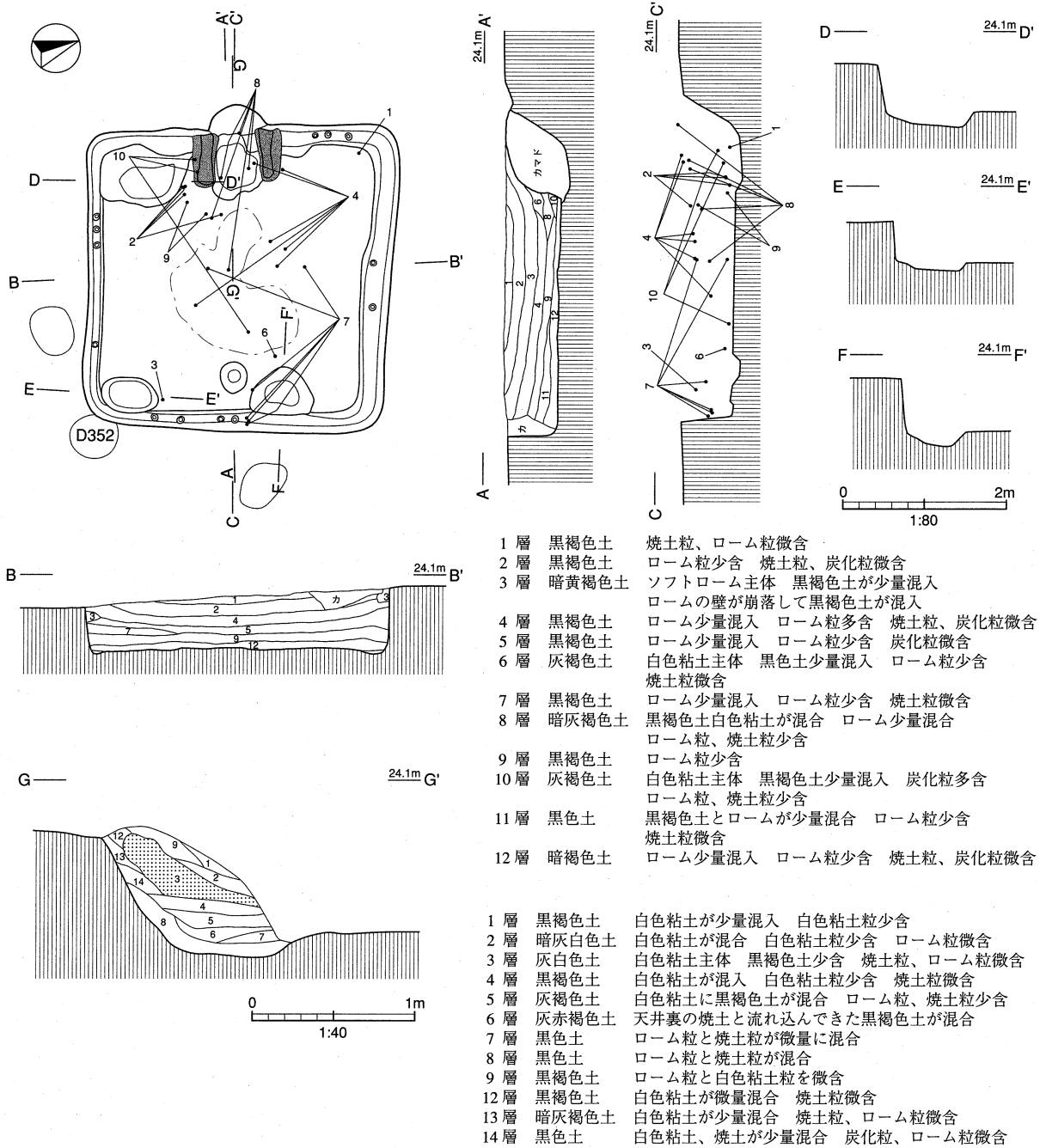


図112 A252

幅広く壁を掘込み、煙道下部には火熱痕が認められた。火床及び煙道部の火熱痕は、赤変もしていなかった。覆土は、黒褐色土を主体とした自然堆積と捉えた。

遺物 竪穴住居跡の竈と出入口の中軸線から北側に遺物が多量に出土しているが、南側は少ない。また覆土中層～上層に多く、本住居跡の出土傾向として捉えることができた。

所見 出土遺物から奈良・平安時代の所産と捉えられた。当該時代でもやや古い時期となる住居跡である。P1～P3については、調査時に貯蔵穴の可能性も想定していた。壁際に所在する柱穴とも併せて検討したが、その用途を捉えることはできなかった。

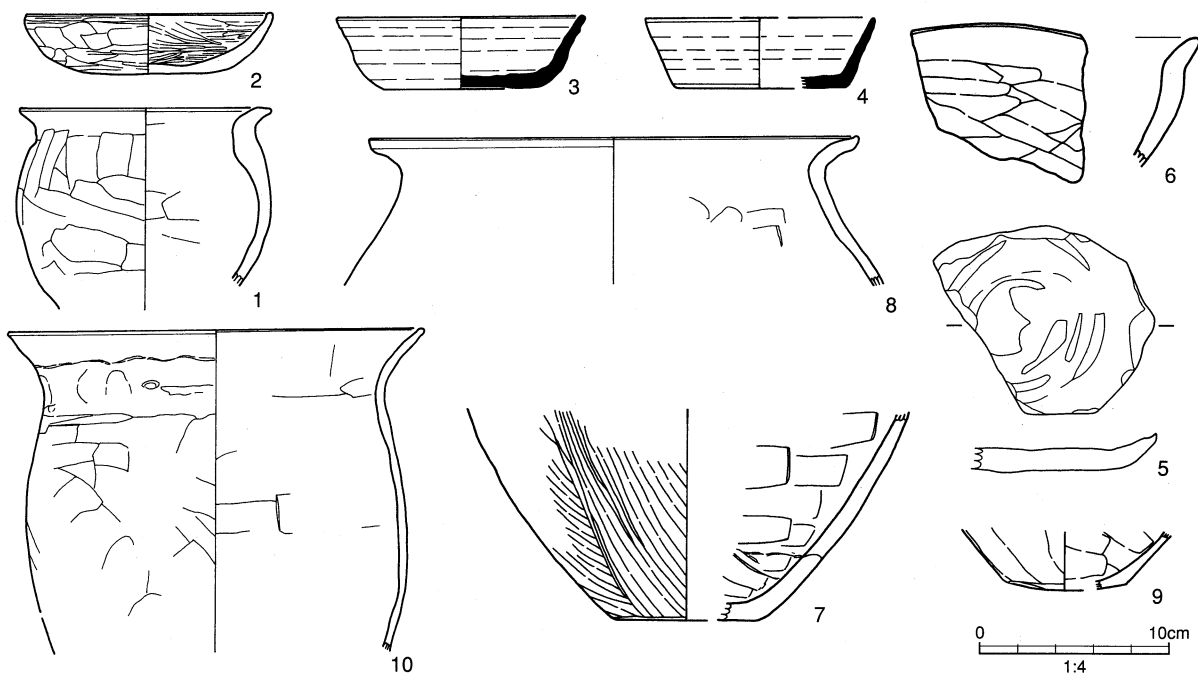


図113 A252 (2)

表39 A252遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 小形甕	130× - × (107) 口径大きく外反 頸部「く」の字状 胴部丸味を持つ 外面 口縁～頸部～横ナデ 胴上半～下半ヘラケズリ 内面 口縁～頸部～横ナデ 胴部～ヘラナデ	外褐～ 暗褐 内暗褐 普	砂粒 赤色粒	口縁～ 胴部	
2 土師器 坏	128× - × 32 口径やや内湾 丸底の浅い坏 外面 口縁～横ナデ後ヘラミガキ 体部～底部～ヘラケズリ 一部ヘラミガキ 内面 口縁～横ナデ後ヘラミガキ 体部～ヘラナデ後ヘラミガキ	外明褐 内茶褐 普	砂粒 白色粒	略完形	
3 須恵器 坏	129× 82× 38 ロクロ成形 体部外傾し中央でやや括れる 下端は丸味を帯びる 外面 底部～手持ちヘラケズリ	青灰 普	粗砂粒多 小石多	2/3	
4 須恵器 坏	(120)× (90)× 37 ロクロ成形 箱形気味 外面 体部下端～回転ヘラケズリ	灰良 堅緻	雲母微細 粒 比較的 緻密	1/3	
5 土製品 転用硯	長径(74)× 短径(72)× 器高16 ロクロ成形 見込み面を使用面とする	灰良	石英 雲母細粒 やや粗	2/3	須恵器坏の転用品 (常陸産)
6 土師器 鉢	- × - × - 輪積 外面 口縁～ナデ後ヘラミガキ 胴部～ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 口縁～ナデ後部分的にヘラミガキ 胴部～ヘラナデ	外黒褐 内茶褐 良	長石 ス コリア細 粒 比較 的緻密	口縁～ 胴部	
7 土師器 甕	- × (74)× (113) 外面 胴部～ヘラケズリ後ヘラミガキ 底部～木葉痕 内面 ヘラナデ	外暗茶褐 内茶褐 良	石英 雲母細粒 やや粗	胴下半 ～底部	常総型
8 土師器 甕	(258)× - × (80) 口径外反 上端はつまみ上げられる 頸は「く」の字状 外面 口縁～頸部～横ナデ 胴上半～ヘラナデ 内面 口縁～頸部～横ナデ 胴上半～ヘラナデ	褐 普	粗砂粒多	口縁～ 胴上半	常総型
9 土師器 甕	- × (66)× (30) ごく薄手 外面 胴部～斜位のヘラケズリ 底部～ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	暗褐 良	細砂 やや粗	胴下半 ～底部	武蔵型
10 土師器 甕	(218)× - × (170) 口径外反 頸部はゆるやかな「く」の字状 外面 口縁～横ナデ 頸部～ナデ及び指頭圧痕 胴上半～ヘラケズリ 内面 口縁～頸部～横ナデ 胴部～ヘラナデ	橙褐 普	砂粒	口縁～ 胴部	武蔵形 内面スス付着

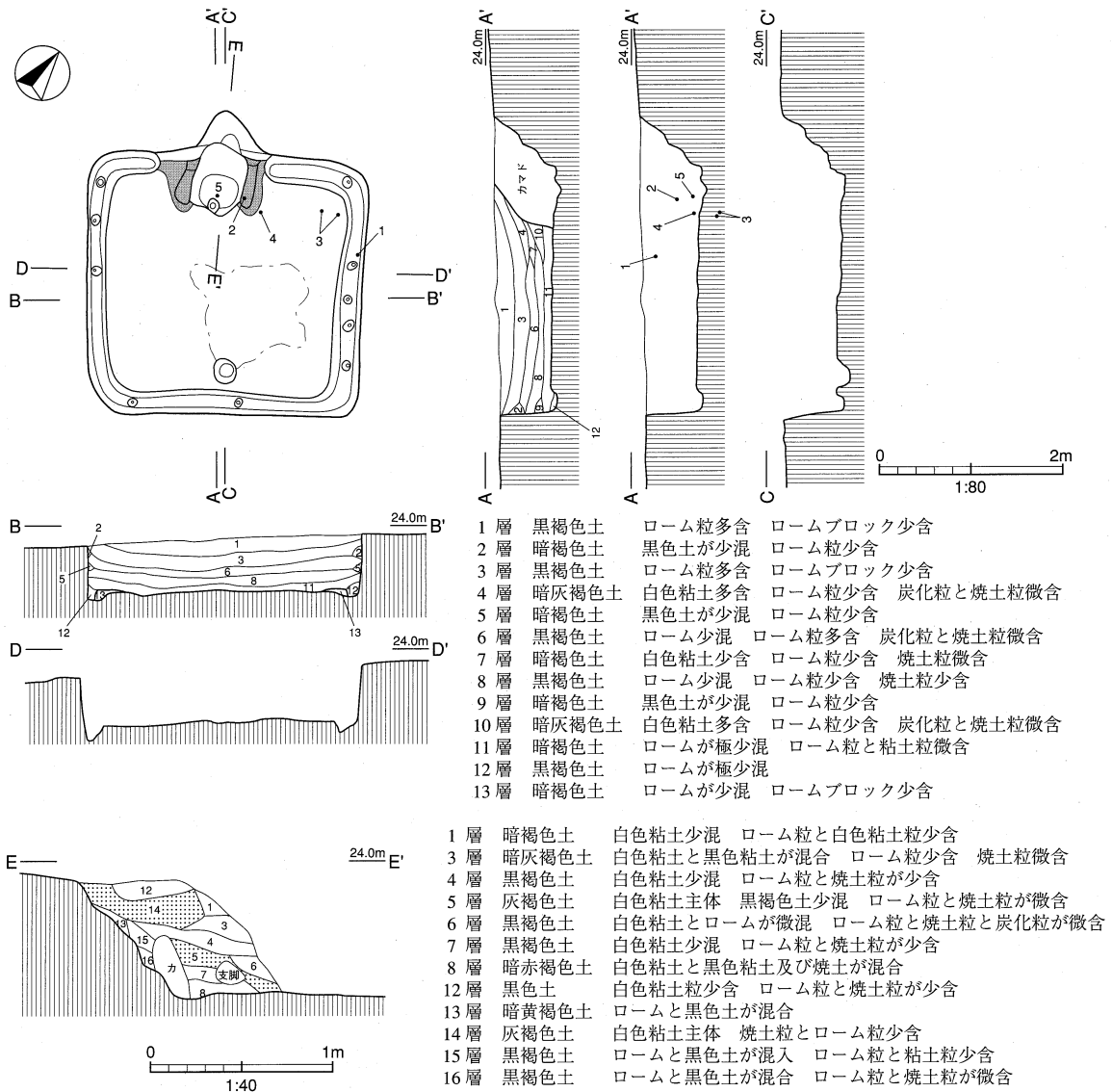


図114 A253

A253

検出地区 L5-26-3g、36-1gにて検出した。

遺構 長軸2.88m×短軸3.00m×壁高0.56m、方位はN-52° -Wを示す。平面形は隅丸長方形である。ハードロームを掘込み地床とし、全体的に硬化はするが、住居跡中央から出入口にかけて良好な硬化面を認めた。支柱穴は検出されず、竈袖下まで巡る周溝内に10基の壁柱穴を認めた。他の住居跡に比して壁柱穴は径あるものとなっていた。P1は出入口に伴うものである。竈は北西壁中央に、白色粘土を極めて多量に用いて築かれていた。袖内壁は焼土化している。竈ピットは掘込まれず、火熱痕のみの火床を検出した。煙道部は中間にテラスを設け、上部は垂直から急傾斜で立ち上がっている。煙道下部には火熱痕は認められなかった。覆土は、暗褐色土・黒褐色土を主体とした自然堆積であった。

遺物 全体的に点在し、出土遺物は少なかった。5の支脚は、火床の0.05m上から横倒して出土した。

所見 出土遺物から奈良・平安時代の所産と捉えた。

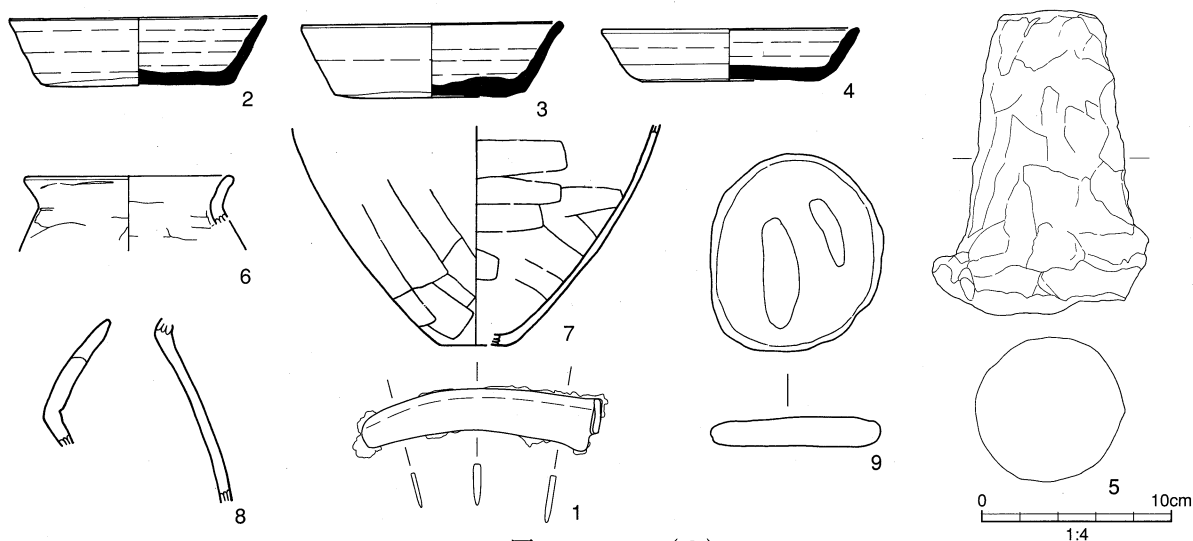


図115 A253 (2)

表40 A253遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 鉄器 鎌	長(122)×幅18~25×厚2~3			刃部	
2 須恵器 坏	134×95×36 ロクロ成形 断面逆台形状 広めの底部の浅い坏 外面 体部下端へラケズリ 底部へラケズリ	灰白 悪	砂粒 黒色粒	略完形	常陸産
3 須恵器 坏	138×101×39 ロクロ成形 断面逆台形状 口縁やや外反 外面 底部へラ切り後手持ちへラケズリ	外灰黒褐 ~灰白 内灰白 悪	砂粒 石英	略完形	常陸産
4 須恵器 坏	135×93×28 ロクロ成形 断面逆台形状 広い底部の浅い坏 外面 底部へラ切り後手持ちへラケズリ	灰茶褐 やや悪	砂粒 小石	4/5	常陸産 器面の磨耗顕著
5 土製品 支脚	上部径53×下部径114×器高162 重量1280g 円錐状を呈する 上面は平坦に整えられる へラなどによる調整がされる			完形	
6 土師器 小形甕	108×-×(40) 口縁外反 頸部「く」の字状 外面 口縁~頸部-横ナデ 胴上半へラケズリ 内面 口縁~頸部-横ナデ 胴上半へラケナデ	茶褐 普	砂粒	口縁~ 胴上半	
7 土師器 甕	-×(40)×(116) ごく薄手 外面 斜位(右下がり)を主とするへラケズリ 内面 へラナデ	外灰褐 内橙褐 良	長石赤色 スコリア 細粒 比較 的緻密	胴下半 ~底部	武蔵型
8 土師器 甕	-×-×- 外面 口縁-ナデ 頸部以下は乾燥が進んだ時点のへラケズリ 内面 へラナデ	橙褐 良	長石スコ リア細粒 比較的 緻密	口縁~ 胴部	武蔵型
9 石器 不明	長径80×短径68×器厚12 重量93.1g 表裏面に使用面あり 側面は敲打痕あり			完形	砂岩

A254

検出地区 L5-34-2・4g、35-3gにて検出した。

遺構 長軸3.42m×短軸3.40m×壁高0.72m、方位はN-27°-Wを示す。平面方は隅丸長方形である。竈と対面する南東壁が幅を有し、やや台形状ともなっている。ハードロームを掘込み地床とし、全体的に硬化するが、住居跡中央に小範囲であるが、極めて良好な硬化面を認めた。支柱穴は検出されず、

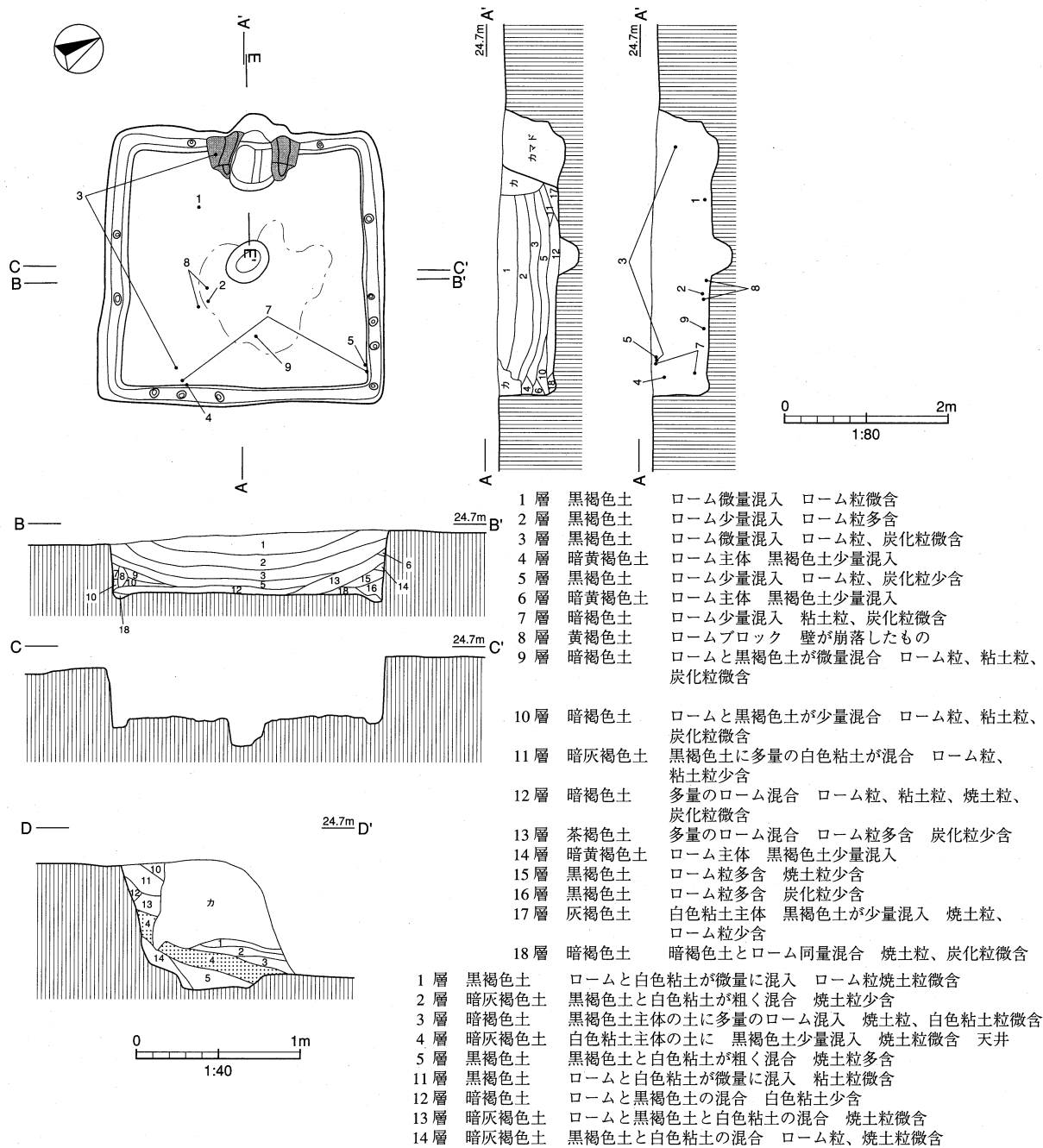


図116 A254

竈袖下まで巡る周溝内に12基壁柱穴を認めた。床の中央には略垂直に掘込まれたP1を検出したが、覆土はロームを主体とする突固められたものであった。竈は北西壁中央に白色粘土を主体として築かれ、竈袖内壁は焼土化していた。竈ピットが設けられ、坑底は火熱痕を認めたが、赤化した火床は検出されなかった。煙道部は壁を奥行きはないが、幅広く掘込まれていた。火熱痕は認められなかった。

遺物 全体的に出土量は住居跡としては少ないが、住居跡中央から南側に出土の主体を占めている住居跡北側の竈側では土師器小片がわずかに出土するのみである。

所見 出土遺物から奈良・平安時代の所産と捉えた。

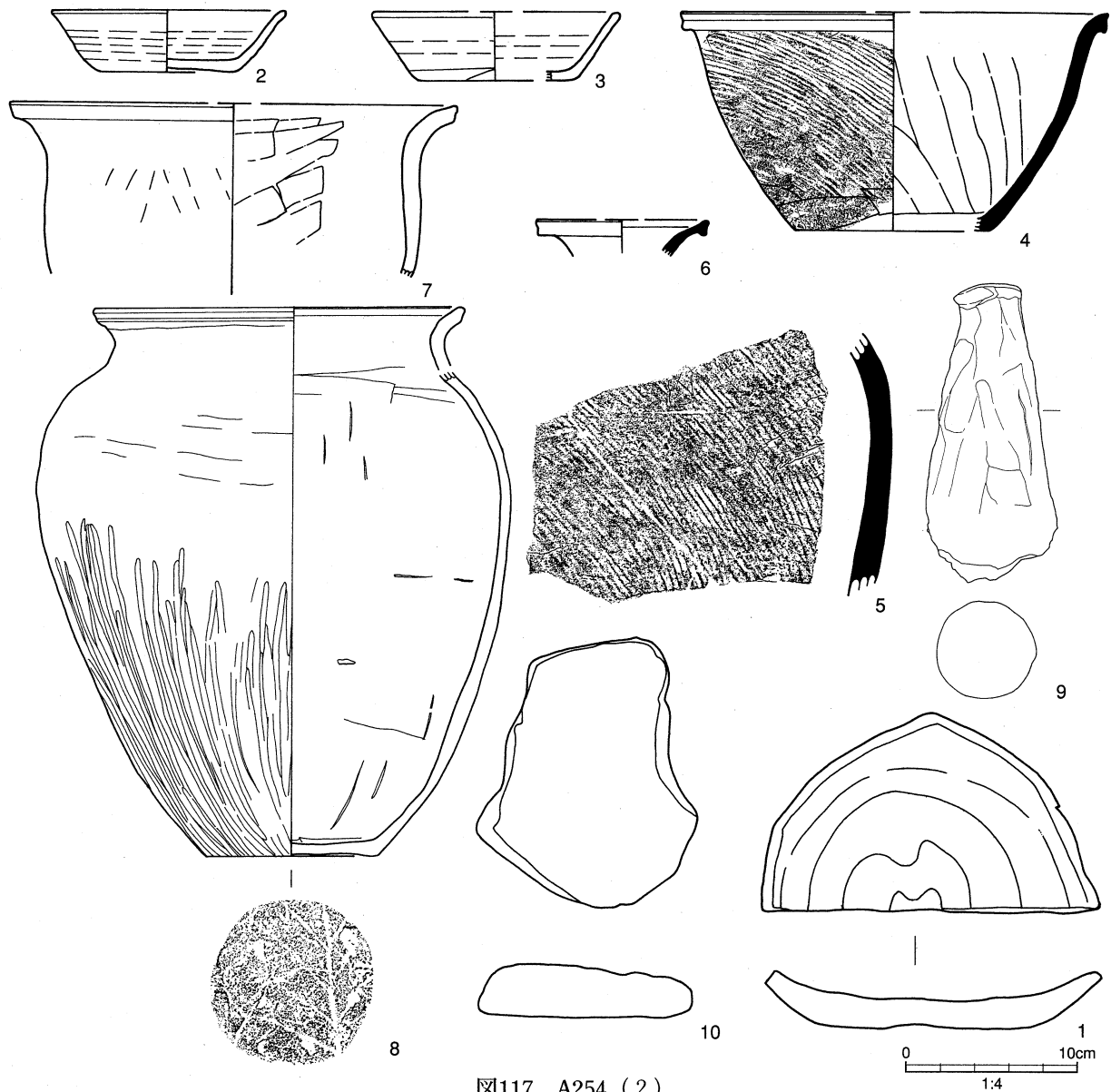


図117 A254 (2)

表41 A254遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 須恵器 坏	-× -× - ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 下半~底部-磨れている 内面 ナデ 体部下半~底部-使用面	灰良 堅緻	黒色粒 緻密	体部~ 底部	転用硯
2 須恵器 坏	135×80×36 ロクロ成形 外面 口縁-ナデ 底部-静止ヘラ切り 内面 口縁-ナデ	暗灰 良	石英 雲母細粒 やや粗	1/2	線刻「□」 底部外面
3 須恵器 坏	(144)×(90)×40 ロクロ成形 外面 口縁-ナデ 体部下端一回転ヘラケズリ 底部-静止ヘラ切り 内面 ナデ	暗褐 良 堅緻	雲母微細 粒 緻密	2/3	
4 須恵器 甕	(250)×(114)×127 外面 口縁-ナデ 胴部-平行タタキ 胴下半-ヘラケズリ 内面 口縁-ナデ 以下はヘラナデ	灰良	石英 雲母細粒 やや粗	1/4	常陸産
5 須恵器 甕	-× -× - 外面 胴部-平行タタキ 内面 胴部-当具痕	灰良	石英 雲母細粒 やや粗	胴部片	常陸産

6	須恵器 長頸壺	(100)× - × (21) ロクロ成形 内外面ともナデ (口縁部に自然釉付着?)	灰 良 堅緻	黒色粒 緻密	口縁片	
7	土師器 甕	(260)× - × (100) 口縁端部つまみ上げ 外面 口縁-ナデ 頸部以下ヘラケズリ後ヘラナデ 内面 口縁-ナデ 以下はヘラナデ	外灰 内茶褐 良	石英雲母 赤色スコ リア細粒 やや粗	口縁~ 胴上部	常総型
8	土師器 甕	(214)× 100× 321 口縁外反 上端つまみ上げられる 頸部「く」 の字状 外面凹線状に調整 胴上半が張る 外面 口縁~頸部-横 ナデ 胴上半-ヘラナデ 下半~下端-ヘラケズリ後ヘラミガキ 底 部-木葉痕 内面 口縁~頸部-横ナデ 胴部-ヘラナデ	橙褐 普	粗砂粒多	3/4	常総型
9	土製品 支脚	上部径40× 下部径-× 器高(175) 重量460g 円錐形を呈し、上面は平坦に整えられる ヘラによるケズリ及びナデ調整される			略完形	
10	石器 不明	長さ77× 幅65× 厚み15 重量22.1g 表裏、及び側面に使用面あり			完形	軽石

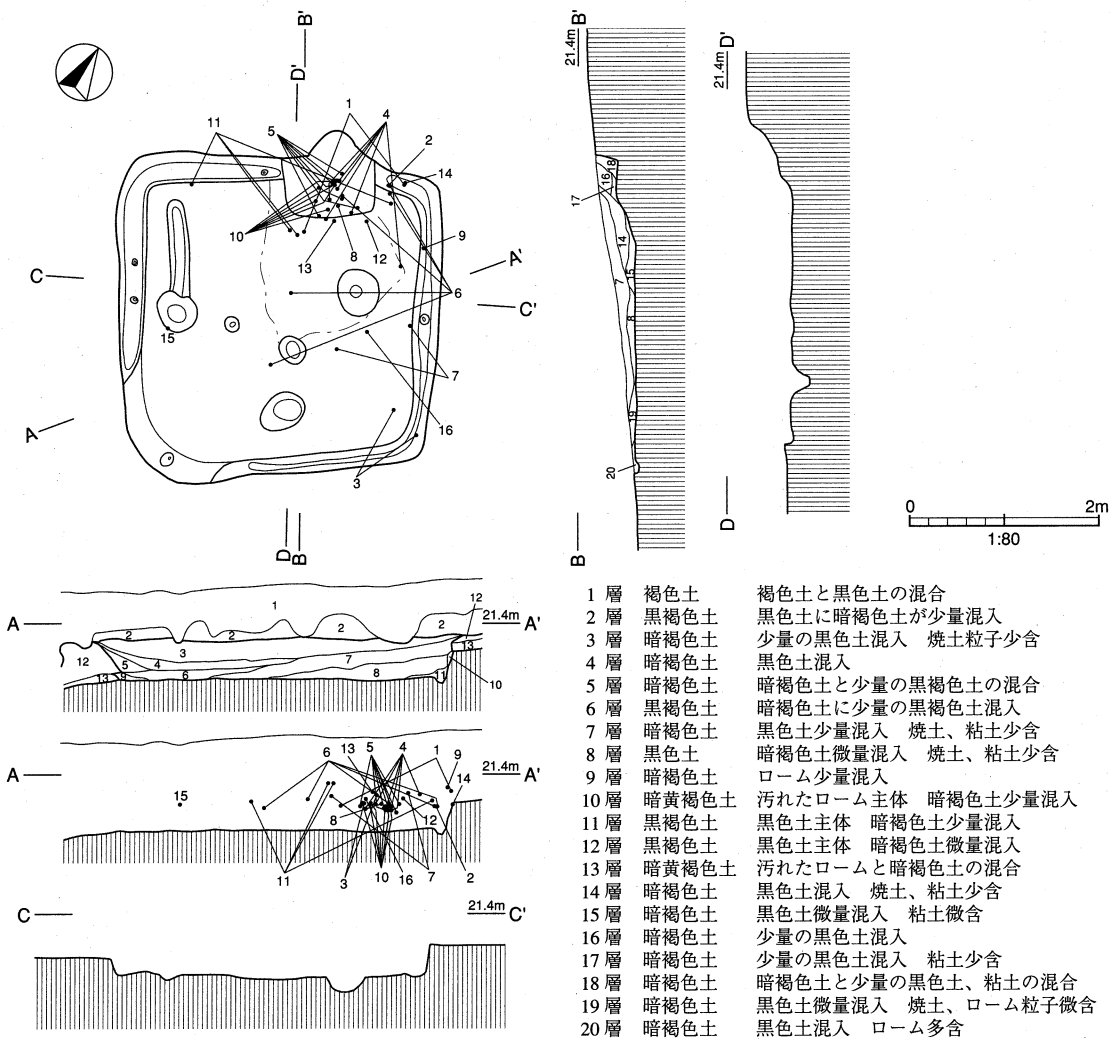
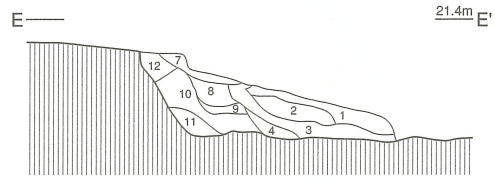
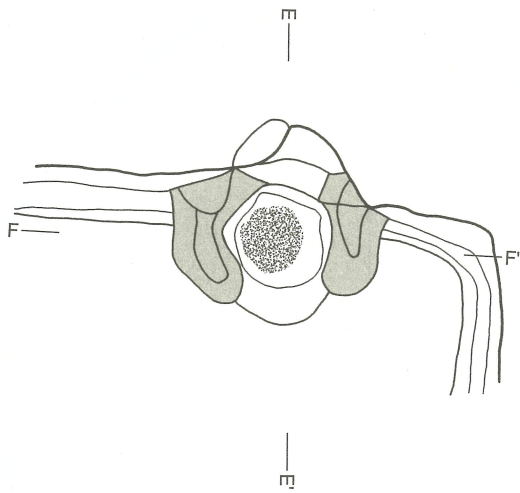


図118 A256

A256

検出地区 L4-5-1・2gにて検出した。

遺構 長軸3.4m×短軸3.4m×壁高0.4m、主軸方位はN-30° -Eを示している。平面形は隅丸方形である。床はロームを良く踏み固めた床で、住居壁際で硬化面が広範囲に広がる。床面にて小穴を5基検出した。P 1、2は柱穴、P 3は出入口施設に伴うピットと考えられる。周溝は、ほぼ全周する。壁



- |     |       |                     |
|-----|-------|---------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | 極少量の黒色土が滲むに混合       |
| 2層  | 暗褐色土  | 白色粘土多量含             |
| 3層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混合 焼土少含 |
| 4層  | 暗赤褐色土 | 焼土多量含               |
| 7層  | 暗褐色土  | 極黒色土が滲むように混合        |
| 8層  | 暗褐色土  | 黒色土が滲むように混合         |
| 9層  | 暗褐色土  | 黒色土と焼土が滲むように混合      |
| 10層 | 暗褐色土  | 白色粘土ブロック粗く混合        |
| 11層 | 暗褐色土  | 黒色土が滲むように混合         |
| 12層 | 暗褐色土  | 少量の褐色土が全体に滲むように混合   |

F— 21.4m F'

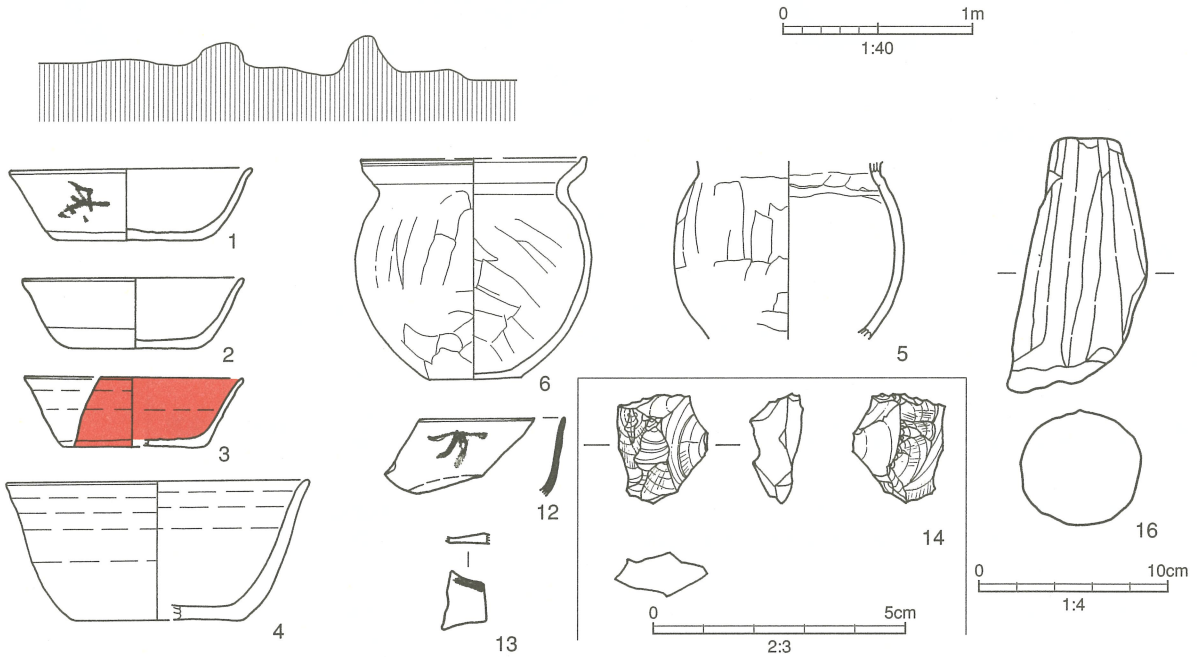


図119 A256 (2)

はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は、北壁やや東よりに築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込んで煙道とし、立ち上がりは急である。燃焼部では良好な火床を検出することが出来た。天井部に関しては平面、断面ともに明瞭に検出できる部分がなく、恐らくは破壊されたものと思われる。覆土は20層に分層され、自然堆積による埋没が想定される。

遺物 覆土下層から上層にかけて多量に出土した。赤色塗彩の土師器坏、墨書土器「万」等が出土している。

所見 出土遺物から奈良～平安時代の住居跡と判断した。周溝、ピットの配置から建て替えが行われたと考えられる。



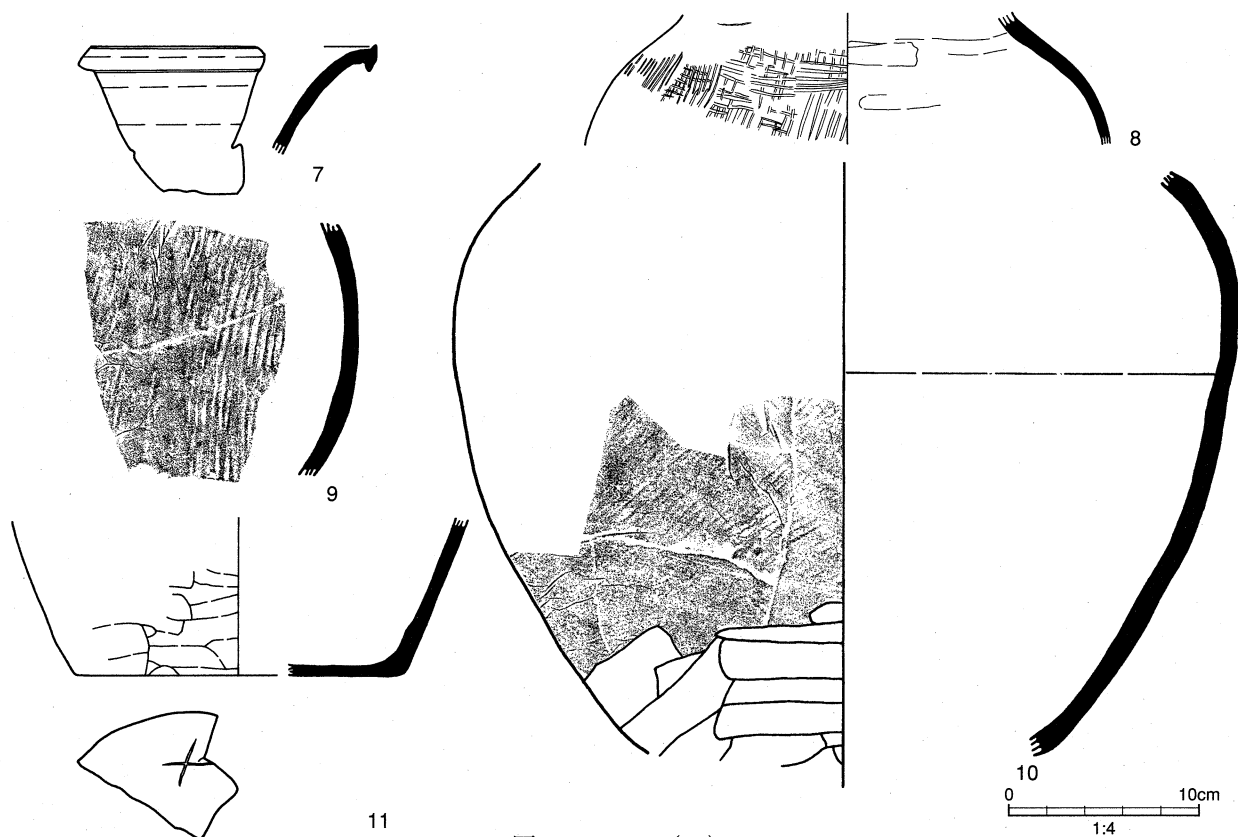


図120 A256 (3)

42表 A256遺物観察表

(単位 m m)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 坏	123×72×38 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	橙褐 普	緻密	完形	
2 土師器 坏	115×67×37 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	暗橙褐 普	緻密	略完形	口縁内面スス付着 灯明皿か?
3 土師器 坏	(116)×(76)×37 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ	外褐 内赤褐	緻密	口縁~ 底部	赤彩
4 土師器 坏	158×91×75 ロクロ成形 底部より直線的に立ち上がり口縁やや外反 底部-回転ヘラケズリ 内外面とも器面の摩耗が進む	暗赤褐 普	砂粒 白色粒	3/4	
5 土師器 小型甕	-×-× (94) 球胴状 外面 頸部-横ナデ 胴上半-縦位のヘ ラケズリ 胴下半-横位のヘラケズリ 内面 頸部-横ナデ 胴上半-ヘラナデ 頸部と胴部の境に輪積痕	暗赤褐 普	砂粒 白色粒	1/3	
6 土師器 小型甕	(119)×(50)×117 球胴状 口縁外反し上端つまみ上げられる 外面 は凹線状に調整 頸部は「く」の字状 外面 口縁~頸部-ヨコナデ 胴上半-縦位のヘラケズリ 胴下半~下端-縦位のヘラケズリ 内面 口縁~頸部-横ナデ 胴上半~下端-ヘラナデ	外暗茶褐 内茶褐 やや悪	砂粒 赤色粒	1/3	
7 須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形	灰 良	緻密	口縁片	
8 須恵器 甕	-×-× (69) 肩部ならかに傾斜する 外面 頸部-横ナデ 胴上半-平行タタキ 内面-ナデ	暗灰 普	粗砂粒 石英	胴部片	
9 須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 タタキ目 内面 指頭痕	灰 良	石英 長石少	胴部片	

10	須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 胴上半-タタキ目 下半-ヘラケズリ	橙褐 良	緻密	胴部片	
11	須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 胴部下半~下端-ヘラケズリ 底部-ヘラケズリ	灰 良	緻密	胴部~ 底部	銘書「×」 底部外面
12	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	橙褐 普	緻密	口縁片	墨書「万」 体部外面正位
13	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	橙褐 普	緻密	底部片	墨書「□」 底部外面
14	土製品 支脚	上部径35×下部径-×器高(134) 重量415g 断面は楕円形の円筒状	淡褐 悪	粗		
16	石器 剥片	長軸22×短軸18×厚さ9 重量2.9g 小型の不定形剥片 明瞭な加工痕、使用痕は認められない			完形	黒曜石

#### A257

検出地区 L4-76-2・4g、77-1・2gにて検出した。

遺 構 長軸4.5m×短軸4.6m×壁高0.64m、主軸方位はN-75° -Wを示している。平面形は方形で典型的な4本柱の住居跡である。床はロームを良く踏み固めた床で、住居跡中央で硬化面が広範囲に広がる。周溝は全周する。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は西壁ほぼ中央で築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込んで煙道としていたものと思われるが、溝と重複しているため、詳細は不明。燃焼部では良好な火床を検出することが出来た。天井部は断面で明瞭に捉えることができ、土層の観察から竈は自然崩壊したものと考えられる。覆土は16層に分層され、自然堆積による想定される。

遺 物 床面直上~覆土上層にかけて多量に出土した。須恵器の出土が目立つ。刀子が1点出土した。

所 見 出土遺物から奈良~平安時代の住居跡と判断した。

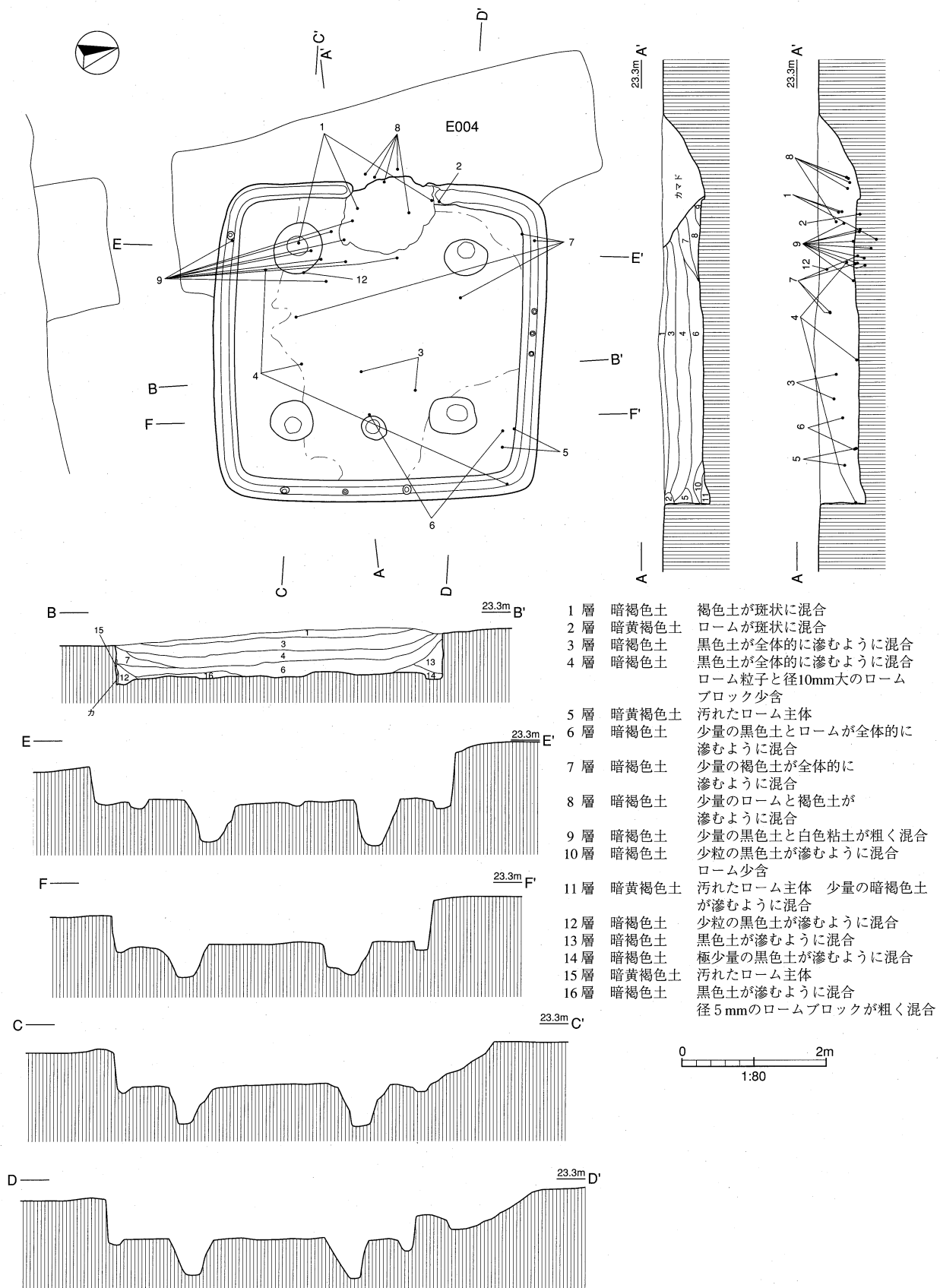
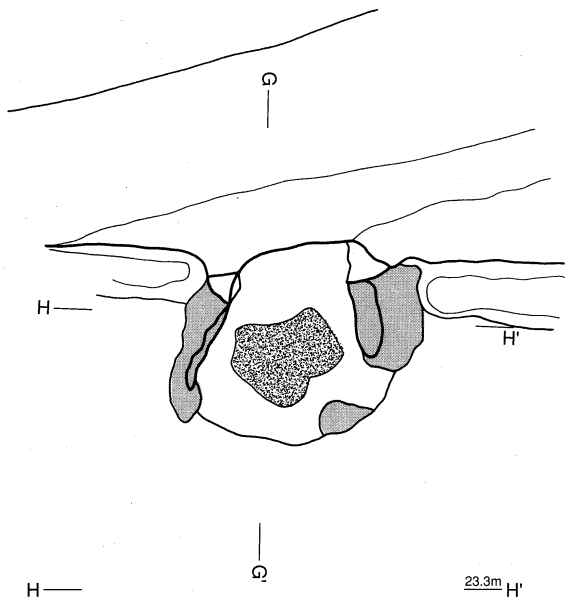
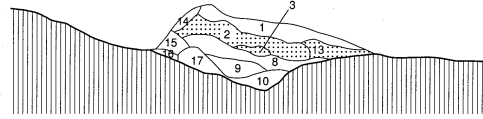


図121 A257



G— 23.3m G'



- 1層 暗褐色土 粘土 にぶいローム 黒褐色土が混入
- 2層 暗灰褐色土 粘土多量含 粘土に焼けた焼土混入
- 3層 暗灰褐色土 粘土に焼けた焼土混入
- 8層 暗褐色土 焼土粒多含
- 9層 暗赤褐色土 焼土
- 10層 暗黄褐色土 火を受けたロームブロック多含
- 13層 暗灰褐色土 粘土多含 褐色土混合
- 14層 暗褐色土 粘土含 暗褐色土主体
- 15層 暗褐色土 焼土粒 ローム粒含
- 16層 褐色土 焼土粒多含
- 17層 褐色土 焼土粒多含 ロームブロック少量

H— G' 23.3m H'

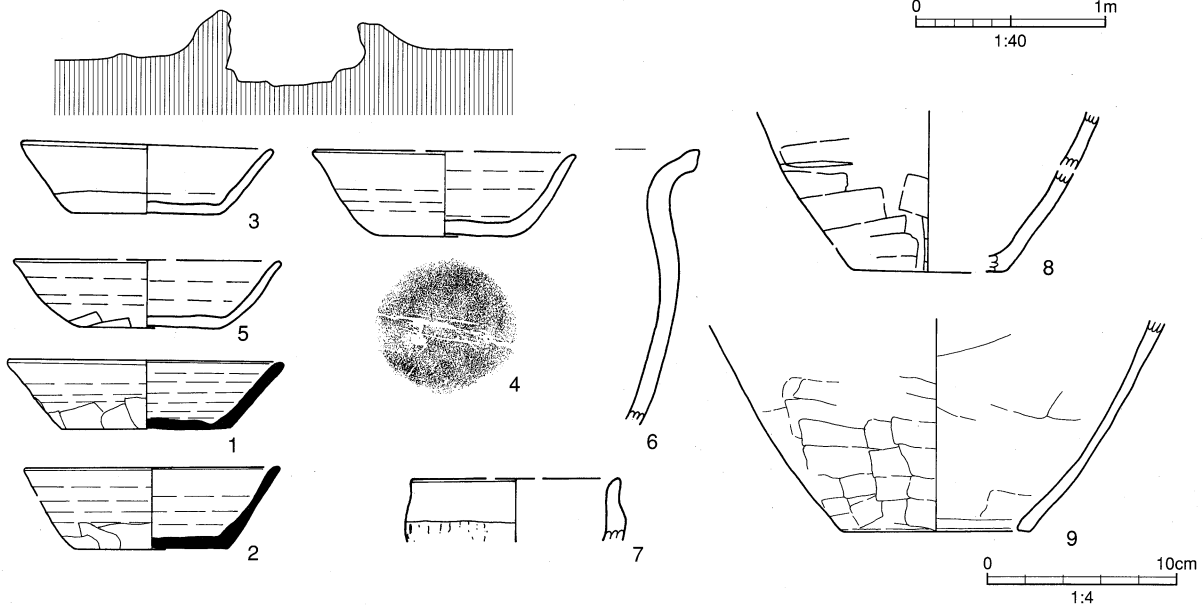


図122 A257 (2)

表43 A257遺物観察表

(単位 m m)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 須恵器 坏	143×88×38 回転台(ロクロ?) 体部外傾 口縁やや内湾 底部内面、体部との境がくぼみ、中央やや盛り上がる 外面 体部下端へラケズリ 底部へラケズリ	灰白 悪	砂粒 雲母	略完形	
2 須恵器 坏	133×80×44 回転台(ロクロ?) 口縁外反 口唇内削ぎ状 底部内面、体部との境がくぼむ	灰茶褐 やや悪	粗砂粒 雲母多	2/3	
3 須恵器 坏	132×80×36 ロクロ成形 外面 胴部下端へラケズリ 底部へラケズリ	暗褐色 良	緻密	3/4	
4 須恵器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面 底部へラケズリ	灰白色 良	緻密	口縁～ 底部片	篋書 「□」 底部外面

5	須恵器 坏	(140)×75×35 ロクロ成形 外面 底部下端-手持ちヘラケズリ 底部-静止ヘラケズリ	灰色 普	砂粒	底部片	
6	須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形	外灰色 内褐色 普	長石・石 英・砂粒	口縁片	
7	土師器 鉢	110×-×- ロクロ成形 外面 口縁-ナデ	外褐色 内黒色 良	緻密	口縁片	
8	土師器 甕	-×(80)×(83) ロクロ成形 外面 胴部下端-横位のヘラケズリ	外暗褐色 内褐色 普	砂礫少量 含む	胴部片	
9	土師器 甕	-×99×113 単孔の甕 外面 胴部下半-ナデ 胴部下端-ヘラケズリ 内面 胴部下半-ヘラナデ	茶褐 普	粗砂粒 雲母多	胴部~ 底部片	

### A258

検出地区 L4-86-1~4gにて検出した。

遺構 長軸3.6m×短軸3.4m×壁高0.46m、主軸方位はN-65°-Wを示している。平面形は隅丸方形の住居跡である。床はロームを良く踏み固めた床で、住居跡中央で硬化面が広範囲に広がる。床面に於て小穴を5基検出した。P1、2、3は出入口施設に伴うピットと考えられる。周溝は全周する。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は西壁ほぼ中央で築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込んで煙道とし、立ち上がりはなだらかである。燃烧部では良好な火床を検出することが出来た。天井部は断面で明瞭に捉えることができ、土層の観察から竈は自然崩壊したものと考えられる。覆土は18層に分層された。床面直上~覆土下層にかけて多量の焼土、粘土等を検出していることから人為的な埋め戻しの後、自然堆積による埋没が進んだと考えられる。

遺物 床面直上~覆土下層にかけて多量に出土した。墨書土器が多数出土し、中でも住居東壁側の床面直上~覆土下層で長文の墨書土器が2点(29・40)出土している(「丈部申万」、「丈部角万呂」)。また、覆土上層からは、金属製品も出土している。

所見 出土遺物から奈良~平安時代の住居跡と判断した。

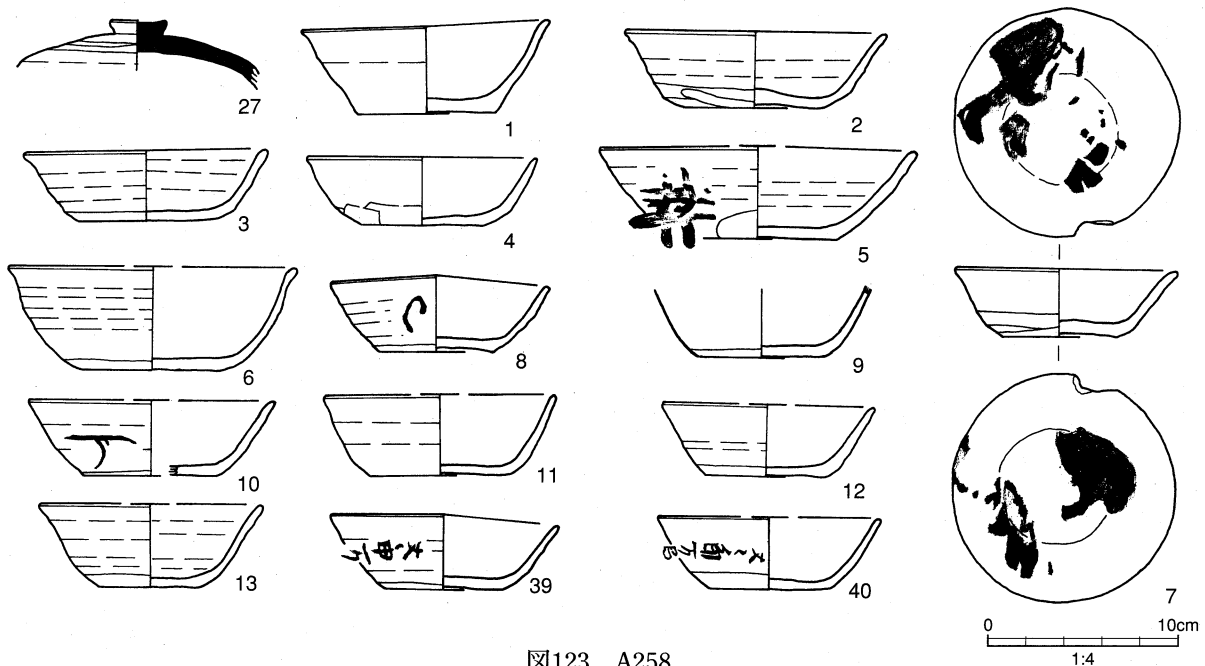
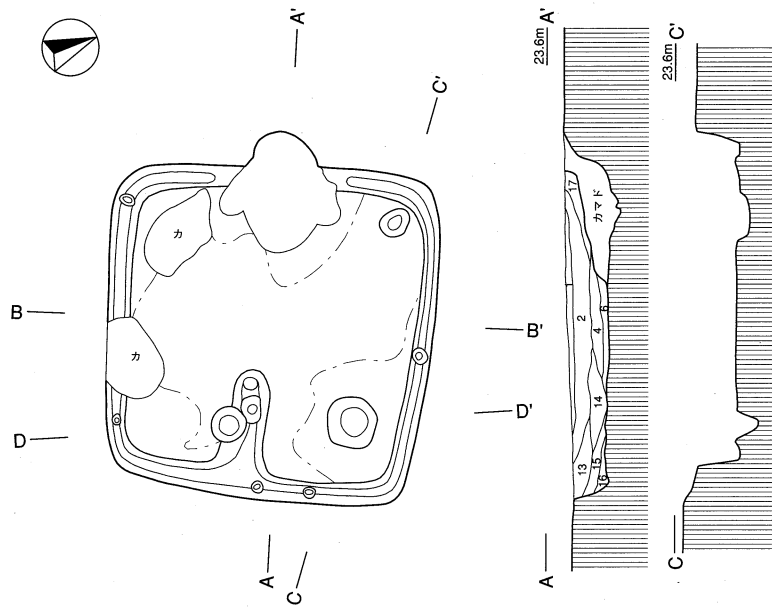
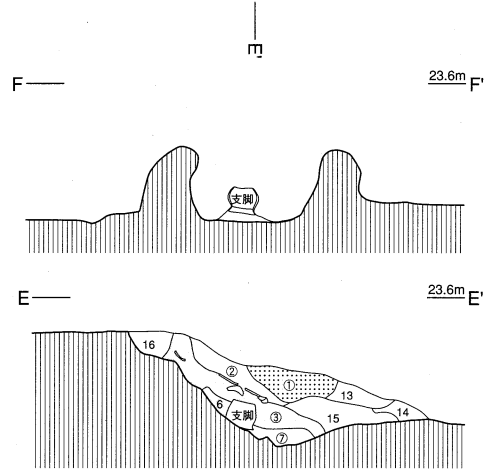
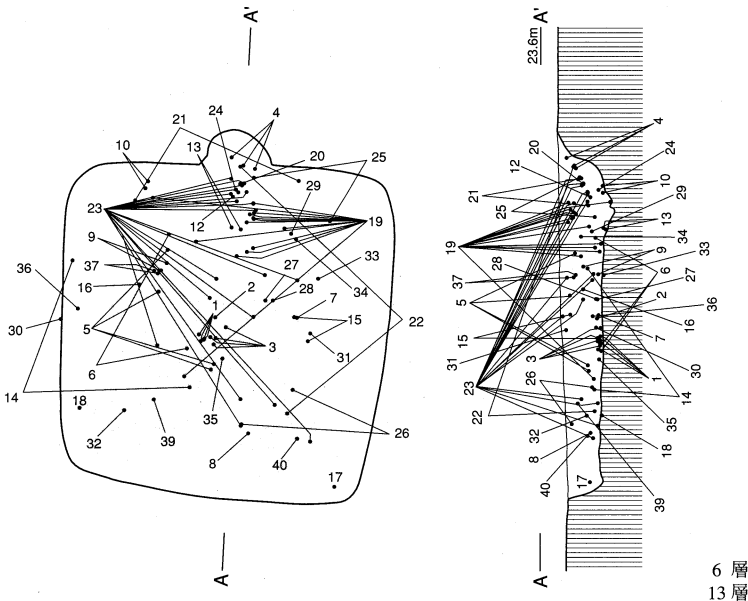
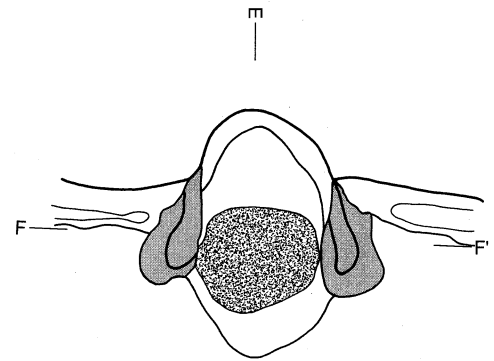
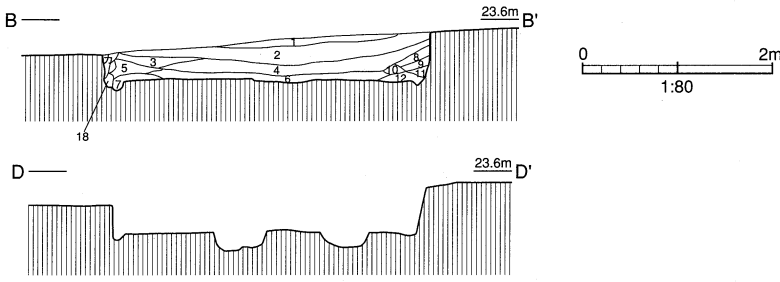


図123 A258



- |     |       |                                  |
|-----|-------|----------------------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混合                   |
| 2層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混合                   |
| 3層  | 暗褐色土  | 多量の黒色土が滲むように混合                   |
| 4層  | 黒褐色土  | 多量の暗褐色土が滲むように混合<br>径20mm大のロームが少含 |
| 5層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土                           |
| 6層  | 暗赤褐色土 | 少量の黒色土 焼土少含                      |
| 7層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土斑状に少含                      |
| 8層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土滲むように少含                    |
| 9層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土粗く混合                       |
| 10層 | 暗黄褐色土 | 汚れたローム主体 暗褐色土滲むように少含             |
| 11層 | 暗黄褐色土 | 汚れたローム主体                         |
| 12層 | 暗褐色土  | 黒色土が全体に滲むように混合<br>ロームブロック含       |
| 13層 | 暗褐色土  | 黒色土が全体に滲むように混合                   |
| 14層 | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混合                   |
| 15層 | 暗赤褐色土 | 黒色土と焼土が滲むように混合                   |
| 16層 | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混合                   |
| 17層 | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混合<br>白色粘土           |
| 18層 | 暗黄褐色土 | 汚れたローム主体                         |



- |     |       |                       |
|-----|-------|-----------------------|
| 6層  | 暗茶褐色土 | 焼土粒子主体 焼土ブロック混入       |
| 13層 | 暗褐色土  | 砂状粘土粒子多含              |
| 14層 | 暗茶褐色土 | 焼土粒子焼土ブロック多混入         |
| 15層 | 黒褐色土  | にぶいローム・焼土粒子混入 炭化物も一部見 |
| 16層 | 褐色土   | ローム・焼土粒子多含            |

\* 3層が焚口から煙道に至る部分であろう  
 ①・②層がカマドの天井部であろう 粘土は砂を多く含んだものである  
 ⑦層は燃焼室であるが、比較的良好に焼けている

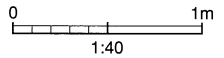


図124 A258 (2)

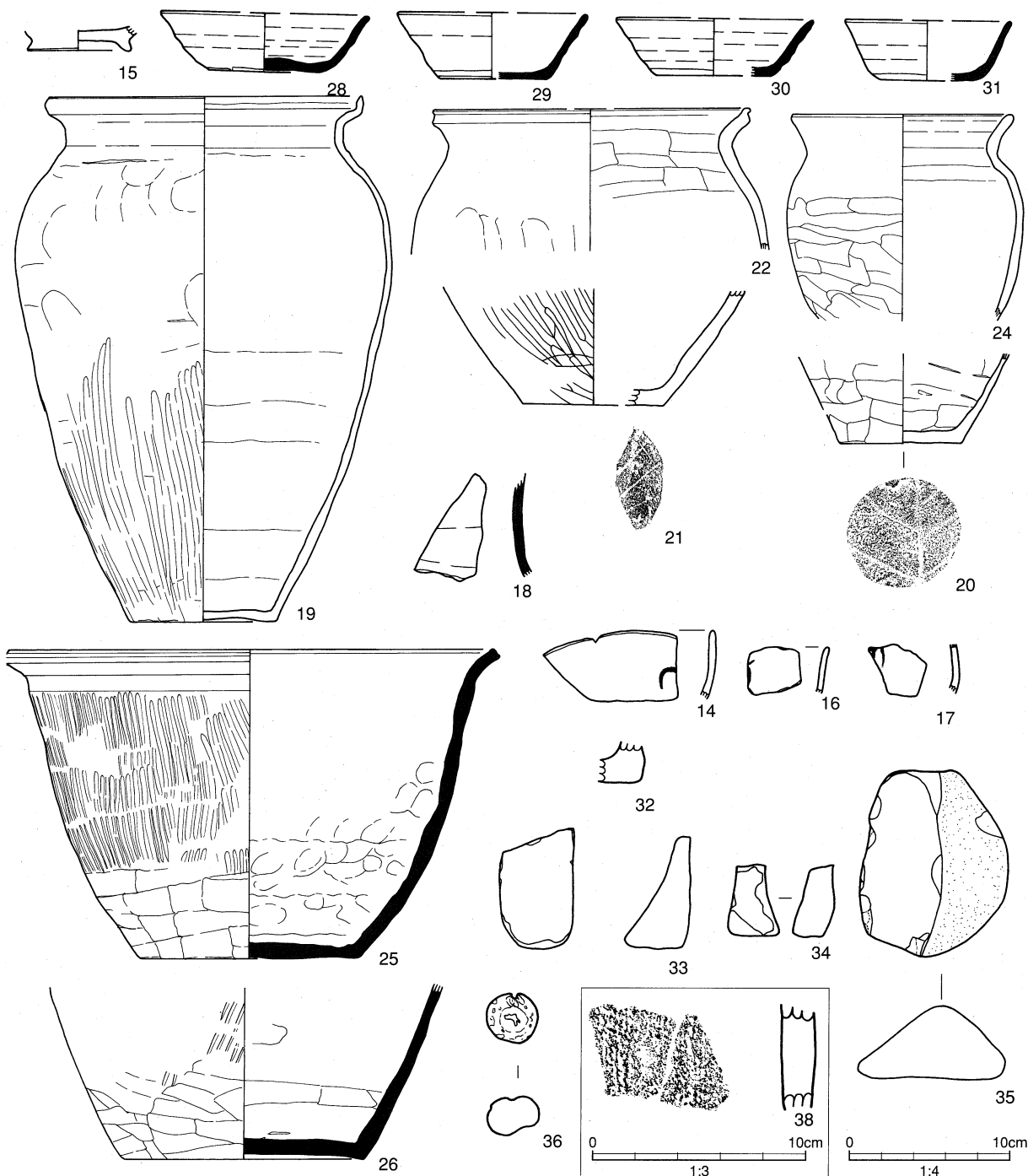


図125 A258 (3)

表44 A258遺物観察表

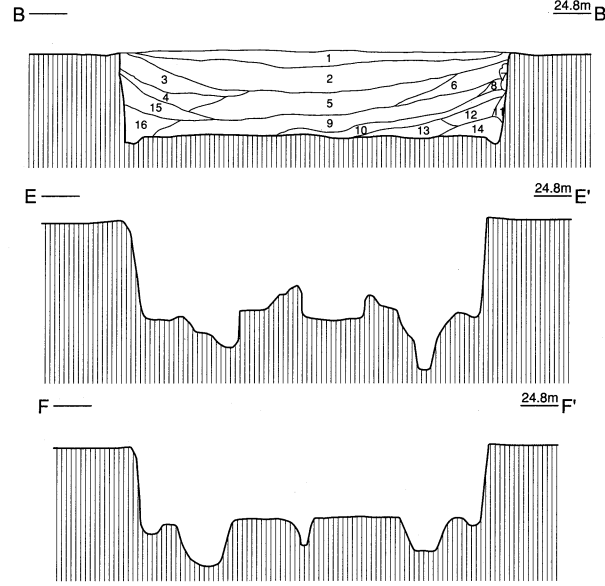
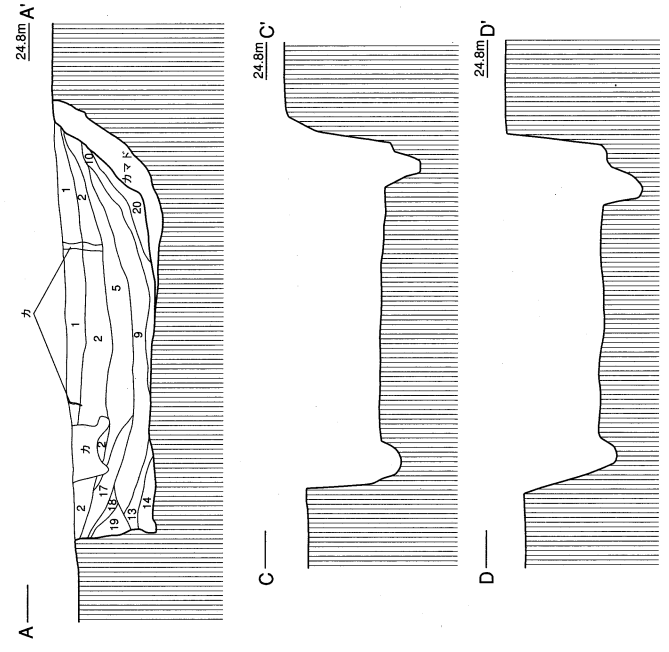
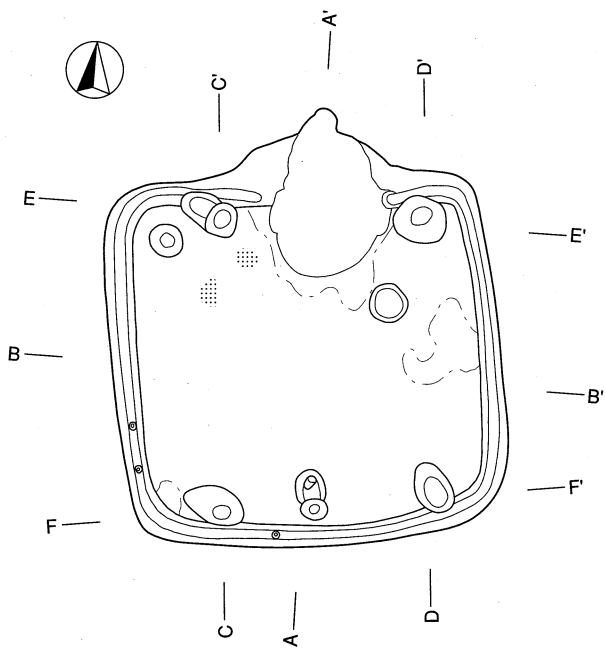
(単位 m m)

種別 器形	法量 成形・調整等の特徴	口径×底径×器高	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 坏	ロクロ成形 外面 底部一回転糸切り	133×74×47	橙褐 普	緻密	略完形	
2 土師器 坏	ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-静止ヘラ切り	139×75×40	橙褐 普	緻密	完形	
3 土師器 坏	ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り	129×73×38	橙褐 普	緻密	4/5	

4	土師器 坏	121×64×36 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラ切り	橙褐 普	緻密	略完形	
5	土師器 坏	(168)×85×49 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	外淡褐 内黒 良	緻密	1/2	墨書「□」 体部外面 内黒
6	土師器 坏	(153)×75×55 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラケズリ 内面 ミガキ	外褐 内黒 普	緻密	1/5	内黒
7	土師器 坏	117×60×36 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラ切り 回転ヘラケズリ	褐 普	雲母微 緻密	略完形	内外面にスス状 炭化物付着 口 縁欠損 灯明皿 として使用か？
8	土師器 坏	116×60×40 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ			完形	墨書「□」 体部外面
9	土師器 坏	—×65×(36) ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	淡褐 良	緻密	体部～ 底部	
10	土師器 坏	(130)×(70)×40 ロクロ成形 外面 底部一回転糸切り ヘラケズリ	淡褐 普	緻密	1/4	墨書「□」 体部外面
11	土師器 坏	(122)×(74)×43 ロクロ成形 外面 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	口縁～ 底部	
12	土師器 坏	(112)×(64)×38 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り 回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	口縁～ 底部	
13	土師器 坏	(113)×(55)×44 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラ切り	橙褐 普	緻密	口縁～ 底部	
14	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形	淡褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
15	土師器 高台付坏	—×64×(12) ロクロ成形 内面 底部—ミガキ	外褐 内黒褐 普	緻密	底部片	内黒
16	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
17	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 内面 ミガキ	外褐 内黒 良	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面 内黒
18	土師器 高坏	—×—×— ロクロ成形	褐 良	緻密	胴部片	
19	土師器 甕	195×90×330 口縁受け口状 外面 口縁～頸部—横ナデ 胴上半—ヘラナデ 胴下半～下端—ヘラケ ズリ後ヘラミガキ 内面 口縁～頸部—横ナデ 胴部—ヘラナデ	橙褐 普	粗砂粒 雲母	3/4	
20	土師器 甕	—×77×(56) 外面 胴下端—ヘラケズリ 底部—木葉痕 内面 胴下端—ヘラナデ 底部—一部輪積痕あり	橙褐 普	粗砂粒多 石英	胴部～ 底部片	
21	土師器 甕	—×—×— 輪積 外面 胴下半—縦位のヘラケズリ 底部—木葉痕	橙褐 普	砂粒 赤色スコ リア	胴部～ 底部	



22	土師器 甕	(199) × - × (89) 口縁受け口状 上端つまみ上げられ外面凹線状に調整 内外面とも口縁~頸部~横ナデ 胴上半~ヘラナデ	橙褐 普	粗砂粒 雲母	口縁~ 胴部片	
24	土師器 甕	138 × - × (129) 口縁外反 口唇肥厚する 頸部緩やかな「く」の字状 外面 口縁~頸部~横ナデ 胴部~ヘラケズリ 内面 口縁~頸部~横ナデ 胴部~ヘラナデ	橙褐 普	砂粒少	4/5	
25	須恵器 甕	302 × 135 × 195 最大径を口縁に持つ鉢型 口縁下端稜を有する 上端はつまみ上げられた三角状を呈する 外面 口縁~頸部~横ナデ 胴上半~平行タタキ 下端~ヘラケズリ内面 口縁~頸部~横ナデ 胴部~ナデ 指頭圧痕 輪積痕あり	灰褐 悪	粗砂粒多	3/4	
26	土師器 甕	- × (150) × (111) 外面 胴下半~平行タタキ 下端~ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	灰茶褐 良	砂粒 白色粒	胴部~ 底部片	
27	須恵器 蓋	- × つまみ径29 × - ロクロ成形 外面 ヘラケズリ調整	灰 良	砂粒少	体部片	常陸産
28	須恵器 坏	(130) × 70 × 37 ロクロ成形 外面 体部下端~手持ちヘラケズリ 底部~回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリ	暗灰 普	緻密	1/3	転用硯か?
29	須恵器 坏	(120) × (68) × 42 ロクロ成形 外面 体部下端~手持ちヘラケズリ 底部~回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリ	暗灰 良	砂粒少	1/2	
30	須恵器 坏	(124) × (72) × 36 ロクロ成形 外面 体部下端~回転ヘラケズリ 底部~回転ヘラケズリ	灰褐 良		口縁~ 底部	
31	須恵器 坏	(104) × (60) × 38 ロクロ成形 外面 体部下端~回転ヘラケズリ 底部~回転ヘラケズリ	灰褐 普	緻密	口縁~ 底部	
32	手捏ね 坏	- × - × (22) 外面 底部~木葉痕	褐 普		底部片	
33	石製品 砥石	長さ76 × 幅46 × 厚さ40 重量129.7g				流紋岩製
34	石製品 砥石	長さ45 × 幅33 × 厚さ26 重量38.6g				
35	石製品 砥石	長さ117 × 幅93 × 厚さ45 重量650.0g				
36	軽石	長さ22 × 幅33 × 厚さ23 重量7.3g 細く深い削痕が数カ所にあり、砥石として使用か?				
37	鉄器 釘	長軸64 × 短軸6.0 × 厚さ5.5 重量4.9g 4.5 4.5				
38	縄文 深鉢	- × - × -			胴部片	撚糸文
39	土師器 坏	120 × 62 × 39 ロクロ成形 外面 体部下端~回転ヘラケズリ 底部~回転糸切り 回転ヘラケズリ	橙褐 普	緻密	2/3	墨書 「丈部申万」 体部外面正位
40	土師器 坏	(118) × 63 × 38 ロクロ成形 外面 体部下端~回転ヘラケズリ 底部~回転糸切り 回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	1/2	墨書 「丈部角万呂」 体部外面横位



- |     |       |                              |
|-----|-------|------------------------------|
| 1層  | 褐色土   | 少量の暗褐色土が滲むように混入              |
| 2層  | 暗褐色土  | 少量の褐色土が滲むように混入               |
| 3層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混入 褐色土が斑状に混合     |
| 4層  | 暗褐色土  | 褐色土が滲むように全体に混入               |
| 5層  | 暗褐色土  | 多量の黒色土が全体に滲むように混入            |
| 6層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混入               |
| 7層  | 暗黄褐色土 | 少量の暗褐色土が滲むように混入              |
| 8層  | 暗褐色土  | 暗褐色土と褐色土が均一に混合 ローム少含         |
| 9層  | 暗褐色土  | 極少量の黒色土が滲むように混入 ローム多含        |
| 10層 | 暗褐色土  | 黒色土が全体に滲むように混入 ローム少含         |
| 11層 | 暗褐色土  | 多量のロームが粗く混合                  |
| 12層 | 暗褐色土  | 少量の褐色土と少量の黒色土が滲むように混入        |
| 13層 | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混入 ローム少含         |
| 14層 | 暗褐色土  | 極少量の黒色土が滲むように混入 ローム多含        |
| 15層 | 暗褐色土  | 褐色土が全体に滲むように混入 ローム少含         |
| 16層 | 暗褐色土  | 極少量の暗褐色土が滲むように混入             |
| 17層 | 暗褐色土  | 極少量の褐色土が滲むように混入              |
| 18層 | 暗褐色土  | 極少量の黒色土が滲むように混入              |
| 19層 | 暗褐色土  | 少量の黒色土と極少量の褐色土が滲むように混入 ローム少含 |
| 20層 | 暗褐色土  | 少量の黒褐色土が滲むように混入 ローム少含 白色粘土含  |

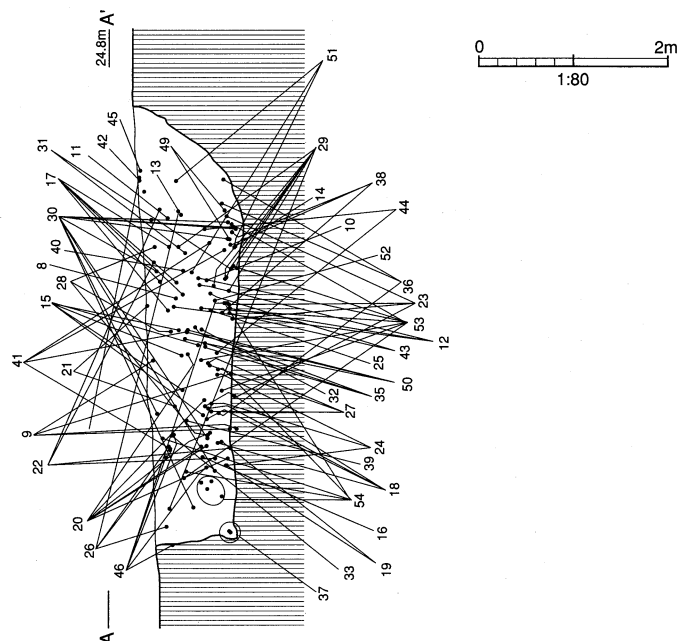
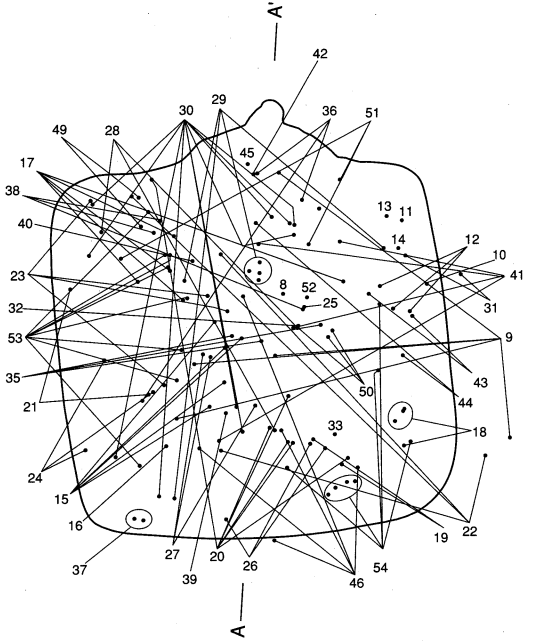
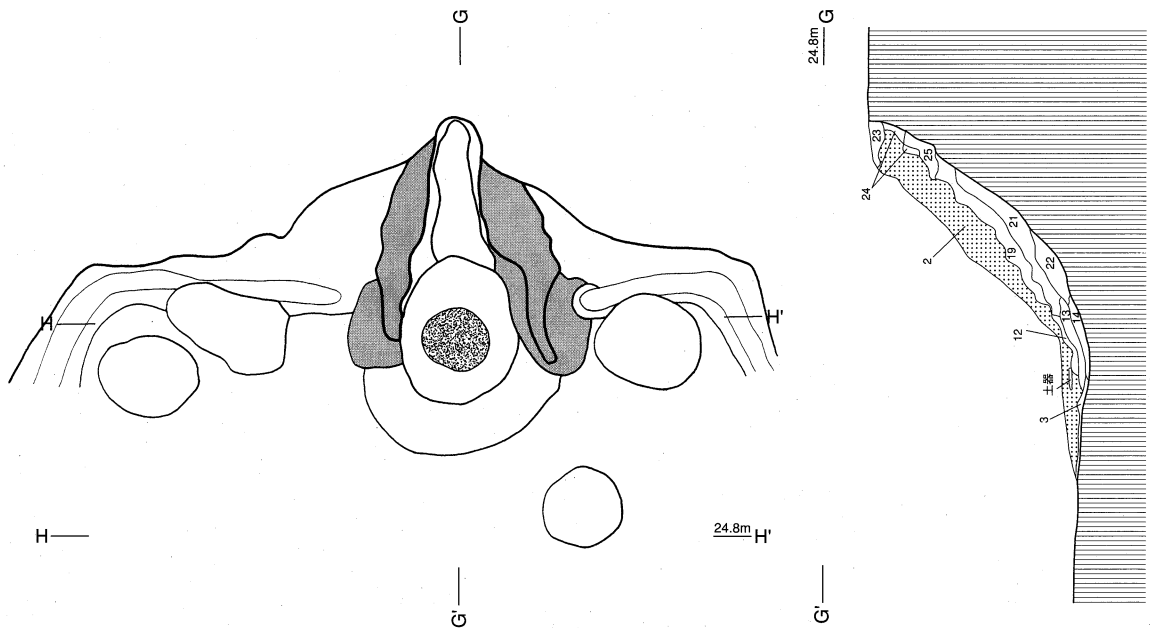


図126 A260



- |     |       |                        |
|-----|-------|------------------------|
| 2層  | 灰褐色土  | 天井ブロックの粘土              |
| 3層  | 暗褐色土  | 炭化物、焼土多含               |
| 12層 | 暗灰褐色土 | 粘土主体 焼土、焼土ブロック混入       |
| 13層 | 暗茶褐色土 | 焼土多含                   |
| 14層 | 黒褐色土  | 炭化物多含                  |
| 19層 | 暗灰褐色土 | 粘土多含                   |
| 21層 | 黒褐色土  | 炭化物、焼土ブロック含            |
| 22層 | 褐色土   | 炭化物含                   |
| 23層 | 暗褐色土  | 粘土粒極少含                 |
| 24層 | 暗灰褐色土 | 粘土主体 径30mm大の黒褐色土ブロック混入 |
| 25層 | 褐色土   | 粘土と黒色土ブロック混合           |

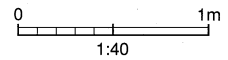


図127 A260 (2)

### A260

検出地区 L4-94-4gにて検出した。

遺構 長軸4.0m×短軸4.1m×壁高0.94m、主軸方位はN-7° -Wを示している。平面形は隅丸方形の住居跡で、深い。床はロームを良く踏み固めた床で、硬化面が広範囲に広がる。床面にて小穴を7基検出した。P1～4は柱穴、P5は出入口施設に伴うピットと考えられる。周溝は全周する。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は北壁ほぼ中央で築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込み煙道とし、立ち上がりは比較的急傾斜である。燃烧部では良好な火床を検出することが出来た。天井部は断面で明瞭に捉えることができた。床面直上～覆土下層にかけて粘土が散っていたことから、竈は壊されたものと考えられる。覆土は20層に分層され、床面直上～覆土下層にかけて焼土、粘土等を検出していることから人為的な埋め戻しが想定される。

遺物 床面直上～覆土上層にかけて多量に出土した。墨書土器が多数出土し、中でも住居南壁側覆土上層で長文の墨書土器(46)が出土し人面墨書土器である。同様に住居中央覆土中層で須恵器の長文墨書が出土している(25)ている。また、覆土中から金属製品も出土している。

所見 出土遺物から奈良時代の住居跡と判断した。出土遺物の様相はA260と類似している。覆土上層の遺物と下層の遺物が接合していることから埋め戻しは一気に行われたものと考えられる。

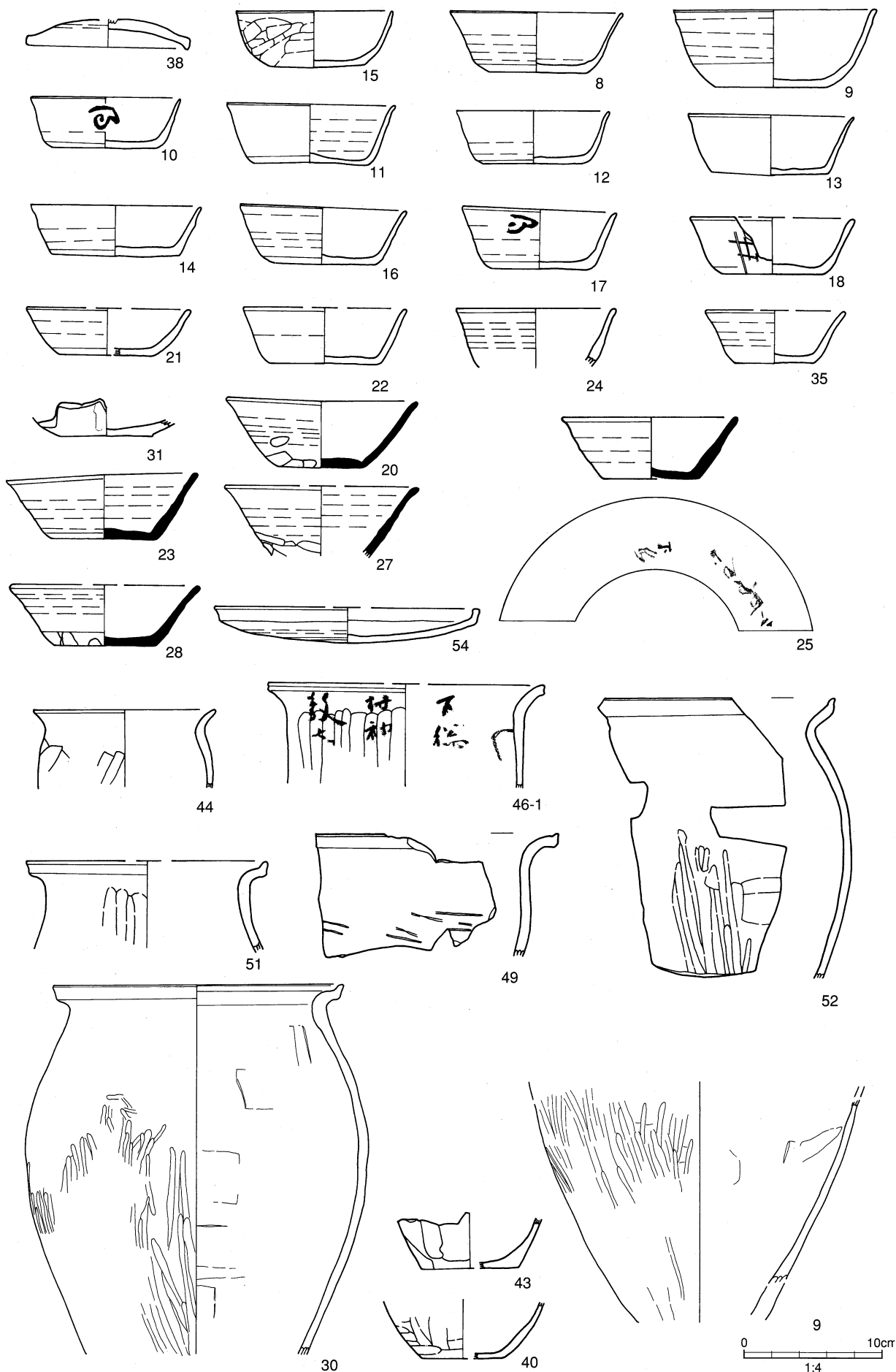


图128 A260 (3)

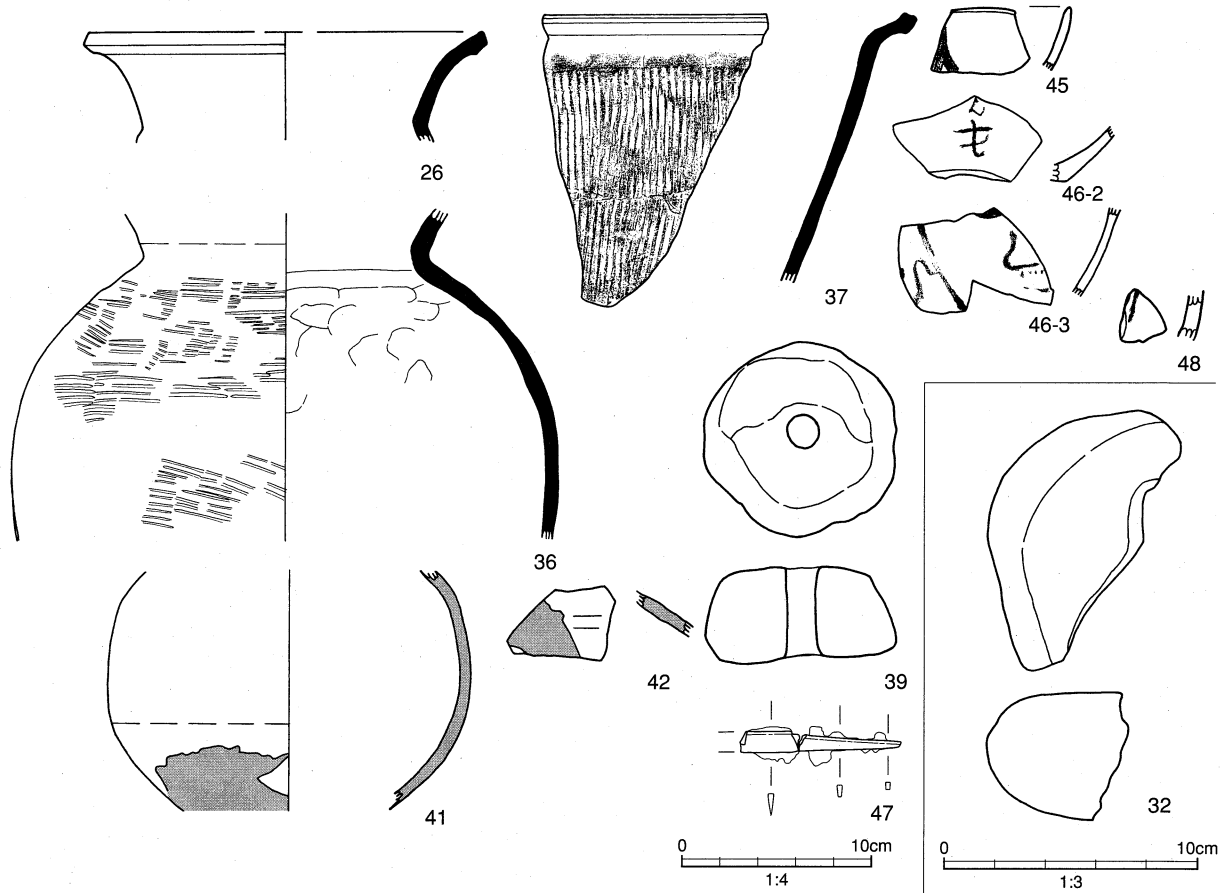


図129 A260 (4)

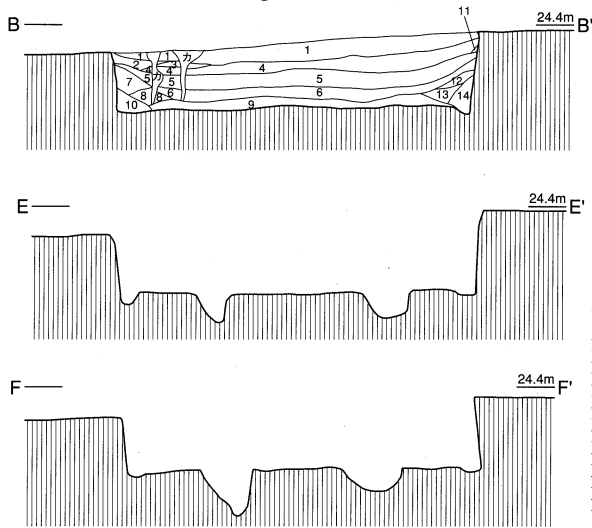
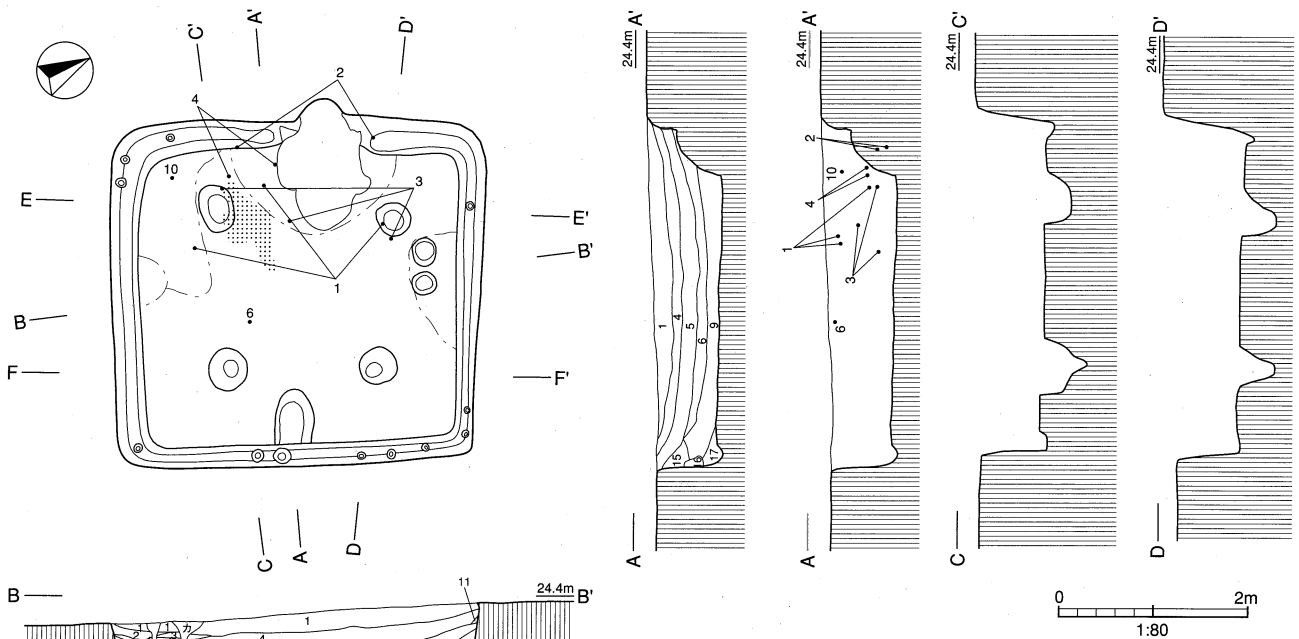
表45 A260遺物観察表

(単位mm)

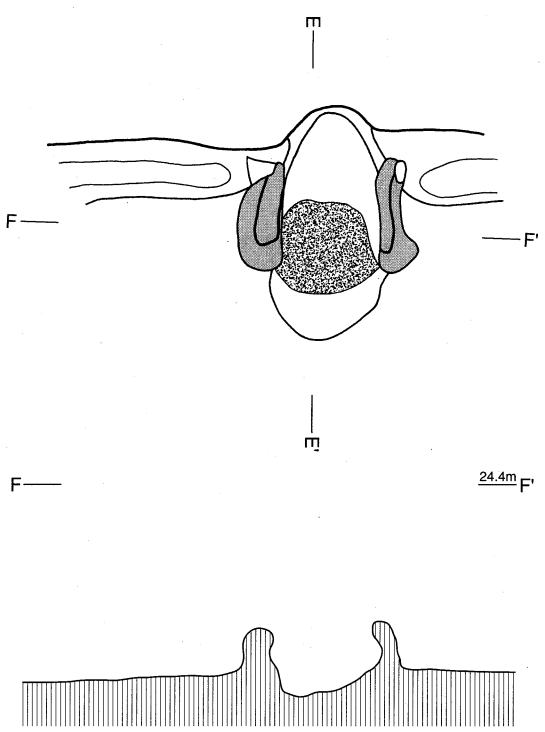
種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
8 土師器 坏	126×71×44 ロクロ成形 一部に輪積痕 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラケズリ	褐色 普	緻密	略完形	
9 土師器 坏	143×83×57 ロクロ成形 整形後、ヘラナデ 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラケズリ	赤褐色 普	緻密	略完形	内黒 底部器面荒れる
10 土師器 坏	107×75×37 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラケズリ	褐色 普	赤色粒 緻密	完形	
11 土師器 坏	122×83×43 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	褐色 普	緻密	1/2	
12 土師器 坏	110×71×38 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転ヘラ切り後、回転ヘラケズリ	褐色 普	緻密	2/3	
13 土師器 坏	120×85×44 ロクロ成形 全体的なナデ 底部一回転ヘラ切り	橙褐色 普	緻密	4/5	
14 土師器 坏	122×93×37 ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切りご、底縁手持ちヘラケズリ	淡褐色 普	雲母 石英 長石	略完形	
15 土師器 坏	113×69×41 ロクロ成形 ヘケズリにより丸みを持つが、底部は略平底 外面 口縁ナデ 体部～底部全体として手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	橙褐色 普	緻密	1/2	

16	土師器 坏	121×74×42 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-静止ヘケズリ	橙褐色 普	緻密	2/3	
17	土師器 坏	113×70×44 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り	褐色 普	緻密	3/4	墨書「得」 体部外面横位
18	土師器 坏	120×74×41 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り	淡褐色 良	緻密	2/3	ヘラ描「□」 体部外面横位
20	須恵器 坏	139×61×48 ロクロ成形 底部は上げ底気味 外面 口縁-ナデ 体部下端-底部ヘケズリ 底部-静止ヘケズリ	灰色 普	砂粒多	略完形	
21	土師器 坏	(118)×(70)×34 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り	淡褐色 普	緻密	1/3	
22	土師器 坏	(118)×(80)×40 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り	橙褐色 普	緻密	1/4	
23	須恵器 坏	137×76×46 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り	灰褐色 普	砂粒多 石英・長石・雲母	略完形	
24	土師器 坏	(116)×-×(43) ロクロ成形	橙褐色 普	緻密	口縁~ 体部	
25	須恵器 坏	128×68×45 ロクロ成形 底部-静止ヘラ切り	灰色 良	雲母 石英 長石	完形	墨書「□□□□ □/□□」 体部外面 横位
26	須恵器 小型甕	(207)×-×(58) ロクロ成形	暗灰色 普	砂粒少	口縁片	
27	須恵器 坏	(140)×-×(51) ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ	灰色 良	砂粒少	1/2	
28	須恵器 坏	(138)×(74)×44 ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-静止ヘケズリ	灰色 良	砂粒多	1/3	
30	土師器 甕	(207)×-×(269) 口縁上端つまみ上げられる 胴上半に最大径を持つ 外面 口縁~頸部-横ナデ 胴上半-ナデ 下半~下端-ヘラケズリ後ヘラナデ 内面 口縁~頸部-横ナデ 胴部-ヘラナデ	橙褐色 普	粗砂粒多	2/3	常総甕
31	土師器 坏	-×68×(27) 外面 底部-回転糸切り 内面 体部-ヘラミガキ	褐色 普	砂粒少	底部片	墨書「□」 体部外面
32	石器 磨石	長径-×幅-×厚34 重量119.5g 側面に磨り痕			1/3	
35	須恵器 坏	(102)×58×38 ロクロ成形 口縁-ナデ	橙褐色 普	緻密	口縁~ 底部片	
36	須恵器 甕	-×-×(177) 頸部「く」の字状 胴部丸みを持つ 外面 頸部-横ナデ 胴上半-平行タタキ 内面 頸部-横ナデ 胴上半-ヘラナデ及びナデ 指頭圧痕多数あり	灰白 悪	白色粒 褐色粒	頸部~ 胴部片	常陸産
37	須恵器 甕	-×-×- 胴部~頸部に開く器形 口縁屈曲して外反し口唇は直立 口縁直下からタテの平行タタキ目	暗灰色 良	雲母 長石	口縁~ 胴部	

38	土師器 蓋	116×-×20 ロクロ成形 把手を欠く 天蓋部はヘラケズリ	暗褐色 普	緻密	1/3	
39	石製品 紡錘車	上径51×下径38×厚23 軸孔0.9			完形	
40	土師器 小型甕	-×(60)×(41) ロクロ成形 外面 胴下半-タテのヘラケズリ 下端-ヨコのヘラケズリ	暗褐色～ 橙褐色 普	緻密	胴下半 ～底部	
41	灰釉陶器 水瓶?	-×-(127) 現状最大径186 ロクロ成形 胴部は丸みを有し、肩部の張りは遺存の中では認められない	灰色 良	緻密	胴部片	
42	灰釉陶器 短頸壺	-×-×- ロクロ成形 内外面にロクロ巻上げ痕 外面に一部釉薬残	赤灰色 灰色 良	緻密	肩部片	
43	土師器 小型甕	-×(70)×(35) ロクロ成形 外面 胴中位～下半-幅のあるタテのヘラケズリ 下端-ヨコノヘケズリだが不明瞭 底部-中央にヘラケズリ痕	橙褐色 普	緻密	胴下半 ～底部	
44	土師器 小型甕	(132)×-(57) ロクロ成形 頸部肥厚し内弯し、口縁外反 外面 口縁～頸部-ナデ 胴部-斜のヘラケズリ	暗褐色 普	緻密	口縁～ 胴部片	
45	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	暗褐色 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
46	土師器 甕	(198)×-(74) 頸部からタテのヘラケズリ 口縁直下から3行にわたり墨書 46-2,-3も同一個体であり、人面か? 墨書「下総/村神/□□」	暗褐色 普	緻密	口縁～ 胴部	
47	鉄器 刀子	長 85×幅 11×厚 6.5 14 8			刃部片	
48	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐色 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
49	土師器 甕	-×-×- 外面 胴上半-ヘラナデ 下半-細かなヘラミガキ	褐色 普	砂粒少	胴部片	常総型
51	土師器 甕	(174)×-(63) 頸部肥厚し、口縁は大きく外に屈曲する 口唇はつまみ上げによる直立 胴部外面-ヘラケズリ	褐色 普	砂粒少	口縁～ 胴部	
52	土師器 甕	-×-×- 口縁は屈曲し、口唇はつまみ上げるが、やや外にひらく 外面 頸部～胴上半-ヘラナデ 胴中位以下-タテ～斜の細かなヘラミガキ	褐色 普	砂粒 長石 石英	口縁～ 胴部	常総型
54	土師器 盤	(190)×-×26 ロクロ成形 丸底であり、口縁は直立 外面 口縁～頸部はヨコナデ 成形後、体部～底部にかけて回転ヘラケズリ	橙褐色 普	黄色粒	略完形	



- |     |       |                           |                                  |
|-----|-------|---------------------------|----------------------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混入            | ローム粒少含                           |
| 2層  | 暗褐色土  | 少量の黒色土が滲むように混入            | ローム粒少含                           |
| 3層  | 黒褐色土  | 黒色土を主体に少量の暗褐色土が滲むように混入    |                                  |
| 4層  | 暗褐色土  | 暗褐色土を主体に極少量の黒色土が滲むように混入   | ローム粒少含                           |
| 5層  | 暗褐色土  | 極少量の黒色土が滲むように混入           | 径10mmのローム粒多含                     |
| 6層  | 暗黄褐色土 | 暗褐色土を主体でロームを多含            | 径10mm程度のローム粒多含                   |
| 7層  | 暗褐色土  | 少量の褐色土を滲むように混入            | 少量の黒色土を滲むように混入<br>径10mm程度のローム粒少含 |
| 8層  | 暗褐色土  | 極少量の黒色土が滲むように混入           | ローム粒少含                           |
| 9層  | 黒褐色土  | 黒色土を主体に暗褐色土と白色粘土が荒く混入     | ローム斑状に混入                         |
| 10層 | 暗黄褐色土 | 暗褐色土を主体に汚れたロームを全体に滲むように混入 |                                  |
| 11層 | 暗黄褐色土 | 汚れたロームを主体に少量の暗褐色土が滲むように混入 |                                  |
| 12層 | 暗褐色土  | 少量の黒色土とロームが荒く混合           |                                  |
| 13層 | 暗褐色土  | 少量のロームが滲むように混入            | ロームブロックを少含                       |
| 14層 | 暗褐色土  | 極少量のロームを滲むように混入           |                                  |
| 15層 | 暗褐色土  | 少量の褐色土が滲むように混入            | ローム少含                            |
| 16層 | 暗黄褐色土 | 汚れたロームを主体に少量の暗褐色土が滲むように混入 |                                  |
| 17層 | 暗褐色土  | 多量のロームが滲むように混入            |                                  |



- |     |       |                         |
|-----|-------|-------------------------|
| ①層  | 暗褐色土  | 粘土粒子及びブロック黒褐色土粒子含       |
| ⑥層  | 灰褐色土  | 粘土を主体とする層 焼土ブロックを少量含    |
| ⑦層  | 黒褐色土  | 炭化物、灰、焼土ブロックを混入する       |
| ⑧層  | 暗茶褐色土 | 焼土ブロック、火を受けたロームブロックを混   |
| 8層  | 暗褐色土  | 粘土を多含                   |
| 9層  | 灰褐色土  | 粘土のみの構成                 |
| 10層 | 暗灰褐色土 | 粘土を多含 粘土が焼けた焼土ブロックを多く混入 |
| 17層 | 灰褐色土  | 粘土のブロック                 |
| 18層 | 褐色土   | 粘土粒子とローム粒子を混入           |
| 19層 | 暗褐色土  | 黒褐色土粒子と火を受けたロームブロックから構成 |
| 20層 | 暗褐色土  | ローム粒子を多含                |

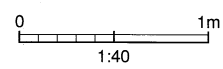


図130 A261



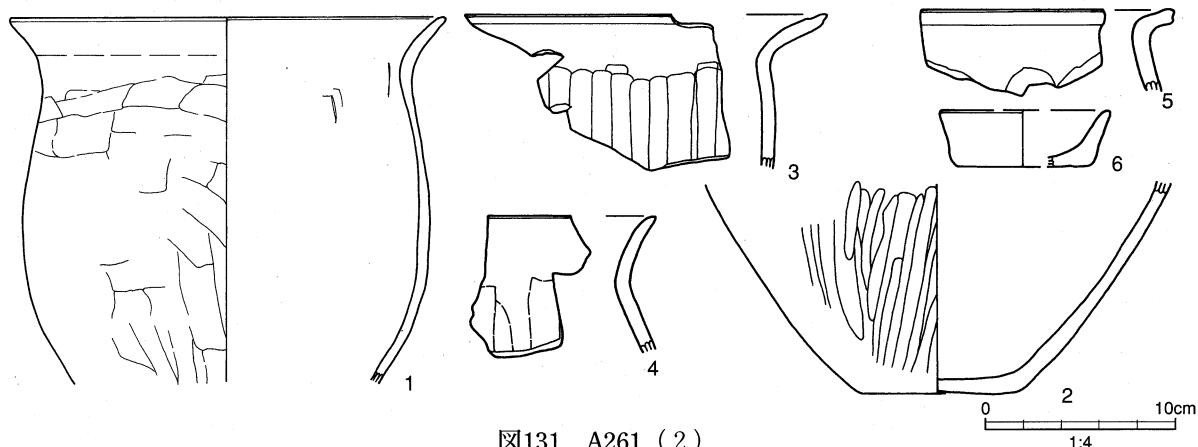


図131 A261 (2)

A261

検出地区 L4-95-3g、L5-5-1gにわたって検出した。

遺 構 長軸3.66m×短軸3.92m×壁高0.68m、主軸方位はN-62° -Wを示している。平面形は隅丸方形の住居跡である。床はロームを良く踏み固めた床で、硬化面が広範囲に広がる。床面にて小穴を7基検出した。P1～4は柱穴、P5は出入口施設に伴うピットと考えられる。周溝は全周する。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は西壁ほぼ中央で築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込んで煙道とし、立ち上がりは比較的急傾斜である。燃烧部では良好な火床を検出することが出来た。天井部は断面で明瞭に捉えることができた。床面直上～覆土下層にかけて粘土が散っていたことから、竈は壊されたものと考えられる。覆土は17層に分層され、概ね自然堆積による埋没が想定される。

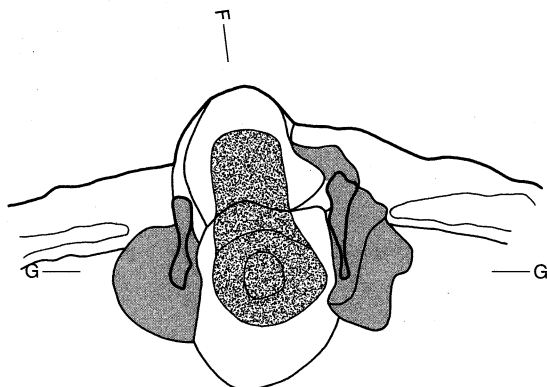
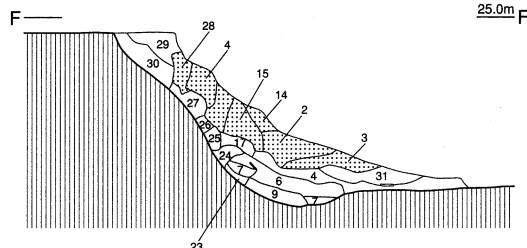
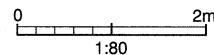
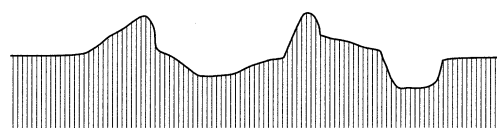
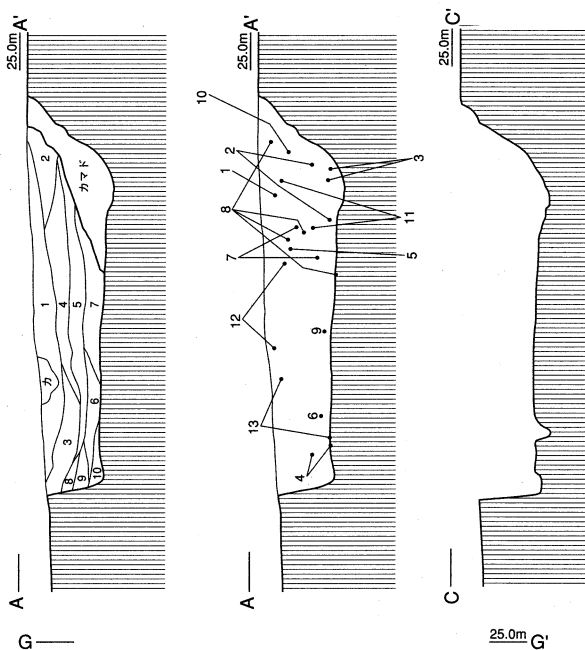
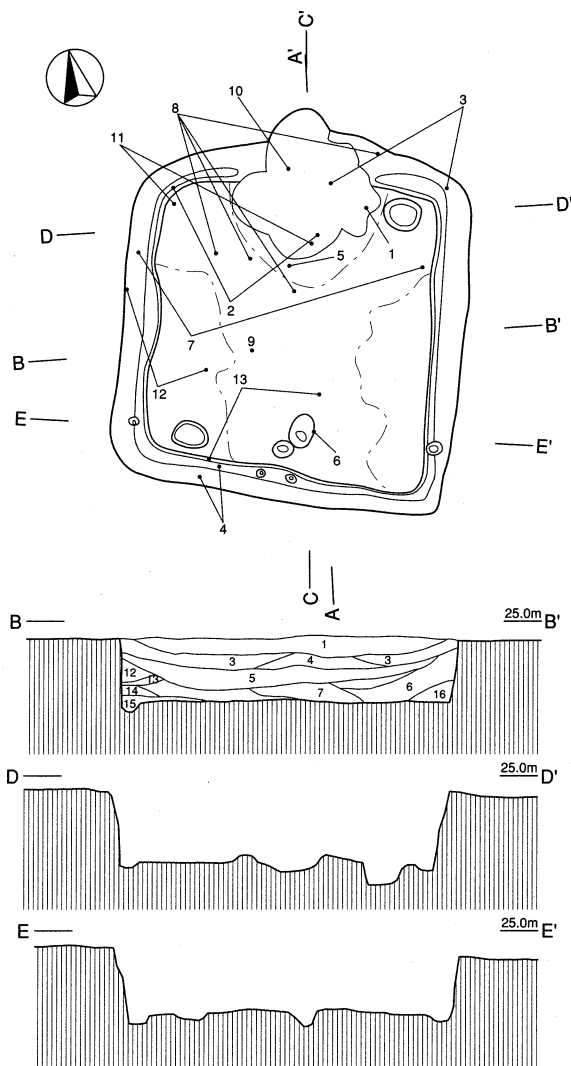
遺 物 覆土下層～上層にかけて多量に出土した。

所 見 出土遺物から奈良～平安時代の住居跡と判断した。常総型の甕に混ざり、武蔵型の甕が出土していることが注目される。

表46 A261遺物観察表

(単位 m m)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 甕	228×-×(194) 口縁外反 口縁部に最大径を持つ 頸部は緩く括れ 胴部の膨らみも小さい 外面 口縁～頸部-横ナデ 胴上半-ヘラケズリ 内面 口縁～頸部-横ナデ 胴上半-ヘラナデ	橙褐 普	砂粒多	口縁～ 胴部片	武蔵型
2 土師器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 胴上半-ヘラケズリ 底部-木葉痕	暗褐 普	砂粒 石英 長石 雲母少	胴下半 ～底部	常総型
3 土師器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 胴上半-ヘラケズリ	褐 普	砂粒少	口縁～ 胴上半	常総型
4 土師器 甕	-×-×- ロクロ成形外面 胴上半-ヘラケズリ	褐 普	砂粒少	口縁～ 胴上半	
5 土師器 甕	-×-×- ロクロ成形	褐 普	砂粒少	口縁片	常総型
6 手捏ね	(90)×(70)×30 外面 底部-木葉痕	褐 普	緻密	体部～ 底部	



- |     |       |                          |
|-----|-------|--------------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | 褐色土混入                    |
| 2層  | 暗褐色土  | 黒色土混入 ローム粒微含             |
| 3層  | 暗褐色土  | 黒色土少量混入 ローム少含            |
| 4層  | 暗褐色土  | 黒色土、ローム混入                |
| 5層  | 暗褐色土  | 黒色土微量混入 径40mm大のロームブロック多含 |
| 6層  | 暗褐色土  | 黒色土混入 径20mm大のロームブロック少含   |
| 7層  | 暗褐色土  | 黒色土と混合 ローム多含             |
| 8層  | 暗褐色土  | 黒色土少量混入                  |
| 9層  | 暗褐色土  | 黒色土少量、ローム混入              |
| 10層 | 暗黄褐色土 | 汚れたローム主体 暗褐色土少量混入        |
| 11層 | 暗褐色土  | 黒色土少量、ローム、白色粘土混入         |
| 12層 | 暗褐色土  | 黒色土混入 ローム少含              |
| 13層 | 暗褐色土  | 黒色土と混合 ローム微含             |
| 14層 | 黒褐色土  | 暗褐色土多含                   |
| 15層 | 暗黄褐色土 | 汚れたローム主体 暗褐色土多含          |
| 16層 | 黒褐色土  | 暗褐色土多含                   |
- 
- |     |       |                    |
|-----|-------|--------------------|
| 2層  | 褐色土   | ロームブロック、粘土粒混入      |
| 3層  | 暗灰褐色土 | 灰褐色粘土主体 暗褐色土混入     |
| 4層  | 褐色土   | 焼土粒多含 暗褐色土ブロック一部混入 |
| 6層  | 暗茶褐色土 | 焼土主体               |
| 7層  | 暗茶褐色土 | 焼土主体 暗青色を呈する層がみられる |
| 9層  | 明褐色土  | ロームブロック主体          |
| 14層 | 褐色土   | 粘土粒、粘土ブロック混入       |
| 15層 | 褐色土   | 粘土粒、粘土ブロック多含       |
| 23層 | 暗茶褐色土 | 焼土粒、炭化物多含          |
| 24層 | 暗茶褐色土 | 焼土ブロック多含           |
| 25層 | 暗褐色土  |                    |
| 26層 | 暗褐色土  | 焼土ブロック含む           |
| 27層 | 暗褐色土  | 層の下部にロームブロックを混入    |
| 28層 | 暗灰褐色土 | 褐色土と粘土の混合          |
| 29層 | 暗褐色土  |                    |
| 30層 | 褐色土   |                    |
| 31層 | 褐色土   | 粘土、ローム粒、黒褐色土ブロック混  |

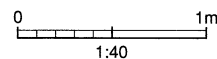


図132 A262

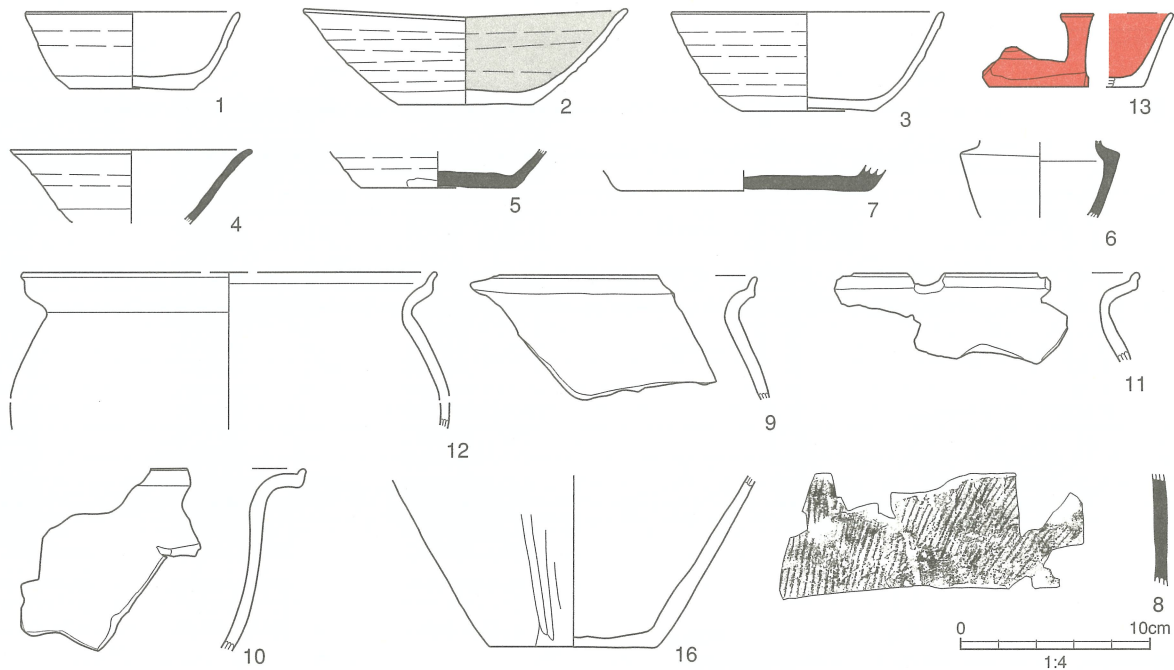


図133 A262 (2)

A262

検出地区 L4-3-4g、4-3gにて検出した。

遺構 長軸3.8m×短軸3.4m×壁高0.68m、主軸方位はN-15°-Eを示している。平面形は隅丸方形の住居跡で竈側はやや胴張りの感がある。床はロームを良く踏み固めた床で、硬化面が広範囲に広がる。床面にて小穴を4基検出した。P1は出入口施設に伴うピットと考えられる。周溝は全周する。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は北壁ほぼ中央で築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込み煙道とし、立ち上がりは、なだらかであった。燃焼部では良好な火床を検出することが出来た。天井部は断面で明瞭に捉えることができた。土層の観察から竈は自然崩壊したものと考えられる。覆土は31層に分層され、人為的な埋め戻しが想定される。

遺物 床面直上～覆土上層にかけて多量に出土した。

所見 出土遺物から奈良～平安時代の住居跡と判断した。A260同様、覆土上層の遺物と下層の遺物が接合していることから埋め戻しは一気に行われたと考えられる。

表47 A262遺物観察表

(単位 m m)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 坏	(114)×66×41 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-静止糸切り後手持ちヘラケズリ	褐 普	緻密	口縁～ 底部	
2 土師器 坏	(172)×72×51 ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ 内外面とも丁寧なミガキ	外暗褐 内黒 良	緻密	1/4	内黒
3 土師器 坏	(114)×68×52.5 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ 内面 体部-丁寧なミガキ	外褐 内赤褐 良	緻密	口縁～ 底部片	内面赤彩か?
4 須恵器 坏	(128)×-×(39) ロクロ成形	灰 良	砂粒少	口縁片	
5 須恵器 坏	-×82×(20) ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-回転ヘラ切り	灰 良	緻密	底部片	

6	須恵器 長頸壺?	-×-×(41) 最大径(82)	良	緻密	頸部~ 胴部	
7	須恵器 甕	-×(134)×(11) ロクロ成形 外面 底部一回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリ	灰 普	白色砂粒 少	底部片	常陸産 転用硯
8	須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形	外黒 内暗褐 普	緻密	胴部片	
9	土師器 甕	-×-×- ロクロ成形 口唇つまみ上げ	褐 普	雲母少	口縁片	常総型
10	土師器 甕	-×-×- ロクロ成形 口唇つまみ上げ	褐 普	雲母少	口縁片	常総型
11	土師器 甕	-×-×- ロクロ成形 口唇つまみ上げ	褐 普	砂粒少	口縁片	常総型
12	土師器 甕	(220)×-×(83) ロクロ成形 口唇つまみ上げ	橙褐 普	雲母少	口縁~ 胴上半	常総型
13	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-手持ちヘラケズリ	赤褐 良	緻密	口縁~ 底部	赤彩
14 -1	鉄器 片子?	長軸41.5×短軸9×厚さ4 重量44g				
14 -2		長軸18×短軸6.5×厚さ4 重量36.4g 7.0 3 7.0 4				
15	石器 石刃	長軸38×短軸19×厚さ7 重量5.8g 剥長剥片を素材として一側縁に加工痕			完形	黒曜石
16	土師器 甕	-×(90)×(91) 外面 胴下半-縦位のヘラケズリ 底部-木葉痕	外黒褐 内褐 普	雲母 砂粒少	胴部~ 底部	

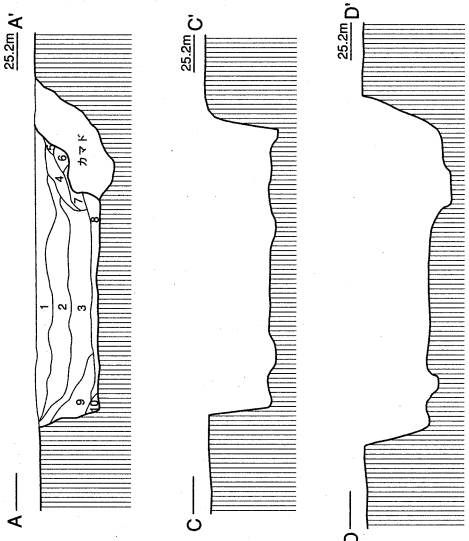
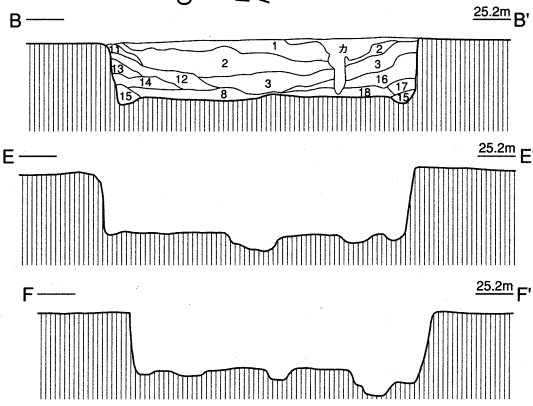
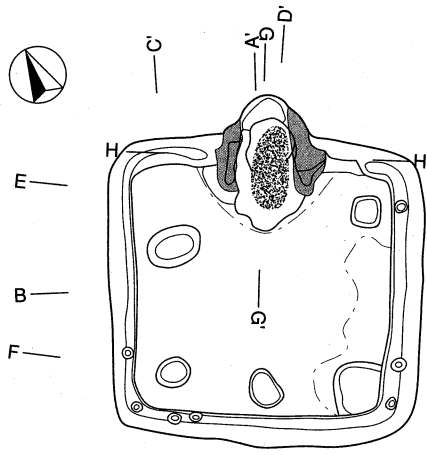
### A263

検出地区 L4-93-4gにて検出した。

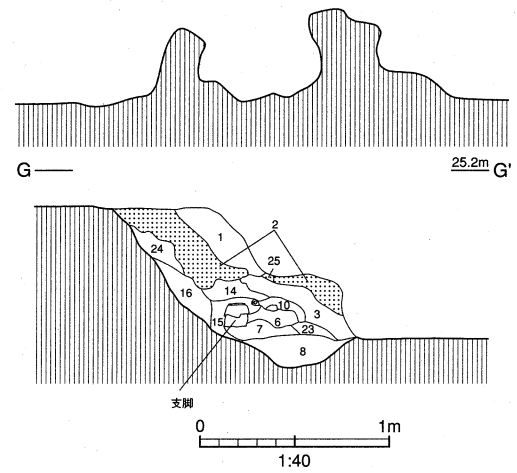
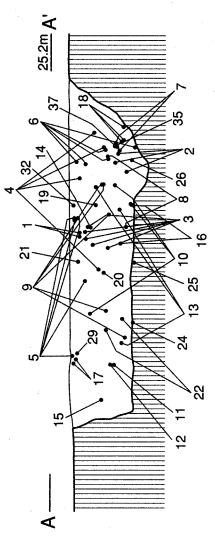
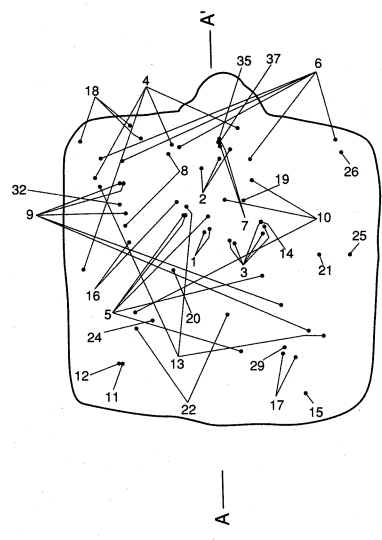
遺 構 長軸3.34m×短軸3.32m×壁高0.64m、主軸方位はN-29° -Eを示している。平面形は隅丸方形の住居跡で、竈側はやや胴が張りの感がある。床はロームを良く踏み固めた床で、硬化面が広範囲に広がる。床面にて小穴を4基検出した。P1~4は柱穴、P5は出入口施設に伴うピットと考えられる。周溝は全周する。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は北壁ほぼ中央で築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込み煙道とし、立ち上がりは、比較的急傾斜であった。燃焼部では良好な火床を検出することが出来た。天井部は断面で明瞭に捉えることができた。土層の観察から竈は自然崩壊したものと考えられる。覆土は18層に分層された。覆土下層でロームを多く含む土層が多く、全体的な土層観察から人為的な埋め戻しの後、自然堆積による埋没が進んだと想定される。

遺 物 床面直上~覆土上層にかけて多量に出土した。墨書土器が多数出土し、その中で「西」の出土が目立つ。また、覆土中から金属製品も出土した。

所 見 出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と判断した。



- 1層 黒褐色土 暗褐色土混入
- 2層 黒褐色土 黒色土混入 ローム少含
- 3層 暗褐色土 黒褐色土混入 ローム少含
- 4層 暗褐色土 黒褐色土混入 ローム少含
- 5層 暗褐色土 黒褐色土混入 白色粘土混入
- 6層 暗褐色土 黒褐色土混入 ロームブロック少含
- 7層 暗褐色土 黒色土混入 ロームブロックと白色粘土少含
- 8層 暗褐色土 黒褐色土混入 ローム多含
- 9層 暗褐色土 黒褐色土混入
- 10層 暗褐色土 暗褐色土と黒色土が均一に混合 ローム含
- 11層 暗褐色土 黒色土混入 ローム少量含
- 12層 暗褐色土 黒色土混入 ローム多量含
- 13層 暗褐色土 黒色土混入 ローム少量含
- 14層 暗褐色土 黒色土混入 ローム多量含
- 15層 暗褐色土 黒褐色土混入 ローム少量含
- 16層 暗褐色土 黒褐色土混入
- 17層 黒褐色土 黒色土主体 ローム微含
- 18層 暗褐色土 黒色土混入 ローム多量含



- 1層 暗褐色土 ローム粒混入
- 2層 灰褐色土 粘土主体
- 3層 暗灰褐色土 褐色土に粘土混入
- 6層 明褐色土 火を受けた3~5mmのローム粒含
- 7層 暗茶褐色土 火を受けたローム粒と1~3mmのロー
- 8層 暗灰褐色土 粘土主体 ローム粒 焼土粒
- 10層 褐色土 焼土 ローム 粘土混入
- 14層 暗灰褐色土 粘土多含 粘土粒子多含
- 15層 暗茶褐色土 焼土粒多含 焼土小ブロック混入
- 16層 暗褐色土 粘土粒 ロームブロック多含
- 23層 暗褐色土 焼土粒子 炭化物を混入
- 24層 褐色土 粘土多含 黒褐色土ブロック混入
- 25層 暗褐色土 粘土少含

図134 A263

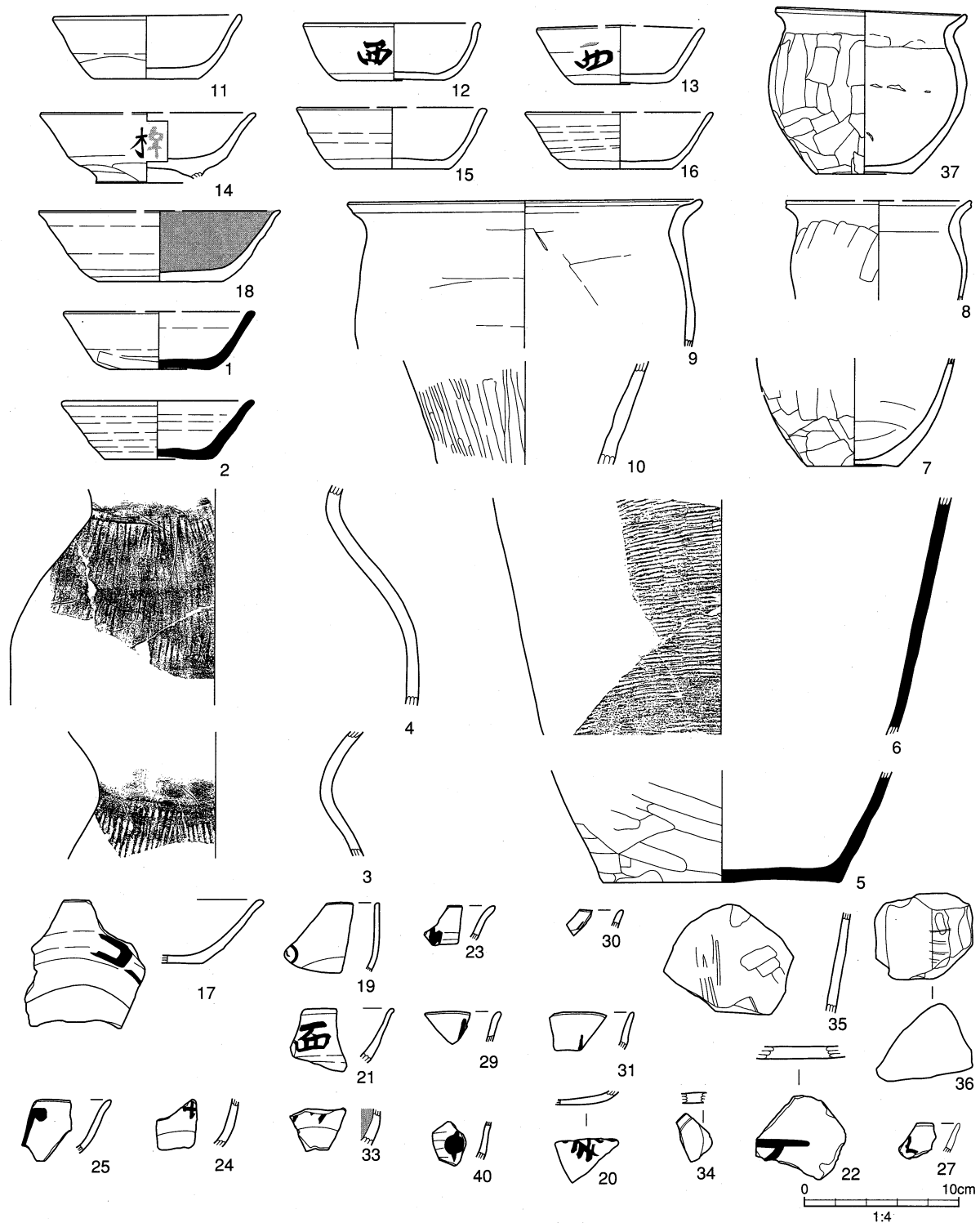


図135 A263 (2)

表48 A263遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 須恵器 坏	(123)×74×38 ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-静止ヘラ切り	黒良	砂粒	1/2	
2 須恵器 坏	124×70×38 ロクロ成形	灰良	緻密	略完形	
4 須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 胴上半-タタキ目	黒褐良	緻密	頸部~ 胴上半	no.3と同一個体 と思われる

5	須恵器 甕	—×154×(73) ロクロ成形 外面 胴部下端—ヘラケズリ	暗黄褐 普	緻密	胴部～ 底部	
6	須恵器 甕	—×—×— ロクロ成形 外面 胴部—横方向のタタキ目	黒褐 普	砂粒 雲母少	胴部片	
7	土師器 小型甕	—×60×(70) 外面 胴下半—縦位のヘラケズリ 下端—斜位のヘラケズリ 内面 胴部—ヘラナデ	外暗褐 内橙褐 普	砂粒 白色粒	胴部～ 底部片	転用支脚
8	土師器 小型甕	(120)×—×(64) ロクロ成形 外面 胴上半—ヘラケズリ	橙褐 普	緻密	口縁～ 胴部	
9	土師器 甕	(229)×—×96 口縁やや外傾 内外面とも 口縁～頸部—横ナデ 胴上半—ヘラナデ	橙褐 普	粗砂粒多	口縁～ 胴部	
10	土師器 甕	—×—×— 外面 胴上半—ヘラケズリ	暗褐 普	雲母 砂粒少	胴下半	
11	土師器 坏	122×66×41 ロクロ成形 外面 体部下端—回転ヘラケズリ 底部—回転糸切り後回転ヘラケズリ	淡褐 普	緻密	完形	
12	土師器 坏	115×68×37 ロクロ成形 外面 体部下端—回転ヘラケズリ 底部—回転糸切り後回転ヘラケズリ	淡褐 普	緻密	完形	墨書「西」 体部外面正位
13	土師器 坏	(108)×60×38 ロクロ成形 外面 体部下端—回転ヘラケズリ 底部—回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐 良	緻密	3/4	墨書「西」 体部外面正位
14	土師器 高台付坏	(139)×台部径(64)×45 ロクロ成形 外面 体部下端—回転ヘラケズリ 内面 ミガキ	褐 普	緻密	1/2	墨書「□」 体部外面
15	土師器 坏	(123)×(76)×40 ロクロ成形 外面 体部下端—回転ヘラケズリ 底部—回転糸切り後回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	1/3	
16	土師器 坏	(122)×(66)×37 ロクロ成形 外面 体部下端—回転ヘラケズリ 底部—回転糸切り後回転ヘラケズリ	外橙褐 内淡褐 普	緻密	1/4	
17	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面 体部下端—手持ちヘラケズリ 底部—回転糸切り後回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	口縁～ 底部片	墨書「□」 体部外面
18	土師器 坏	(155)×80×46 ロクロ成形 外面 体部下端—回転ヘラケズリ 底部—回転ヘラケズリ 内面 ミガキ	外褐 内黒 良	緻密	1/2	内黒
19	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面 体部下端—ヘラケズリ	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
20	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面 体部下端—手持ちヘラケズリ 底部—手持ちヘラケズリ	橙褐 普	緻密	底部片	墨書「□」 底部外面
21	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「西」 体部外面正位
22	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面 底部—手持ちヘラケズリ	褐 普	緻密	底部片	墨書「□」 底部外面
23	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面正位
24	土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面 体部下端—ヘラケズリ	褐 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面

25	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	淡褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
27	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
29	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	橙褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
30	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
31	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	淡褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面
33	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ 内面 体部下端-ヘラミガキ	外褐 内黒 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面 内黒
34	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 底部-回転糸切り	褐 普	緻密	底部片	窠書「□」 底部外面
35	土師器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 胴部-ヘラケズリ	暗褐 普	砂粒少	胴部片	
36	石製品 砥石	長さ55×幅63×厚み45 重量182.0g				
37	土師器 小型甕	123×62×108 口縁は短く立ち上がる 頸部「く」の字状 胴部や や上半に膨らみを持つ 外面 口縁~頸部-横ナデ 胴上半-縦位のヘラケズリ 下半-斜位の ヘラケズリ 内面 口縁~頸部-横ナデ 胴部-ヘラナデ	橙褐 普	砂粒少 赤色粒	完形	転用支脚
38	鉄器 ?	長軸23.0×短軸14.5×厚さ4.0 重量1.7g				
40	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
41	緑釉陶器	-×-×- ロクロ成形	乳白 良	緻密		

### A263 (3-002)

検出地区 L4-93-3・4gにて検出した。

遺 構 長軸3.34m×短軸3.32m×壁高0.64m、主軸方位はN-29° -Eを示している。平面形は隅丸方形の住居跡で、竈側はやや胴張りの感がある。床はロームを良く踏み固めた床で、硬化面が広範囲に広がる。床面にて小穴を4基検出した。P1～4は柱穴、P5は出入口施設に伴うピットと考えられる。周溝は全周する。壁はロームの壁でほぼ垂直に立ち上がる。竈は北壁ほぼ中央で築かれ、両袖とも検出できた。壁を掘り込み煙道とし、立ち上がりは、比較的急傾斜であった。燃焼部では良好な火床を検出することが出来た。天井部は断面で明瞭に捉えることができた。土層の観察から竈は自然崩壊したものと考えられる。覆土は18層に分層された。覆土下層でロームを多く含む土層が多く、全体的な土層観察から人為的な埋め戻しの後、自然堆積による埋没が進んだと想定される。

遺 物 床面直上～覆土上層にかけて多量に出土した。墨書土器が多数出土し、その中で「西」の出土が目立つ。また、覆土中から金属製品も出土した。

所 見 出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と判断した



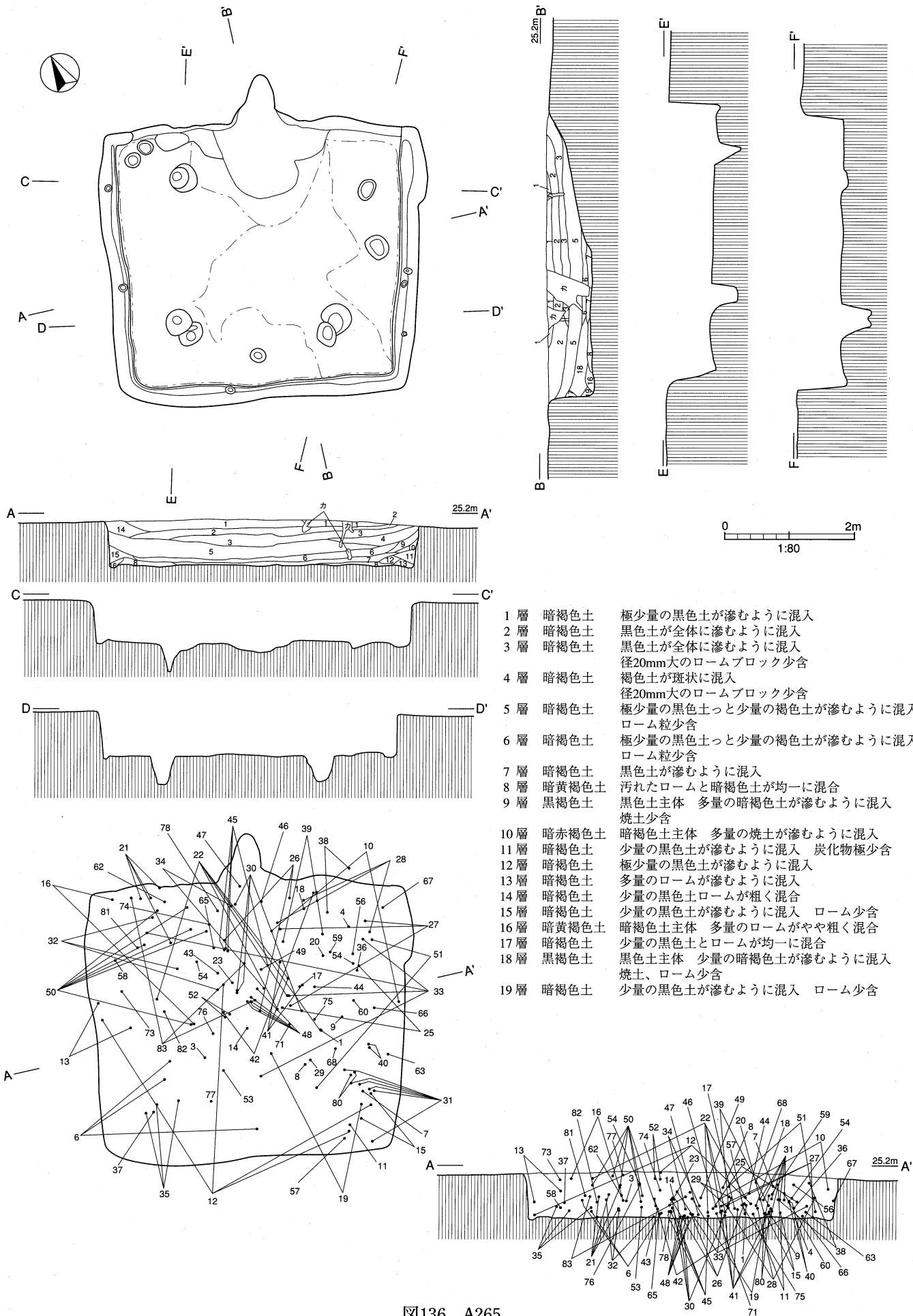
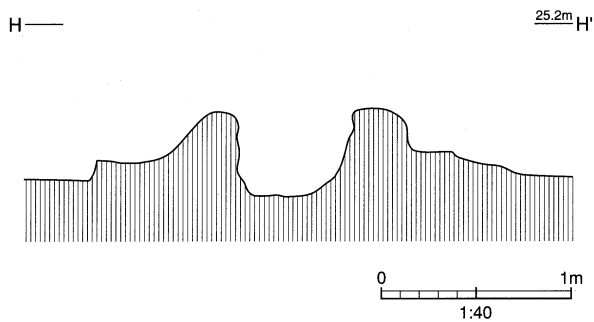
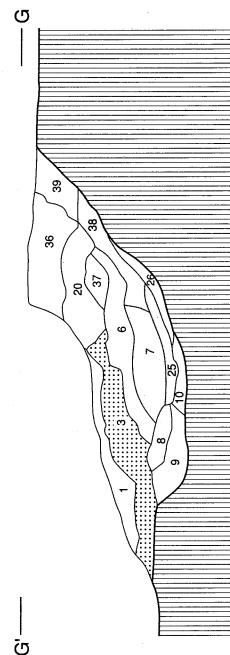
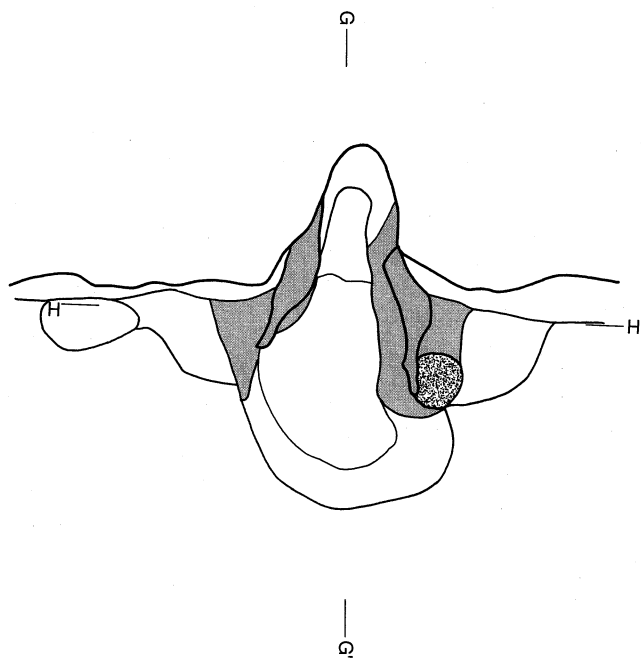


図136 A265



- |     |       |                     |
|-----|-------|---------------------|
| 1層  | 暗褐色土  | 粘土多含                |
| 3層  | 灰褐色土  | 粘土主体                |
| 6層  | 暗褐色土  | 焼土粒、炭化粒少含           |
| 7層  | 暗茶褐色土 | 焼土主体                |
| 8層  | 黒褐色土  | 炭化物多含               |
| 9層  | 暗灰褐色土 | 褐色土主体 粘土多含 焼土粒少含    |
| 10層 | 褐色土   | 焼土粒、火熱を受けたロームブロック混入 |
| 20層 | 暗褐色土  | 多量の粘土、少量の焼土粒混入      |
| 25層 | 暗赤褐色土 | 焼土主体                |
| 26層 | 暗褐色土  | 炭化物含                |
| 27層 | 暗褐色土  | 粘土少含                |
| 28層 | 暗黄褐色土 |                     |
| 36層 | 暗褐色土  | 粘土、焼土粒少含            |
| 37層 | 暗褐色土  |                     |
| 38層 | 暗茶褐色土 | 焼土主体 褐色土少量混入        |
| 39層 | 暗褐色土  | 焼土混入                |

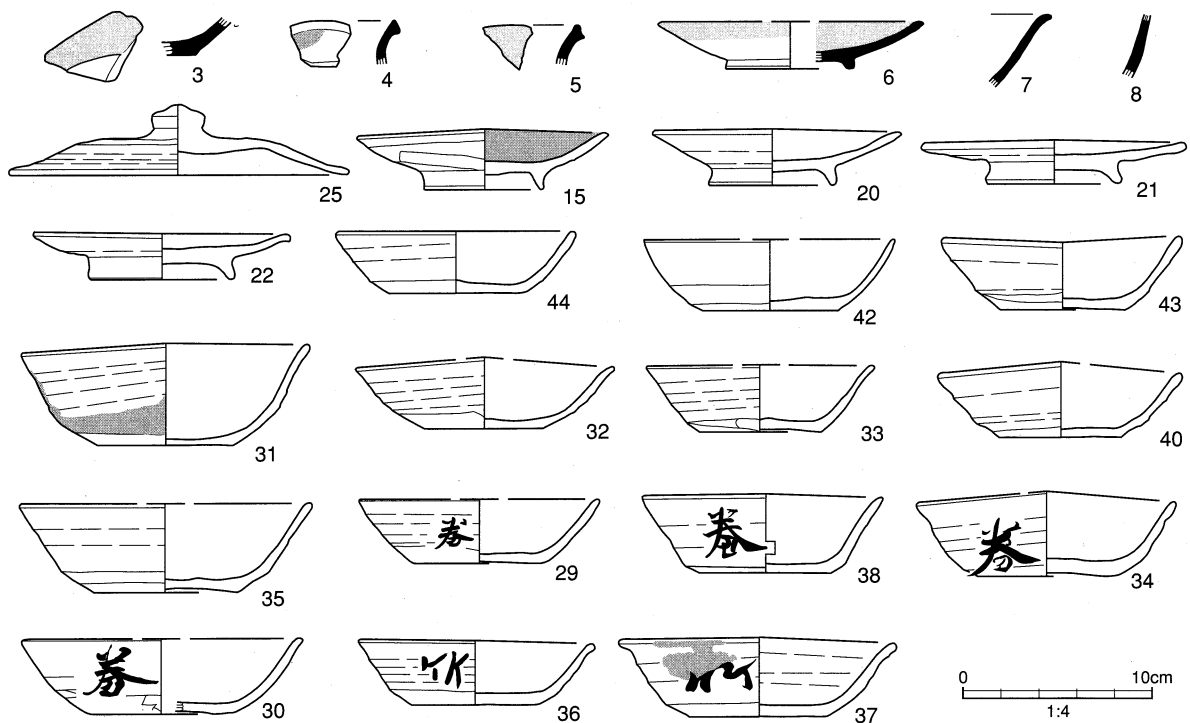


図137 A265 (2)

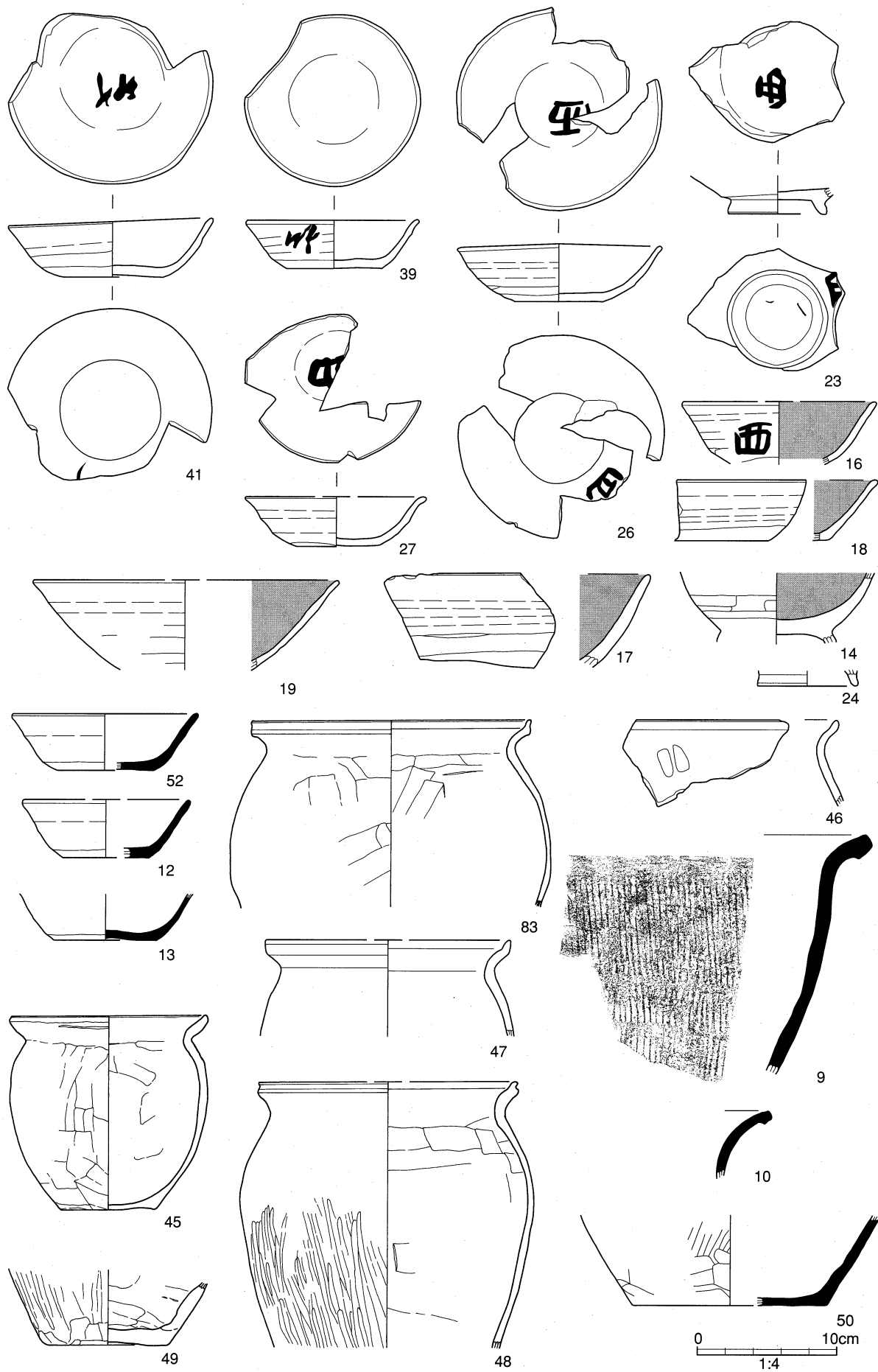


图138 A265 (3)

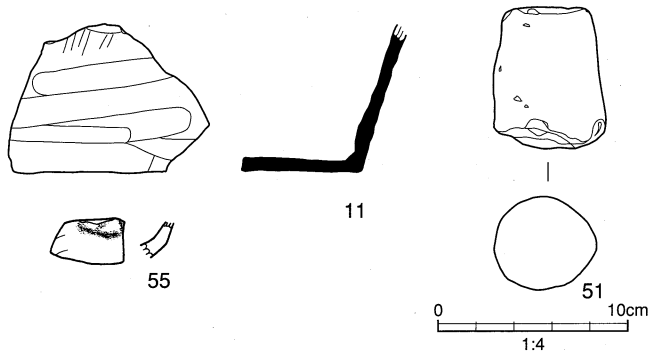


図139 A265 (4)

表49 A265遺物観察表

(単位 mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 石器 剥片	長軸16×短軸15×厚さ4 重量0.7g 小型の不定形剥片 明瞭な加工痕、使用痕は認められない			完形	黒曜石
2 石器 剥片	長軸24×短軸31×厚さ6 重量3.1g 不定形剥片の一辺に使用痕			完形	黒曜石
3 褐釉陶器 皿	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ	乳白色 良	緻密	体部~ 底部片	
4 灰釉陶器 水瓶	-×-×- ロクロ成形	外暗赤褐 内灰褐 良	緻密	口縁片	
5 灰釉陶器 水瓶	-×-×- ロクロ成形	灰 良	緻密	口縁片	
6 灰釉陶器 高台付皿	(140)×(68)×25 ロクロ成形 外面 体部-赤彩部分あり	灰褐 良	緻密	1/4	
7 灰釉陶器 高台付碗	-×-×- ロクロ成形	外灰 内緑灰 良	緻密	口縁片	
8 灰釉陶器 不明	-×-×- ロクロ成形	灰 良	緻密	体部片	
9 須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形 外面 胴上半-タタキ	暗灰 良	緻密	口縁~ 胴上半	
10 須恵器 甕	-×-×- ロクロ成形	灰色 良	緻密	口縁片	
11 須恵器 甌	-×-×- ロクロ成形 外面 胴下半-タタキ 下端-ヘラケズリ	暗灰 良	砂粒多	胴下半 ~底部	
12 須恵器 坏	-×-×- ロクロ成形	暗灰 良	砂粒少	1/4	
13 須恵器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ	灰褐 良	緻密	体部~ 底部	
14 土師器 高台付碗	-×-×- ロクロ成形 外面 体部-ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	赤褐色 普		体部~ 底部	内黒

15	土師器 高台付皿	132×63×32 ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	外 褐 内黒褐 良	緻密	略完形	内黒
16	土師器 高台付坏	(140)×-×(45) ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	外褐 内黒 良	緻密	口縁~ 体部	墨書「西」 体部外面正位 内黒
17	土師器 高台付坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ	外橙褐 内黒 良	緻密	口縁片	内黒
18	土師器 高台付坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ	外橙褐 内黒 良	緻密	口縁片	
19	土師器 (高台付) 碗	(220)×-×(65) ロクロ成形 外面 底部-ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	外褐 内黒 良	緻密	口縁~ 底部	内黒
20	土師器 高台付皿	131×68×31 ロクロ成形 内面 丁寧なヘラミガキ	褐 良	緻密	略完形	
21	土師器 高台付皿	(140)×70×23 ロクロ成形 内面 ヘラミガキ	橙褐 良	緻密	1/4	
22	土師器 高台付皿	136×76×25 ロクロ成形 内面 ヘラミガキ	橙褐 良	緻密	4/5	
23	土師器 高台付碗 ?	-×台部径71×(28) ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ 内面 ミガキ	褐 普	緻密	体部~ 高台部	墨書「□」体部 外面正位 「西」体部内面
24	土師器 高台付碗 ?	-×台部径(72)×(11) ロクロ成形	橙褐 良	緻密	高台部 片	
25	土師器 蓋	(178)×つまみ径28×37 ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ 内面 ミガキ	褐 良	緻密	体部片	
26	土師器 坏	147×64×41 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ 内面 ヘラミガキ	褐 良	緻密	1/2	墨書「西」体部 外面正位 「西」体部内面
27	土師器 坏	(130)×58×36 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	橙褐 普	緻密	1/2	墨書「□」 底部内面
28	土師器 坏	(118)×60×34 ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	外橙褐 内淡褐 普	緻密	口縁~ 底部	
29	土師器 坏	(127)×70×34 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	1/4	墨書「券」 体部外面正位
30	土師器 坏	(147)×(75)×40 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐 普	緻密	1/4	墨書「券」 体部外面正位
31	土師器 坏	151×72×54 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ 内面 丁寧なヘラミガキ	褐 普	緻密	略完形	体部外面スス付 着
32	土師器 坏	(136)×(62)×38 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	1/4	

33	土師器 坏	(120)×(64)×36 ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-回転糸切り 手持ちヘラケズリ	橙褐 普	雲母 赤色スコ リア少	1/3	
34	土師器 坏	(136)×72×(45) ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り 回転ヘラケズリ	橙褐 普	砂粒少	略完形	墨書「券」 体部外面正位
35	土師器 坏	124×67×34 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り 回転ヘラケズリ	橙褐 普	雲母 砂粒少	口縁～ 底部	
36	土師器 坏	124×67×34 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り 回転ヘラケズリ	外橙褐 内淡褐 普	赤色スコ リア少	完形	墨書「竹」 体部外面正位
37	土師器 坏	147×73×42 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り 内面 ヘラミガキ	褐 普	緻密 雲母少	完形	墨書「竹」 体部外面正位 体部外面スス付 着
38	土師器 坏	127×70×42 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り	橙褐 普	雲母少	略完形	墨書「券」 体部外面正位
39	土師器 坏	124×68×35 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ 内面に墨の跡多数有り、口縁の一部が割れていることから硯あるいは筆 置きのような使用が考えられる	褐 普	緻密	略完形	墨書「竹」 体部外面正位
40	土師器 坏	(130)×66×40 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐 普	雲母少	1/3	
41	土師器 坏	142×72×43 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	淡褐 普	緻密	1/2	墨書 「□」体部外面 「竹」体部内面
42	土師器 坏	(132)×70×38 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り後回転ヘラケズリ	淡褐 普	緻密	口縁～ 底部	
43	土師器 坏	227×66×38 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転糸切り 回転ヘラケズリ	橙褐 普	雲母少	3/4	
44	土師器 坏	(126)×(70)×33 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	褐 普	緻密	1/3	
45	土師器 小型甕	(140)×67×140 口縁外反し外面に稜を持つ 頸部屈曲 外面 口縁～頸部-横ナデ 胴上半-縦位のヘラケズリ 下半-斜位の ヘラケズリ 内面 口縁～頸部-横ナデ 胴部-ヘラナデ	橙褐 普	砂粒 白色粒	1/2	口縁内面被熱に よるヒビ割れあ り
46	土師器 甕	—×—×— ロクロ成形 口唇つまみ上げ	褐 普	砂粒少	口縁片	常総型
47	土師器 甕	(176)×—×(69) ロクロ成形 口唇つまみ上げ	褐 普	砂粒多	口縁～ 胴上部	常総型
48	土師器 甕	(184)×—×(192) 口縁上端つまみ上げられ外側に屈曲 下端は稜を 持つ 頸部緩やかな「く」の字状 外面 口縁～頸部-横ナデ 胴部-ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 口縁～頸部-横ナデ 胴部-ヘラナデ	橙褐 普	粗砂粒多	口縁～ 胴部片	常総型
49	土師器 甕	—×88×(55) 平底 外面 胴下半-ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面 胴下半-ヘラナデ	橙褐 普	粗砂粒 雲母	底部片	常総型
50	須恵器 甕	—×(140)×65 ロクロ成形 外面 胴中位-タタキ 下半-ヘラケズリ	灰褐 良	緻密	胴下半 ～底部	
51	土製品 支脚	上部径43×下部径—×器高(70) 重量167.1g	淡褐 悪	粗	上半部	

52	須恵器 坏	(134)×68×41 ロクロ成形 外面 体部下端-回転ヘラケズリ 底部-回転ヘラケズリ	暗赤褐 良	緻密	1/6	
53	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-手持ちヘラケズリ 底部-ヘラケズリ	橙褐 普	緻密	底部片	墨書「□」 体部外面 未揭示
54	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面 未揭示
55	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ	褐 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面
57	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面 ヘラミガキ	褐 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面 未揭示
58	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面 ヘラミガキ	褐 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面 未揭示
59	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面 未揭示
61	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 底部-回転糸切り	褐 普	緻密	底部片	墨書「□」 底部外面 未揭示
63	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面正位 未揭示
64	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面 未揭示
65	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面 未揭示
66	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ 内面 体部-ヘラミガキ	褐 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面 未揭示
67	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	口縁片	墨書「神」 体部外面正位 未揭示
68	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	褐 普	緻密	体部片	墨書「□」 体部外面 未揭示
69	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	橙褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面正位 未揭示
70	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	淡褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面 未揭示
71	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 内面 体部-ヘラミガキ	淡褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面 未揭示
72	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端-ヘラケズリ 底部-ヘラケズリ	淡褐 普	緻密	口縁片	線刻「□」 体部外面 未揭示
73	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	淡褐 普	緻密	体部~ 底部	墨書「□」 体部外面 未揭示

75	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	橙褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面 未揭示
77	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形 外面 体部下端へラケズリ	外橙褐 内淡褐 普	緻密	底部片	墨書「□」 体部内面 未揭示
78	土師器 坏	-×-×- ロクロ成形	橙褐 普	緻密	口縁片	墨書「□」 体部外面正位 未揭示
79	鉄器 紡錘車	長軸109.0×短軸3.5×厚さ3.5 重量24.7g 3.5 3.5 5.5 5.5				
80	鉄器 鉄鏃	長軸144.5×短軸14.0×厚さ6.0 重量13.8g 4.5 4.0 5.0 5.0 3.0 3.0				
81	鉄器 釘?	長軸67.0×短軸5.0×厚さ5.0 重量6.9g 4.5 5.0				
82	鉄器 鎖	長軸58.0×短軸15.5×厚さ13.3 重量18.0g 9.5 3.0				
83	土師器 甕	(199)×-×(134) 口縁上端つまみ上げられ、外面は凹線状の調整 内外面とも口縁～頸部一横ナデ 胴上半へラナデ	橙褐 普	粗砂粒多	口縁～ 胴部片	

## 第2項 掘立柱建物跡

上谷遺跡V地区では18棟の掘立柱建物跡を検出した。先に報告したIV地区に比して棟数としては極端に減少するが、引続き掘立柱建物跡がやや多く建てられた地区である。IV地区では掘立柱建物跡の重複も著しかったが、本地区では単独の建物跡が多く性格を異にしているかも知れない。また、本地区では緩斜面部に建てられた建物跡が多く、平坦面に建てられたIV地区とは異なっていた。

以下に、掘立柱建物跡を報告していくこととする。

### B125

検出地区 L5-31-1～4gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.38m×短軸4.08m、長軸方位はN-63°-Wを示す。幅のある建物跡で、がっしりした感を与える。柱痕は検出されず、整然とした覆土堆積のため、柱を埋込んだラインを外しているかも知れない。整然とした覆土堆積から、柱材は引抜かれてないと考えられる。四隅の柱穴の掘込みはやや深く、中間の柱穴は浅い傾向を示していた。覆土は暗褐色土・黒褐色土・黒色土をそれぞれ主体としており、柱穴によって異なりを示していた。

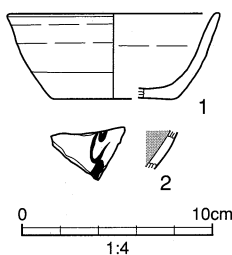


図140 B125

遺物 覆土の充填による流込みによる、縄文早期・条痕文片が出土遺物の主体を占める。土師器小片も若干の出土を見ている。墨書土器片「万？」が出土しているが、これも流込みと捉えた。

所見 上谷遺跡の掘立柱建物跡の基本形となる、2×3間の建物跡である。周辺の遺構状況から、奈良・平安時代の所産と捉えた。A226とP5で重複しており、先後関係はA226→B125と捉えられた。また、A226は人為的に埋戻された住居跡であるが、この重複から本建物跡のためであったと思われる。



P11は住居跡の調査で検出されたピットである。住居跡に伴わず本建物跡に含めたが、軸線が重ならず、別個の土坑として扱うべきかも知れない。

また、出土した墨書土器の文字が「万」であれば、上谷遺跡Ⅰ・Ⅱ地区に特徴的な文字であり、距離的に隔たりの大きな本地区との関わりが想定されよう。

表50 B125遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 坏	(114)×(64)×45 ロクロ成形 比較的薄手 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 ナデ 底部 回転糸切り→底縁・回転ヘラケズリ	橙褐 良	雲母長石 類赤色粒 緻密	1/3	全体に2次焼成 を被る
2 土師器 坏	—×—×— ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 内面 丁寧なヘラミガキ	外 橙 良	雲母 長石類微 細粒 緻密	体部片	墨書「□」 体部外面 内黒

### B126

検出地区 L5-35-3g、44-2g、45-1～4gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.56m×短軸4.20m×、長軸方位はN-39°-Wを示す。柱痕は柱穴全てに検出され、柱材は立腐れと判断した。柱穴の掘込みは0.56～0.80mであり、全体として掘込みはしっかりとしたものであった。黒褐色土・黒色土を主体として突固められた覆土であり、柱穴によって覆土に若干の異なりを示している。

遺物 縄文早期・撚糸文、条痕文、弥生後期、土師器・須恵器片がやや多く出土する。その主体は縄文早期・条痕文片であるが、いずれも覆土充填による流込みと捉えた。

所見 B125に比し長軸が長く、細身の印象を与える建物跡である。周辺の遺構状況から奈良・平安時代の所産と捉えた。弥生後期のA227と重複するが、B125の様に掘立柱建物跡を建てるべく堅穴住居跡の埋戻しは行われていなかった。

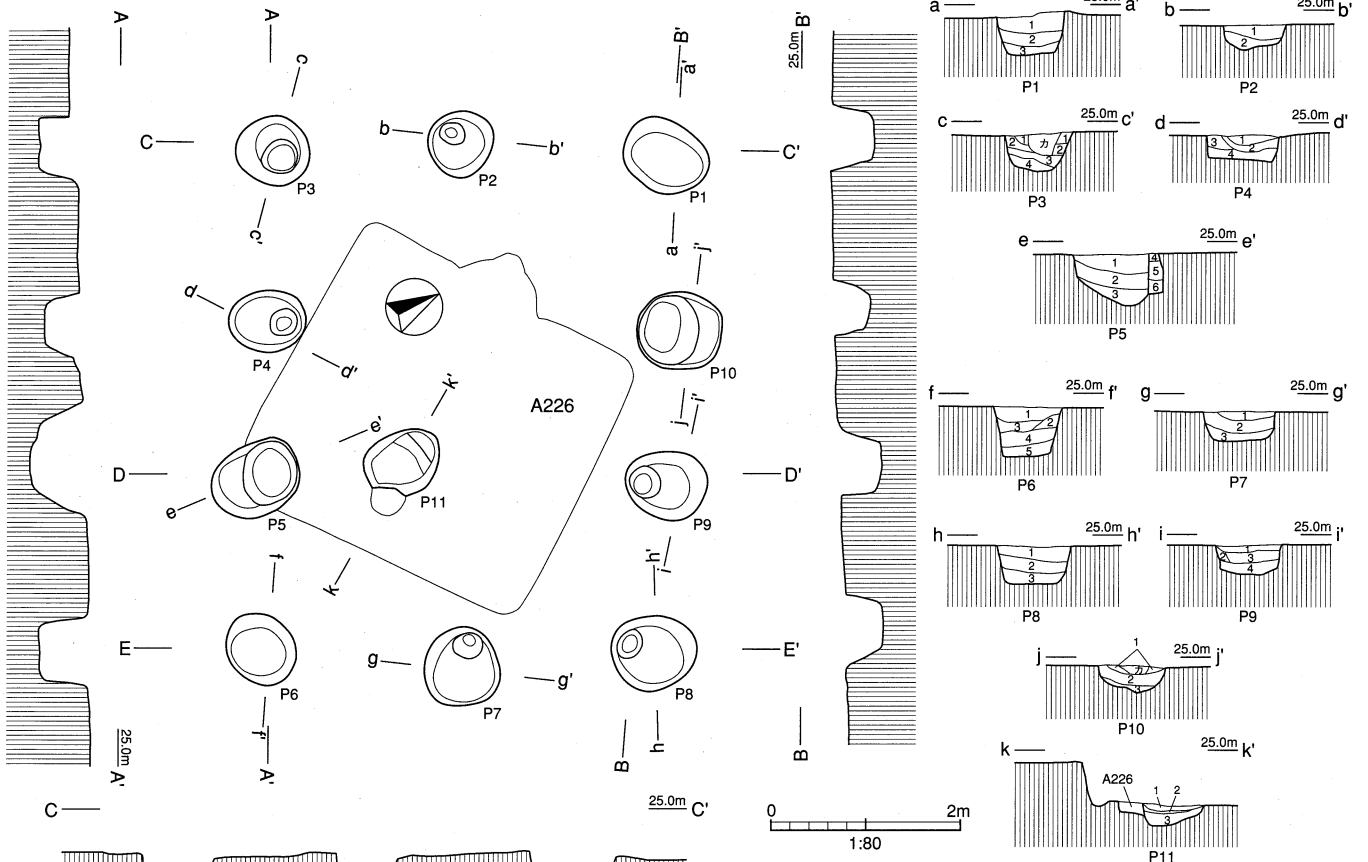
### B127

検出地区 L5-46-2・4g、47-1・2gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸4.76m×短軸3.28m、長軸方位はN-52°-Wを示す。柱痕は9基で検出され、P2・P4は柱痕の一部が確認できたものの柱痕覆土の乱れから柱材の引抜きが行われ、他の柱穴は立腐れと判断した。柱穴の掘込みは0.45～0.65mであり、比較的均一な深さとなっていた。覆土は柱穴により異なりはあるものの、黒褐色土・黒色土を主体とした突固められた人為的な充填土である。

遺物 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器の各小片が出土している。縄文早期・条痕文片が主体を占めるが、これらは覆土充填時の流込みととらえた。

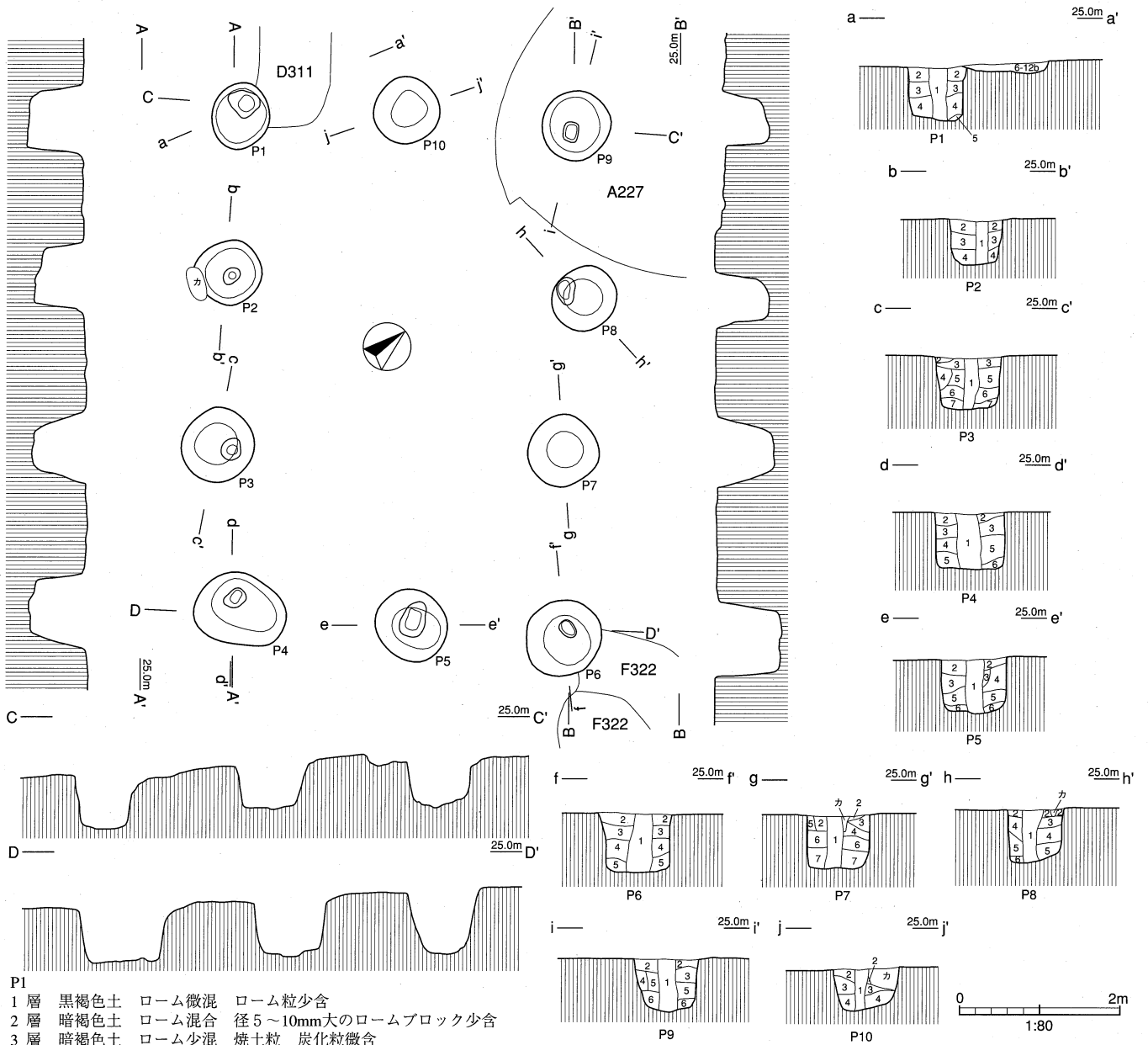
所見 周辺の遺構状況から奈良・平安時代の所産と捉えた。2×3間の建物跡であるが、遺構規模は他に比し小さい。弥生後期のA226とP8・P9において重複する。



- P4**
- |    |       |                               |        |
|----|-------|-------------------------------|--------|
| 1層 | 黒色土   | 少量の褐色土混入                      | ローム粒多含 |
| 2層 | 暗黄褐色土 | 黒色土主体の土に径30~50mm前後のロームブロック多含む |        |
| 3層 | 暗褐色土  | 黒色土主体の土に褐色土混入                 | ローム粒多含 |
| 4層 | 暗褐色土  | 黒色土主体の土に褐色土混入                 | ローム粒含  |
- P5**
- |    |      |                 |                        |
|----|------|-----------------|------------------------|
| 1層 | 黒色土  | 少量の褐色土混入        | 径50mm前後のロームブロック、ローム微粒含 |
| 2層 | 黒色土  | 暗褐色土混入          | ローム粒含 焼土粒微含            |
| 3層 | 黒色土  | 褐色土混入           | ロームブロック含               |
| 4層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に暗褐色土が混入 | ローム微粒含                 |
| 5層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に暗褐色土が混入 | ローム微粒、ロームブロック含         |
| 6層 | 暗褐色土 | 褐色土主体の土に暗褐色土が混入 | ローム微粒多含                |
- P6**
- |    |      |                          |                         |
|----|------|--------------------------|-------------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に褐色土が混入           | ローム微粒、ロームブロック含          |
| 2層 | 黒色土  | 黒色土主体の土に径10mm前後のロームブロック含 |                         |
| 3層 | 黒色土  | 黒色土主体の土に暗褐色土が混入          | ローム微粒少含                 |
| 4層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に褐色土が混入           | ローム微粒、径30mm前後のロームブロック多含 |
| 5層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に褐色土が混入           | ローム微粒、径30mm前後のロームブロック多含 |
- P7**
- |    |      |                |                               |
|----|------|----------------|-------------------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | 黒色土が混入         | ローム粒含                         |
| 2層 | 暗褐色土 | 黒色土が混入         | ローム粒、径30mm前後のロームブロック多含        |
| 3層 | 黒褐色土 | 黒色土主体の土に褐色土が混入 | ローム微粒、ローム微粒、径30mm前後のロームブロック多含 |

- P1**
- |    |      |                      |         |
|----|------|----------------------|---------|
| 1層 | 黒色土  | ロームブロックとローム微粒多含      |         |
| 2層 | 黒色土  | 径50mm前後のロームブロック含     | ローム微粒少含 |
| 3層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に褐色土とロームブロック含 | ローム微粒少含 |
- P2**
- |    |     |        |               |
|----|-----|--------|---------------|
| 1層 | 黒色土 | ローム微粒含 |               |
| 2層 | 黒色土 | 褐色土混入  | ローム粒、ロームブロック含 |
- P3**
- |    |      |                               |                        |
|----|------|-------------------------------|------------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に暗褐色土混入                | ローム微粒多含                |
| 2層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に暗褐色土、径30mm前後のロームブロック含 | ローム微粒含                 |
| 3層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に褐色土混入                 | ローム微粒少含                |
| 4層 | 褐色土  | 黒色土混入                         | 径10mm前後のロームブロック、ローム微粒含 |
- P8**
- |    |     |        |                  |
|----|-----|--------|------------------|
| 1層 | 黒色土 | 褐色土が混入 | ローム微粒含 焼土粒、炭化粒微含 |
| 2層 | 黒色土 | 褐色土が混入 | ローム微粒含           |
| 3層 | 褐色土 | 黒色土が混入 | ローム微粒、ロームブロック含   |
- P9**
- |    |      |           |                  |
|----|------|-----------|------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | 黒色土が混入    | ローム微粒少含          |
| 2層 | 暗褐色土 | 黒色土が混入    | ローム微粒含           |
| 3層 | 褐色土  | 黒色土が少量混入  | 径20mm前後のロームブロック含 |
| 4層 | 黒色土  | 少量の褐色土が混入 | 径20mm前後のロームブロック含 |
- P10**
- |    |      |                |         |
|----|------|----------------|---------|
| 1層 | 暗褐色土 | 黒色土主体の土に褐色土が混入 | ローム微粒含  |
| 2層 | 褐色土  | 黒色土が少量混入       | ローム微粒多含 |
| 3層 | 黒色土  | 褐色土が少量混入       | ローム微粒含  |
- P11**
- |    |       |             |        |         |
|----|-------|-------------|--------|---------|
| 1層 | 黒褐色土  | 焼土粒         | ローム粒多含 | 白色粘土を少含 |
| 2層 | 暗灰褐色土 | 焼土粒         | ローム粒少含 | 白色粘土を多含 |
| 3層 | 灰褐色土  | 白色粘土と黒褐色土混合 | ローム粒多含 |         |

図141 B125 (2)



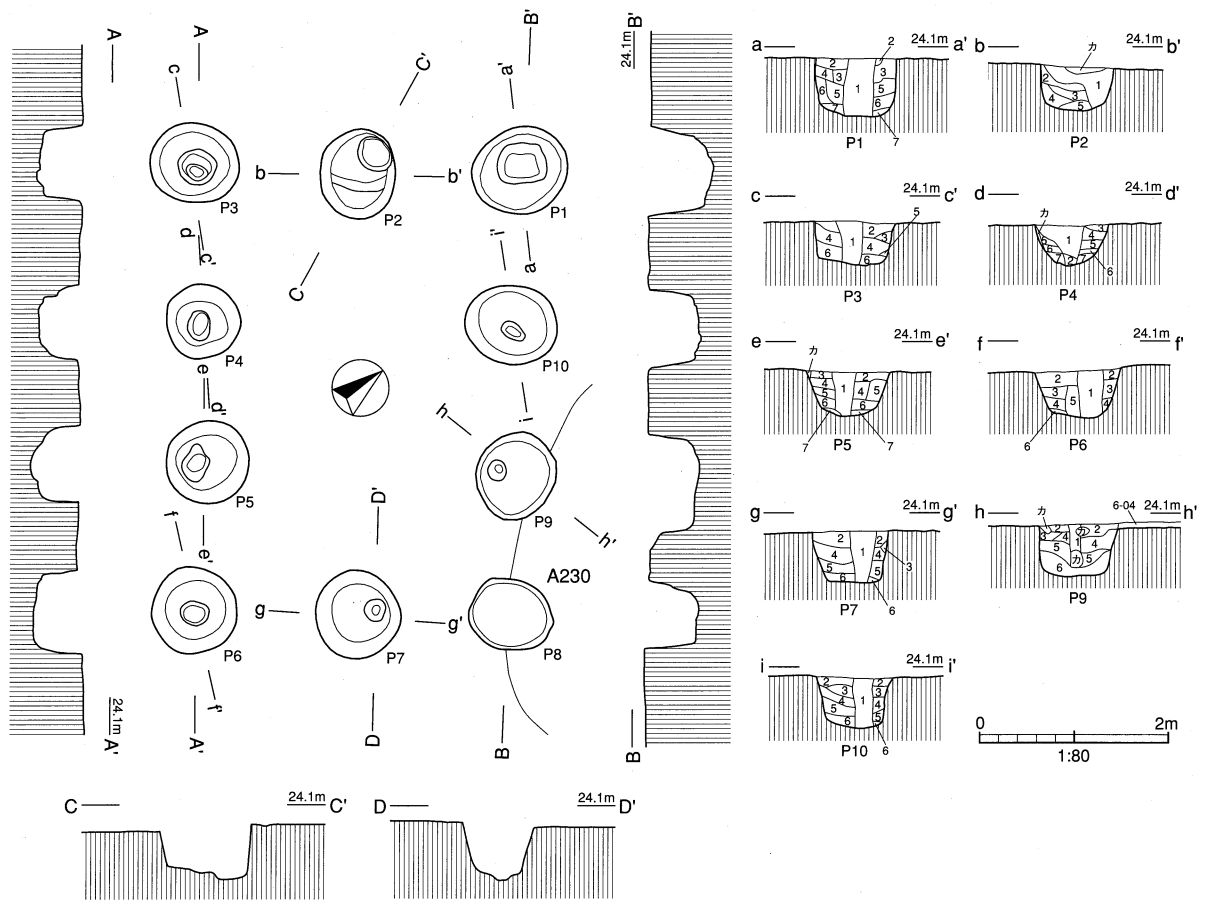
- P1**
- 1層 黒褐色土 ローム微混 ローム粒少含
  - 2層 暗褐色土 ローム混合 径5~10mm大のロームブロック少含
  - 3層 暗褐色土 ローム少混 焼土粒 炭化粒微含
  - 4層 黒褐色土 ローム微混 ローム粒少含
  - 5層 黒色土 径10mm大のロームブロック少含
- P2**
- 1層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含
  - 2層 暗褐色土 黒褐色土少混
  - 3層 暗褐色土 黒褐色土混合 ローム粒多含
  - 4層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含
- P3**
- 1層 黒色土 ローム微混 ローム粒少含
  - 2層 黄褐色土 黒色土微混
  - 3層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒 炭化粒少含
  - 4層 暗褐色土 黒褐色土少混
  - 5層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含
  - 6層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒微含 径5~20mm大のロームブロック少含
  - 7層 暗褐色土 ローム混合 ローム粒多含
- P4**
- 1層 黒褐色土 ローム少混 炭化粒少含
  - 2層 暗褐色土 径5~10mm大のロームブロック少含
  - 3層 黒色土 ローム少混
  - 4層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒多含
  - 5層 暗黄褐色土 ロームと暗褐色土粗く混合
  - 6層 黒色土 ローム粒多含
- P5**
- 1層 黒色土 ローム少混 粘土粒少含
  - 2層 暗褐色土 ローム少混 ローム粒少含
  - 3層 暗褐色土 ローム少混 ローム粒少含 径5~10mm大のロームブロック少含
  - 4層 黒黄褐色土 黒褐色土少混
  - 5層 黒褐色土 ローム少混 径5~10mm大のロームブロック少含
  - 6層 黒黄褐色土 ロームと暗褐色土混合

- P6**
- 1層 黒色土 ローム少混 粘土粒多含
  - 2層 黒色土 ローム少混 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒多含 5~20mm大のロームブロック少含
  - 4層 黒色土 ローム少混 ローム粒多含 径5~30mm大のロームブロック少含
  - 5層 暗褐色土 ローム微含
- P7**
- 1層 黒色土 ローム微混 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック微含
  - 2層 黒褐色土 ローム混合 ローム粒多含
  - 3層 黄褐色土 黒色土微混
  - 4層 黒褐色土 ローム粗く混合 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック多含
  - 5層 黒色土 ローム少混 ローム粒微含
  - 6層 黒色土 ローム少混 ローム粒多含 径5~30mm大のロームブロック多含
  - 7層 黒褐色土 ローム粗く混合 ローム粒、径5~20mm大のロームブロック多含
- P8**
- 1層 黒色土 ローム少混
  - 2層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒多含
  - 3層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒多含
  - 4層 黒色土 ローム微混 ローム粒少含
  - 5層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒多含
  - 6層 暗褐色土 ローム粒微含

- P9**
- 1層 黒色土 ローム微混 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒多含
  - 4層 暗褐色土 ローム混合
  - 5層 黒褐色土 ローム微混 ローム粒少含
  - 6層 黒褐色土 ローム粒少混 ローム粒径5~20mm大のロームブロック少含

- P10**
- 1層 黒褐色土 ローム粒微含
  - 2層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含
  - 3層 黒褐色土 ローム粒微含
  - 4層 暗褐色土 ローム混合 ローム粒多含

図142 B126



**P1**

- 1層 黒褐色土 ローム微含
- 2層 黒褐色土 ローム少含
- 3層 暗褐色土 黒色土とローム混合 ローム多含
- 4層 黒色土 ローム粒少混 径10mm大のロームブロック少含
- 5層 黒色土 ローム粒少含 径5mm大のロームブロック少含
- 6層 黒褐色土 黒色土混合 ローム少含
- 7層 暗褐色土 ローム主体 黒色土少混

**P2**

- 1層 暗褐色土 ロームと黒色土が混合 径10mm~20mm大のロームブロック少含
- 2層 黒色土 ローム粒多含
- 3層 黒褐色土 ローム粒多含
- 4層 黒色土 ローム粒多含
- 5層 暗黄褐色土 黒色土少混

**P3**

- 1層 黒褐色土 ローム粒少含
- 2層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含
- 3層 黒色土 ローム粒微含
- 4層 黒褐色土 ローム少含 ローム粒多含
- 5層 黒色土 ローム粒微含
- 6層 黒褐色土 ローム粒微含

**P4**

- 1層 黒褐色土 黒色土とローム混合 径5mm大のロームブロック多含
- 2層 暗褐色土 径5mm大のロームブロック少含
- 3層 黒色土 ローム粒含
- 4層 黒褐色土 黒色土少量 ローム混合
- 5層 暗褐色土 黒色土とローム混合
- 6層 黒褐色土 黒色土とローム混合
- 7層 暗褐色土 黒色土とロームが混合

**P5**

- 1層 黒褐色土 黒褐色土主体 ローム微粒含
- 2層 黒褐色土 黒褐色土主体 ロームが少量混
- 3層 黒色土 ローム粒微含
- 4層 黒褐色土 黒色土主体 ローム粒少含
- 5層 黒色土 黒色土主体 ローム粒多含
- 6層 黄褐色土 ローム主体
- 7層 黄褐色土 ソフトローム

**P6**

- 1層 黒褐色土 ローム粒微含
- 2層 黒色土 ローム粒微含
- 3層 黒褐色土 ローム混合
- 4層 黒褐色土 黒色土とローム混合
- 5層 黒褐色土 黒褐色土主体
- 6層 黒褐色土 黒色土にロームが少混

**P7**

- 1層 黒褐色土 ローム微含
- 2層 黒色土 ローム微含
- 3層 黄褐色土 ソフトロームブロック
- 4層 黒色土 黒色土主体
- 5層 暗褐色土 黒色土ローム混合
- 6層 暗黄褐色土 ローム主体

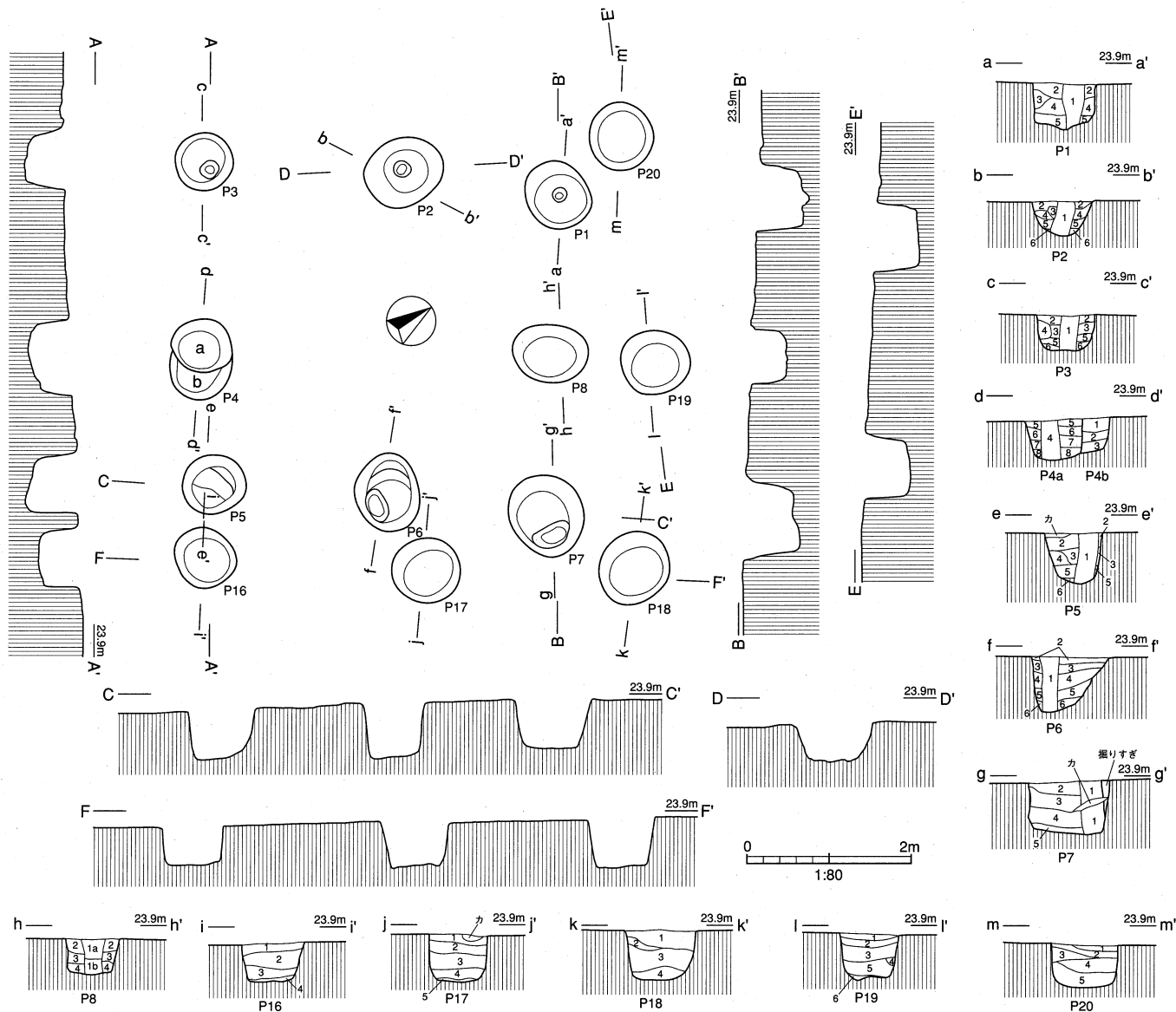
**P9**

- 1層 黒褐色土 ローム微粒含
- 2層 黒褐色土 ローム少量混入
- 3層 暗褐色土 ローム、黒色土が混合
- 4層 黒褐色土 黒色土主体 ローム粒多量含
- 5層 暗褐色土 ロームと黒色土混合 径5mm大のロームブロック少含
- 6層 黒色土 ローム粒多含 径5mm大のロームブロックを多含

**P10**

- 1層 黒褐色土 黒色土主体 ロームが少混
- 2層 黒色土 ローム粒微含
- 3層 黒褐色土 ロームが少混
- 4層 黒色土 ローム微含
- 5層 黒色土 ローム粒微含
- 6層 黒色土 黒色土主体土

図143 B127



**P1**  
 1層 黒色土 炭化粒多含 細かな炭化材混合 ローム粒多含  
 2層 暗褐色土 ローム粒 径5mm大のロームブロック多含  
 3層 黒褐色土 ロームが粗く混合 径5mm大のロームブロック多含  
 4層 黒褐色土 ローム混合 ローム粒少含  
 5層 黒褐色土 ローム微混 ローム粒少含径5mm大のロームブロック少含

**P2**  
 1層 黒褐色土 ローム微混 炭化粒 ローム粒少含  
 2層 暗褐色土 ローム粒少含  
 3層 黒色土 ローム粒少含  
 4層 暗褐色土 ローム少混 ローム粒多含  
 5層 黒褐色土 ローム微混 ローム粒多含  
 6層 黒褐色土 ローム微混

**P3**  
 1層 黒褐色土 ローム微混 炭化粒 ローム粒微含  
 2層 暗褐色土 ローム粒多含  
 3層 暗褐色土 ローム粒多含  
 4層 黒色土 ローム粒少含  
 5層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含  
 6層 黒褐色土 ローム粒微含

**P4**  
 1層 黒黄褐色土 ローム粗く混合  
 2層 暗褐色土 ローム粗く混合  
 3層 暗褐色土 ローム粗く混合 2層より黒褐色土の量が多い  
 4層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒微含  
 5層 暗褐色土 ローム少混 ローム粒多含  
 6層 黒黄褐色土 暗褐色土少混  
 7層 暗黄褐色土 暗褐色土 黒色土少混  
 8層 暗褐色土 ローム粒少含

**P5**  
 1層 暗灰褐色土 白色粘土少混 炭化粒少含  
 2層 黒褐色土 ローム粒少含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含 炭化粒微含  
 4層 暗褐色土 ローム粒微含  
 5層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含  
 6層 暗黄褐色土 ローム粗く混合

**P6**  
 1層 灰褐色土 ローム微混 炭化粒 ローム粒少含  
 2層 黒黄褐色土 ローム粗く混合  
 3層 暗褐色土 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒多含  
 5層 暗褐色土 ローム微混 ローム粒多含  
 6層 暗褐色土 ローム微混

**P7**  
 1層 黒色土 炭化粒 10mm位の炭化材多混 焼土粒少含  
 2層 暗黄褐色土 径20~30mm大のロームブロック多混  
 3層 暗褐色土 径20~30mm大のロームブロック少混  
 4層 暗褐色土 ローム少混 径20~30mm大のロームブロック少含  
 5層 黄褐色土 暗褐色土少混

**P8**  
 1層 黒色土 炭化粒 10mm位の炭化材多含  
 2層 黒褐色土 炭化粒少混  
 3層 暗褐色土 ローム粒多含 焼土粒少含  
 4層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含  
 5層 黒褐色土 ローム粒微含

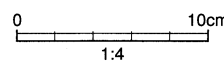
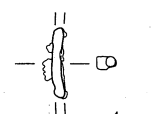


図144 B128ab

P16  
 1層 暗黄褐色土 ローム粗く混合  
 2層 暗褐色土 ローム少混 ローム粒少含  
 3層 黒褐色土 暗褐色土少混 ローム粒少含  
 4層 暗褐色土 ローム粗く混合

P17  
 1層 暗褐色土 黒色土少混 ローム粒多含  
 2層 黒褐色土 ローム少混  
 3層 黒褐色土 ローム少混 径5~10mm大のロームブロック多含  
 4層 黄褐色土 黒色土少混 ロームブロック多含  
 5層 暗褐色土 黒色土粗く混合

P18  
 1層 黄褐色土 黒色土少混 径10~30mm大のロームブロック多含  
 2層 暗褐色土 ローム粗く混合  
 3層 黒褐色土 ローム少混 径5~30mm大のロームブロック少含  
 4層 暗褐色土 ロームと黒色土粗く混合

P19  
 1層 暗褐色土 ローム粒微含  
 2層 黒褐色土 ローム粒微含  
 3層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒微含  
 4層 黄褐色土 ソフトロームブロック  
 5層 暗褐色土 ロームと暗褐色土粗く混合  
 6層 暗黄褐色土 黒色土少混

P20  
 1層 暗黄褐色土 ロームと暗褐色土粗く混合 ローム粒少含  
 2層 暗褐色土 ローム少混 黒色土微含  
 3層 黒褐色土 ローム粒少含  
 4層 黒褐色土 ローム少混 ローム粒少含 径10mm大のロームブロック少含  
 5層 暗黄褐色土 黒色土と暗褐色土粗く混合

図145 B128ab (2)

B128a・b

検出地区 L5-49-3g、58-2g、59-1~3gに

遺構 B128aは2×2間の建物跡で、長軸4.20m×短軸4.12m、長軸方位はN-38° -Eを示す。本遺構の柱穴はP1~P8であり、柱痕は全ての柱穴で検出し、柱材は立腐れと捉えた。柱穴の掘込みの深さは0.44~0.68mで、北東側柱列が深い傾向が窺えた。覆土は黒褐色土を主体としていた。

B128bは2×2間の建物跡で、長軸5.66m×短軸5.16m、長軸方位はN-36° -Eを示す。本建物跡の柱穴はP16~P20・P2~P4であり、P2・P3はA128aと兼用し、P4はP4bが柱穴配置上で捉えた。柱痕はP8のみで検出したが、他の柱穴は整然とした覆土であり、柱材は立腐れと想定した。掘込みは0.46~0.60mと比較的均一であった。覆土は黒褐色土・暗褐色土のを主体としていた。

遺物 ともに土師器・須恵器片などが出土するが、縄文早期・条痕文片が主体を占める。

所見 2棟の重複した掘立柱建物跡である。柱穴配置上でP4aをB128aとした。この場合、先後関係はB128a→B128bとなる。当初は拡張と考えていたが、建物跡の縮小ということになり、時期の移動があるかも知れない。

B129

検出地区 L5-10-3g、19-2g、20-1~4gに

遺構 2×3間の掘立柱建物跡で、長軸6.78m×短軸4.00m、長軸方位はN-66° -Wを示す。柱痕は全ての柱穴で検出し、柱材は基本的に立腐れと捉えたが、P5・P8の柱痕覆土の上部が広がるため、柱材の掘返しによる引抜きの可能性も否定できなかった。柱穴の掘込みは0.32~0.68mであり、P1・P3・P6・P8と四隅が0.51~0.68mと深く、中間の柱穴は0.32~0.44mと浅くなる傾向が窺えた。覆土は暗褐色土・褐色土などを主体に、柱材を建てるための充填覆土であり、突固められていた。

遺物 土師器・須恵器片などが出土するが、縄文早期・条痕文片が主体を占める。

所見 細身の掘立柱建物跡である。建物跡規模の割に柱穴規模が小さく、深さも浅い遺構である。

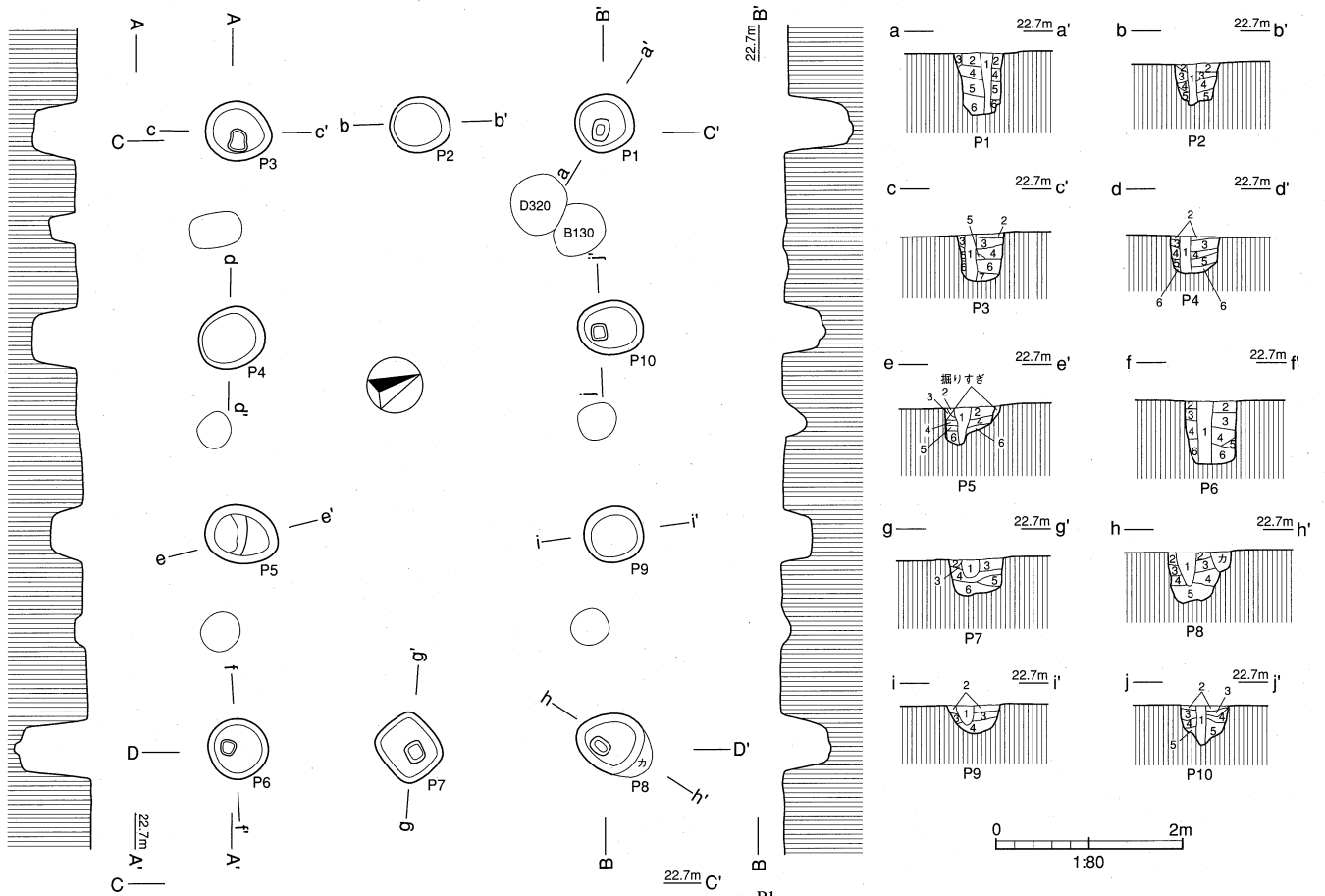
B130

検出地区 L5-11-1~3gにて検出した。

遺構 1×2間の掘立柱建物跡であり、長軸4.32m×短軸3.98m、長軸方位はN-67° -Wを示す。柱痕はP1・P2・P6で検出されたが、他は不明である。柱材の立腐れと引抜きが混在したかも知れない。掘込みは浅く0.11~0.27mであり、均一化している。覆土は暗褐色土・黒褐色土を主体とした充填土である。

遺物 土師器・須恵器片などが出土する。縄文早期・条痕文片が主体とを占めるが、覆土充填による流込みである。

所見 B129の側柱の支柱穴の様子も窺えたが、柱間軸線から若干外れる為、単独の建物跡と捉えた。建直しとしても先後関係は不明である。



- P3**
- |    |       |                |
|----|-------|----------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体         |
| 2層 | 褐色土   | 濁ったロームと暗褐色土が混合 |
| 3層 | 暗褐色土  | 褐色土少含          |
| 4層 | 黒色土   | 暗褐色土が混合        |
| 5層 | 黒褐色土  | 白色粘土ブロック 天井が崩落 |
| 6層 | 暗黄褐色土 | 濁ったロームと暗褐色土が混合 |
| 7層 | 暗褐色土  | 濁ったロームと暗褐色土が混合 |

- P4**
- |    |       |                   |
|----|-------|-------------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土主体         |
| 2層 | 褐色土   | 褐色土とロームが混合        |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 濁ったロームと少量の暗褐色土が混合 |
| 4層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合 |
| 5層 | 暗褐色土  | 濁ったロームが極少量滲むように含  |
| 6層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合 |

- P5**
- |    |       |                      |
|----|-------|----------------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土主体            |
| 2層 | 暗褐色土  | 少量の黒色土が混合            |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 濁ったロームが主体 少量の暗褐色土を混入 |
| 4層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体 濁ったロームを少混入    |
| 5層 | 黄色土   | 濁ったローム主体             |
| 6層 | 暗褐色土  | 暗褐色土が主体 濁ったロームが少含    |

- P6**
- |    |       |                                 |
|----|-------|---------------------------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土主体                       |
| 2層 | 褐色土   | 褐色土と少量の濁ったロームが混合                |
| 3層 | 暗褐色土  | 少量のロームが混合                       |
| 4層 | 暗褐色土  | 濁ったロームが少量滲むように混入                |
| 5層 | 黒褐色土  | 濁ったロームが少量混入                     |
| 6層 | 暗黄褐色土 | 濁ったロームと暗褐色土が混合 部分的にロームの小ブロックが混入 |

- P1**
- |    |       |                   |
|----|-------|-------------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体            |
| 2層 | 黒色土   | 濁ったローム少含          |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 濁ったローム主体          |
| 4層 | 黒色土   | 濁ったローム少含          |
| 5層 | 暗黄褐色土 | 濁ったロームと暗褐色土が混合    |
| 6層 | 暗褐色土  | 少量の濁ったロームと暗褐色土が混合 |

- P2**
- |    |      |                |
|----|------|----------------|
| 1層 | 暗褐色土 | 暗褐色土主体         |
| 2層 | 暗褐色土 | 暗褐色土と褐色土が混合    |
| 3層 | 暗褐色土 | 濁ったロームと暗褐色土が混合 |
| 4層 | 黒色土  | 濁ったローム少含       |
| 5層 | 暗褐色土 | 濁ったロームと暗褐色土が混合 |

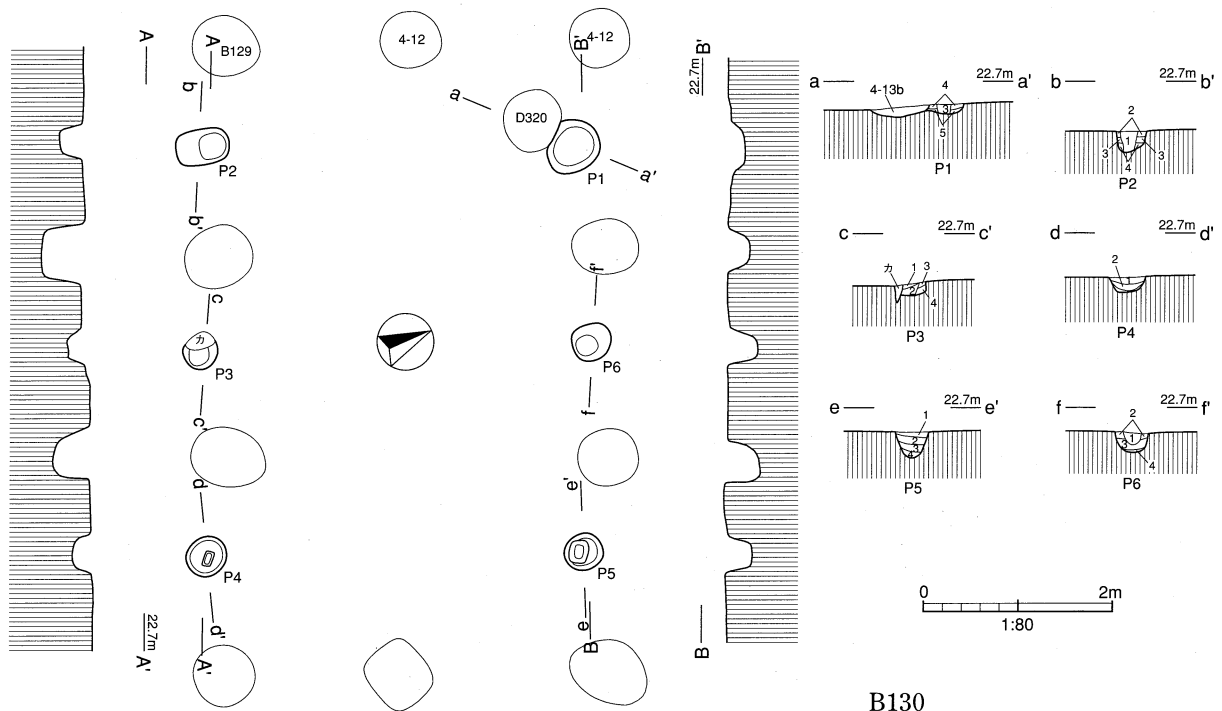
- P7**
- |    |       |                      |
|----|-------|----------------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土主体            |
| 2層 | 褐色土   | 褐色土主体                |
| 3層 | 黒褐色土  | 黒褐色土主体               |
| 4層 | 暗黄褐色土 | 濁ったロームと少量の暗黄褐色土が混合   |
| 5層 | 暗褐色土  | 濁ったロームと暗褐色土が混合 色調は暗い |
| 6層 | 暗褐色土  | 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合    |

- P8**
- |    |      |                                |
|----|------|--------------------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | 柱痕 暗褐色土主体                      |
| 2層 | 褐色土  | 褐色土主体                          |
| 3層 | 褐色土  | 少量の暗褐色土を混合                     |
| 4層 | 黒褐色土 | 黒褐色土と濁ったローム混合 部分的にロームの小ブロックを混入 |
| 5層 | 黒色土  | 濁ったローム少混入                      |

- P9**
- |    |      |                     |
|----|------|---------------------|
| 1層 | 暗褐色土 | 柱痕 暗褐色土主体           |
| 2層 | 暗褐色土 | 少量の黒色土が混合 ローム微粒含    |
| 3層 | 暗褐色土 | 少量の濁ったロームが混合 ローム微粒含 |
| 4層 | 暗褐色土 | 少量の黒色土が混合           |

- P10**
- |    |       |                     |
|----|-------|---------------------|
| 1層 | 暗褐色土  | 柱痕 褐色土主体            |
| 2層 | 暗黄褐色土 | 濁ったロームと少量の暗褐色土が混合   |
| 3層 | 黒色土   | 濁ったロームが少量混入         |
| 4層 | 暗黄色土  | 濁ったロームが主体 暗褐色土が少量混入 |
| 5層 | 黒色土   | 濁ったローム極少混入          |

図146 B129



B130

- P1**  
 3層 暗褐色土 柱痕 暗褐色土主体  
 4層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土が混合  
 5層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土が混合

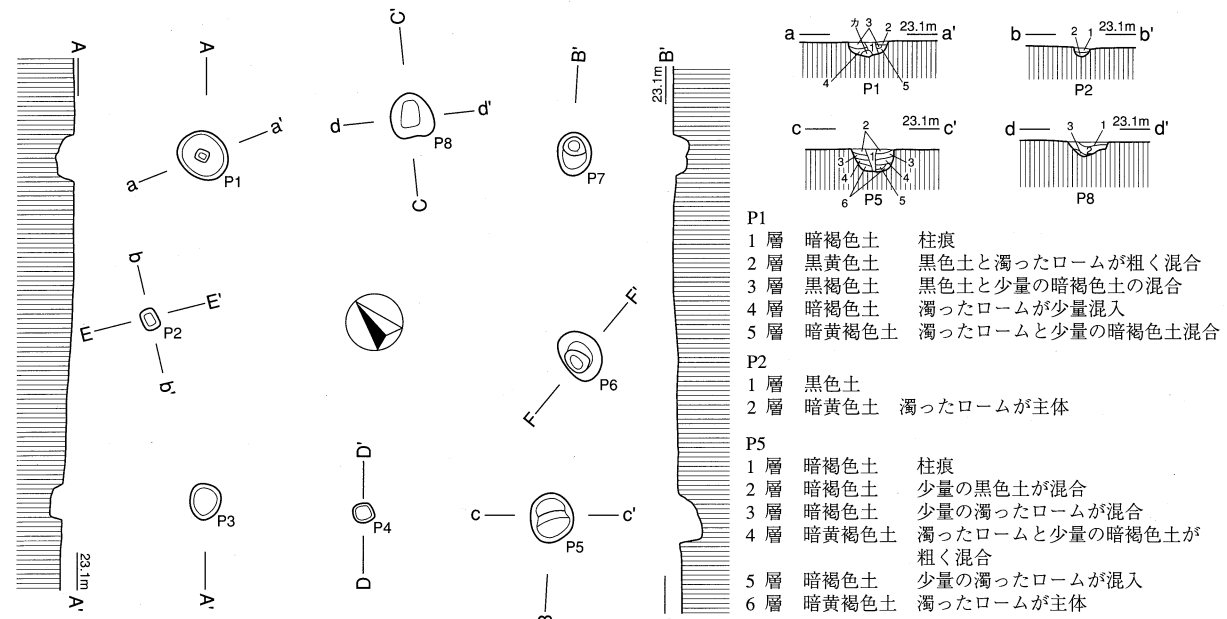
- P2**  
 1層 暗褐色土 ローム微粒少含  
 2層 褐色土 濁ったロームが極少量含  
 3層 黒褐色土 黒色土と暗褐色土が混合  
 4層 黒褐色土 黒色土と暗褐色土が混合した土に濁ったローム少含

- P3**  
 1層 褐色土 褐色土主体  
 2層 黒褐色土 黒色土と暗褐色土が粗く混合  
 3層 褐色土 濁ったローム少量混入  
 4層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土混合

- P4**  
 1層 褐色土 褐色土と少量の濁ったロームが混合  
 2層 黒色土 黒色土と少量の暗褐色土が混合

- P5**  
 1層 褐色土 褐色土と少量の濁ったロームが混合  
 2層 暗褐色土 濁ったロームが極少量混入  
 3層 暗褐色土 暗褐色土主体  
 4層 暗褐色土 少量の黒色土混入

- P6**  
 1層 暗褐色土 柱痕  
 2層 褐色土 少量の暗褐色土が混合  
 3層 褐色土 黒色土と暗褐色土が混合の土に濁ったロームが混入  
 4層 暗黄褐色土 少量の濁ったローム混合



- P1**  
 1層 暗褐色土 柱痕  
 2層 黒黄褐色土 黒色土と濁ったロームが粗く混合  
 3層 黒褐色土 黒色土と少量の暗褐色土の混合  
 4層 暗褐色土 濁ったロームが少量混入  
 5層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土混合

- P2**  
 1層 黒色土  
 2層 暗黄褐色土 濁ったロームが主体

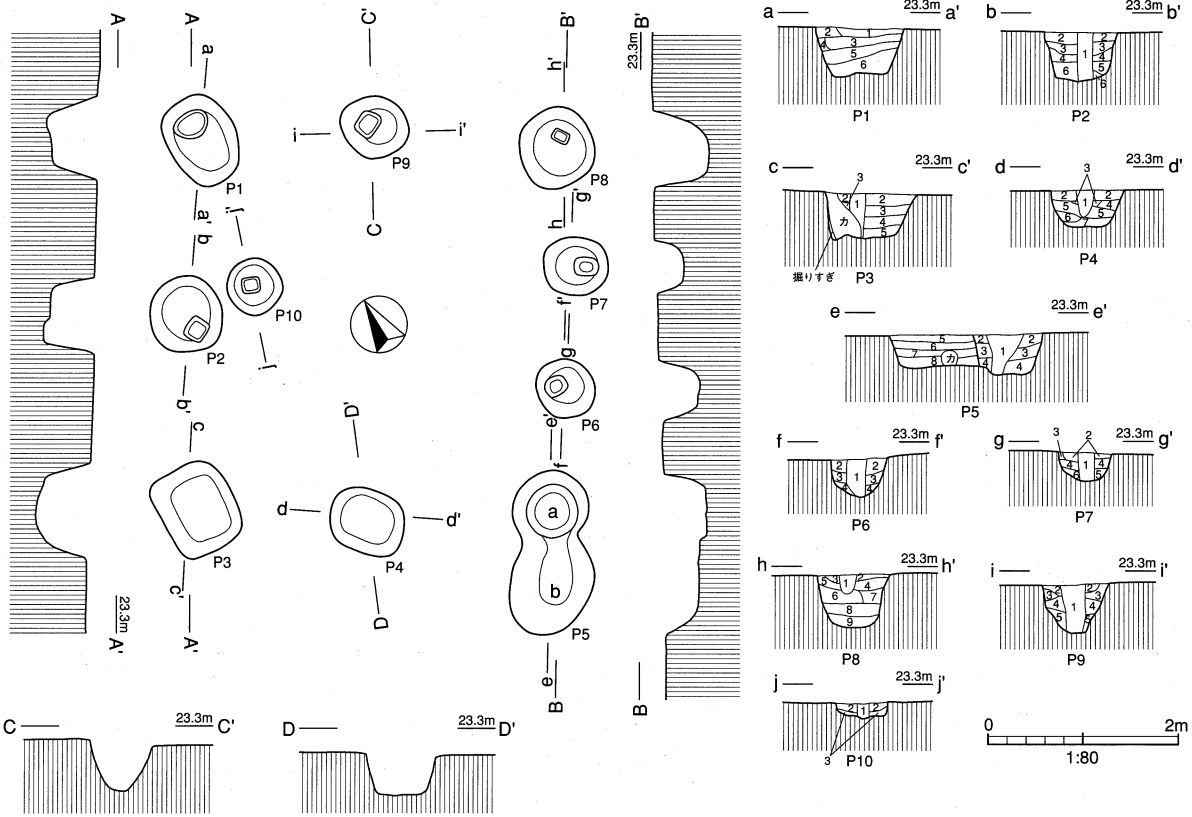
- P5**  
 1層 暗褐色土 柱痕  
 2層 暗褐色土 少量の黒色土が混合  
 3層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混合  
 4層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土が粗く混合  
 5層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混入  
 6層 暗黄褐色土 濁ったロームが主体

- P8**  
 1層 暗褐色土 ローム微粒少含  
 2層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土が粗く混合  
 3層 暗黄色土 濁ったロームが主体

B131

図147 B130・B131





**P1**

- 1層 暗褐色土 少量の濁ったロームが粗く混合
- 2層 暗褐色土 ローム微粒少含
- 3層 暗褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合
- 4層 暗黄褐色土 黒色土と暗褐色土が混合し、濁ったロームが粗く混合 ローム微粒多含 ローム小粒微含
- 5層 黒褐色土 濁ったロームが粗く混合
- 6層 暗褐色土

**P2**

- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 暗褐色土 濁ったロームが混合 ローム微粒多含
- 3層 暗黄褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合
- 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と多量の濁ったロームが粗く混合
- 5層 暗褐色土 濁ったロームが少量混入
- 6層 暗黄褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合

**P-3**

- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 黒褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合 ローム微粒多含
- 3層 黒褐色土 黒色土と濁ったロームが混合 ローム微粒少含
- 4層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混合
- 5層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混合 ローム微粒少含

**P4**

- 1層 暗褐色土
- 2層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混合 ローム微粒少含
- 3層 暗褐色土
- 4層 暗黄褐色土 濁ったロームと少量の暗褐色土が混合 ロームの大きな固まり含む
- 5層 黒黄色土 黒色土と濁ったロームが粗く混合
- 6層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土が粗く混合
- 7層 暗黄色土 濁ったローム主体 暗褐色土少量混入 ロームの大きな固まり含む

**P5**

- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 暗褐色土 少量の黒色土が混合
- 3層 暗褐色土
- 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と濁ったロームと極少量の黒色土が混合
- 5層 暗褐色土
- 6層 暗褐色土 少量の褐色土が混合
- 7層 暗褐色土 極少量の濁ったロームが混合
- 8層 暗黄色土 濁ったローム主体 暗褐色土少含

**P6**

- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 暗褐色土 極少量の濁ったロームが混合
- 3層 暗黄褐色土 濁ったロームが粗く混合
- 4層 暗黄色土 濁ったロームが主体 暗褐色土が極少量混入

**P7**

- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 暗褐色土 極少量の濁ったロームが混合
- 3層 暗黄色土 濁ったロームが主体 暗褐色土が少量混入
- 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合
- 5層 暗褐色土 暗褐色土と少量の濁ったロームが混合
- 6層 暗黄色土 濁ったロームが主体 暗褐色土が極少量混入

**P8**

- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 暗黄褐色土 少量の暗褐色土と濁ったロームが混合
- 3層 暗褐色土 ローム微粒混入
- 4層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の濁ったロームが混合
- 5層 暗黄褐色土 暗褐色土とロームブロックが混合
- 6層 暗褐色土 濁ったロームが少量混入
- 7層 暗黄褐色土 濁ったロームが粗く混合
- 8層 暗褐色土
- 9層 暗褐色土 極少量の濁ったロームが混合

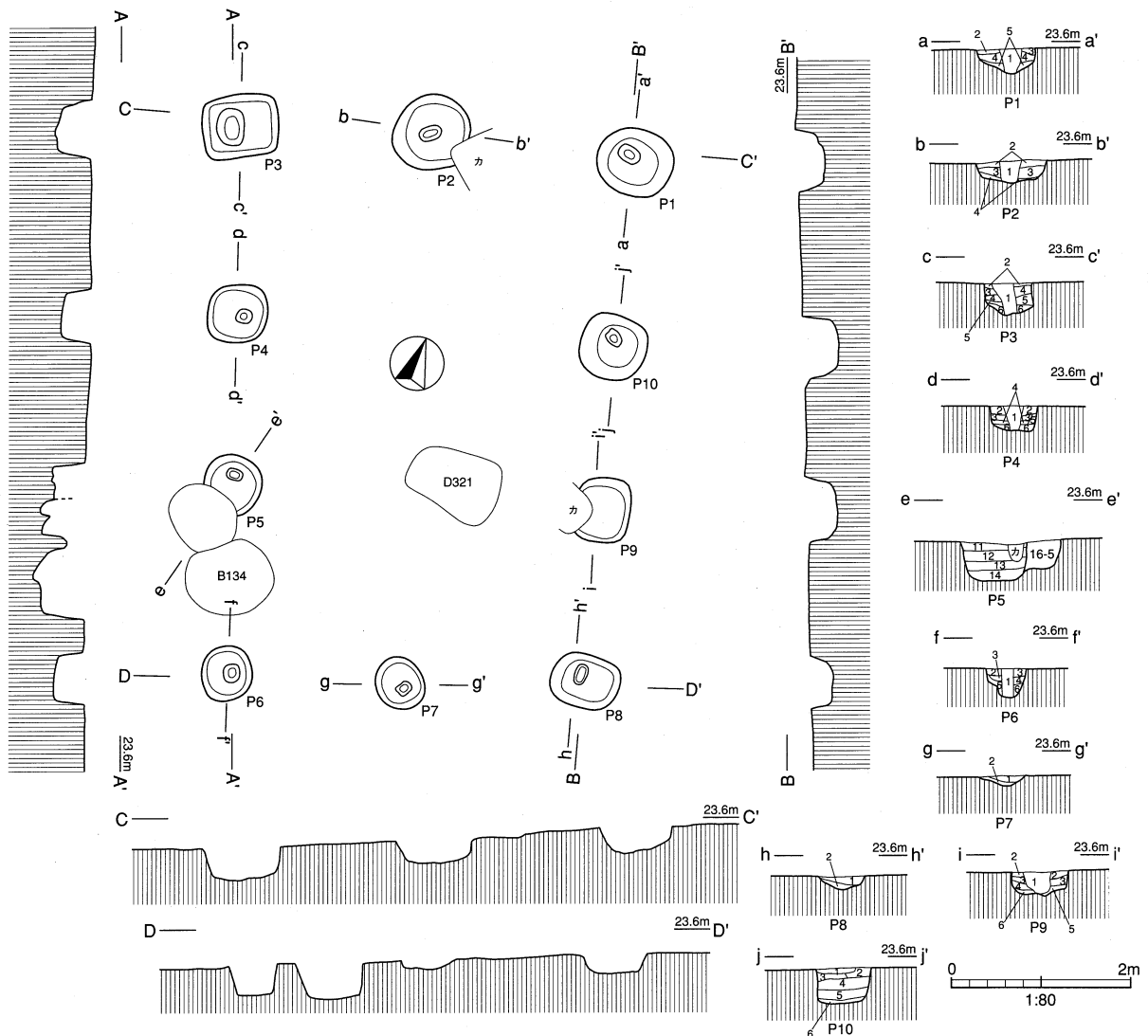
**P9**

- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 暗黄褐色土 少量の濁ったロームが滲むように混合
- 3層 暗黄色土 濁ったロームが主体 暗褐色土が少量混入
- 4層 暗黄褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合
- 5層 暗褐色土 少量の濁ったロームが粗く混合

**P10**

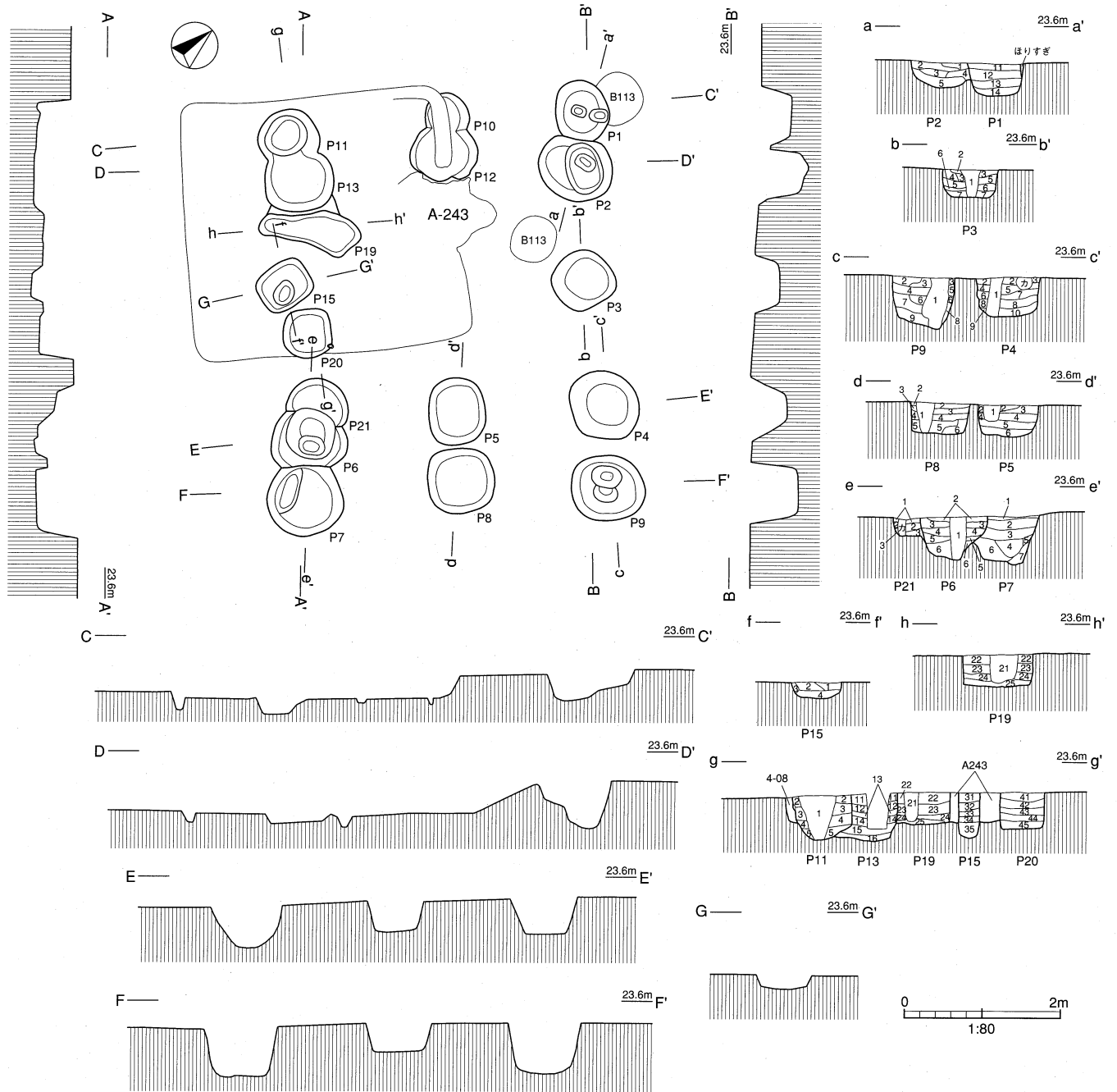
- 1層 暗褐色土 柱痕
- 2層 暗褐色土 少量のロームが混合 人為的に埋めたもの
- 3層 暗褐色土 ロームが混合 人為的に埋めたもの

図148 B132



- |            |          |                              |
|------------|----------|------------------------------|
| <b>P1</b>  | 1層 暗褐色土  | 柱痕 黒色土小混入                    |
|            | 2層 黒褐色土  | 黒色土と暗褐色土が混合                  |
|            | 3層 黒黄褐色土 | 黒色土と濁ったロームがやや粗く混合            |
|            | 4層 黒褐色土  | 黒色土と濁ったロームが混合                |
|            | 5層 黒黄色土  | 黒色土と濁ったロームが少し粗く混合            |
| <b>P2</b>  | 1層 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土が主体の土に少し滲むように濁ったロームが含 |
|            | 2層 黒褐色土  | 黒色土と暗褐色土が混合 部分的に少し濁ったロームが含   |
|            | 3層 黒褐色土  | 黒褐色土と濁ったロームが少し粗く混合           |
|            | 4層 暗黄色土  | 濁ったロームが主体の土に暗褐色土を混合          |
| <b>P3</b>  | 1層 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土中に濁ったロームが少し粗く混入       |
|            | 2層 暗褐色土  | 暗褐色土主体の層                     |
|            | 3層 褐色土   | 褐色土と少量の濁ったローム混合              |
|            | 4層 暗褐色土  | 暗褐色土と濁ったロームが少し粗く混合           |
|            | 5層 暗褐色土  | 暗褐色土と濁ったローム混合                |
|            | 6層 暗黄褐色土 | 濁ったロームが混合 ローム小粒少含            |
| <b>P4</b>  | 1層 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土が主体の層に濁ったロームが混入       |
|            | 2層 黒色土   | 黒色土が主体の土に暗褐色土が混入             |
|            | 3層 黒褐色土  | 黒色土と濁ったローム少量が滲むように混合         |
|            | 4層 黒褐色土  | 黒色土と暗褐色土として極少量の濁ったロームが混合     |
|            | 5層 暗黄褐色土 | 濁ったロームが主体になる土                |
|            | 6層 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土と濁ったロームがやや粗く混合          |
| <b>P5</b>  | 1層 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土が主体の土 濁ったロームを少量混入     |
|            | 2層 黒褐色土  | 黒色土に濁ったロームが混合 黒色土の量は極少量      |
|            | 3層 黒褐色土  | 黒色土と少量の濁ったロームと少量の暗褐色土が混合     |
|            | 4層 黒褐色土  | 黒色土と暗褐色土が混合                  |
|            | 5層 暗黄褐色土 | 濁ったロームが主体 暗褐色土は微含            |
|            | 6層 暗黄褐色土 | 暗褐色土と濁ったロームが混合               |
| <b>P6</b>  | 1層 暗褐色土  | 柱痕 暗褐色土が主体の土                 |
|            | 2層 暗褐色土  | 濁ったロームが少含                    |
|            | 3層 暗褐色土  | 少量のロームを混合                    |
|            | 4層 暗黄褐色土 | 濁ったロームが主体の土                  |
|            | 5層 暗黄褐色土 | 暗褐色土が少含                      |
|            | 6層 暗褐色土  | 濁ったロームが主体の土 暗褐色土が少含          |
| <b>P7</b>  | 1層 暗褐色土  | 暗褐色土と褐色土が混合                  |
|            | 2層 暗黄褐色土 | 濁ったロームが主体になる土                |
| <b>P8</b>  | 1層 暗褐色土  | 暗褐色土と褐色土が混合                  |
|            | 2層 暗黄褐色土 | 濁ったロームが主体の土                  |
| <b>P9</b>  | 1層 暗褐色土  | 柱痕 少しボロボロとした土                |
|            | 2層 暗褐色土  | 少量の濁ったロームを混合                 |
|            | 3層 黒褐色土  | 黒色土と暗褐色土とそして少量の濁ったロームが混合     |
|            | 4層 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土と少量の濁ったロームが混合           |
|            | 5層 暗褐色土  | 暗褐色土と少量のロームが混合               |
|            | 6層 暗黄褐色土 | 濁ったロームが主体になる土で少量の暗褐色土が混入     |
| <b>P10</b> | 1層 暗褐色土  | 少量の濁ったロームが混合                 |
|            | 2層 暗褐色土  | 少量の濁ったロームが混合                 |
|            | 3層 暗褐色土  | 黒色土と暗褐色土が混合                  |
|            | 4層 暗黄褐色土 | 黒褐色土と暗褐色土少量が混合               |
|            | 5層 黒褐色土  | 黒色土と暗褐色土極少量が混合               |
|            | 6層 黒黄褐色土 | 黒色土と暗褐色土と濁ったロームが混合           |

図149 B133



- |  |  |
|--|--|
| <p><b>P1</b></p> <p>11層 暗褐色土 濁ったロームが少量混入</p> <p>12層 暗褐色土 少量の黒色土と極少量の濁ったローム混合</p> <p>13層 暗黄褐色土 濁ったローム多量と暗褐色土少量が混合</p> <p>14層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混合</p> <p><b>P2</b></p> <p>1層 黒褐色土 黒褐色土と極少量の濁ったロームが混合</p> <p>2層 暗褐色土 暗褐色土と褐色土として極少量の濁ったロームが混合</p> <p>3層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土が混合 暗褐色土の色調が強い</p> <p>4層 黒黄褐色土 黒褐色土と少量の濁ったロームが混合</p> <p>5層 暗黄褐色土 濁ったロームとロームの大粒、小粒が混合 暗褐色土極少量含</p> <p><b>P3</b></p> <p>1層 暗褐色土 黒色土や褐色土が少混入</p> <p>2層 褐色土 褐色土と少量の暗褐色土が混合</p> <p>3層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土が混合</p> <p>4層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土と極少量の黒色土が混合</p> <p>5層 黒黄褐色土 黒色土と濁ったローム少量が混合</p> <p>6層 暗黄褐色土 濁ったローム少量と暗褐色土が混合</p> <p>7層 暗黄褐色土 濁ったローム少量と暗褐色土が混合</p> | <p><b>P4</b></p> <p>1層 暗褐色土 柱痕</p> <p>2層 暗褐色土 少量の褐色土が混合 ローム微粒少含</p> <p>3層 暗黄褐色土 濁ったロームと暗褐色土が混合</p> <p>4層 黒褐色土 暗褐色土が少量混入</p> <p>5層 暗褐色土 ローム微粒少含</p> <p>6層 暗褐色土 ローム微粒少量混入</p> <p>7層 暗褐色土 ロームの少粒がやや多含</p> <p>8層 暗褐色土 極少量の濁ったロームが混入</p> <p>9層 黒色土 ローム微粒が数点含</p> <p>10層 暗黄色土 濁ったローム主体となる土 暗褐色土が極少量混入</p> <p><b>P5</b></p> <p>1層 暗褐色土 柱痕</p> <p>2層 暗褐色土 濁ったロームが混合</p> <p>3層 暗黄褐色土 黒色土と濁ったロームが混合 ローム小粒少含</p> <p>4層 暗黄褐色土 暗褐色土と濁ったロームが粗く混合</p> <p>5層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混合 ローム小粒数点</p> <p>6層 暗褐色土 少量の濁ったロームが混合</p> |
|--|--|

図150 B134a,b

P6		
1層	暗褐色土	柱痕
2層	暗褐色土	褐色土が少量混入
3層	暗褐色土	褐色土が混合 ローム小粒数点含
4層	暗褐色土	ローム微粒数点含
5層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濁ったローム混合 ローム大粒
6層	暗褐色土	少量の濁ったロームが混合 ローム小粒少含

P7		
1層	暗褐色土	ローム微粒少量含
2層	黒褐色土	黒色土と暗褐色土が混合
3層	暗黄褐色土	暗褐色土とロームの塊とロームの大粒、中粒が粗く混合
4層	黒黄褐色土	黒色土と濁ったロームが混合 ロームの大粒やロームの塊が混入
5層	暗黄褐色土	ロームの塊と暗褐色土が粗く混合
6層	暗黄褐色土	ロームの大粒、ロームの塊、ローム中粒、暗褐色土そして濁ったロームが粗く混合
7層	暗黄褐色土	濁ったロームの主体になる土 掘りすぎの可能性あり

P8		
1層	暗褐色土	柱痕
2層	暗黄褐色土	濁ったロームが粗く混合
3層	暗褐色土	ローム微粒が少含
4層	暗褐色土	濁ったロームが極少量混入
5層	暗黄褐色土	多量の濁ったロームが粗く混合 ローム小粒少含
6層	暗褐色土	少量の濁ったロームが混入

P9		
1層	暗褐色土	柱痕 暗褐色土と褐色土が混合
2層	暗褐色土	少量の濁ったロームが混合
3層	暗黄褐色土	暗褐色土と濁ったローム大量が混合 ロームの小粒少含
4層	暗褐色土	少量の濁ったロームが混合 ローム小粒少含
5層	暗黄褐色土	濁ったロームと少量の暗褐色土
6層	暗黄色土	濁ったロームが主体 少量の暗褐色土が混入 ロームの小粒少含
7層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濁ったロームと少量の 黒色土と極数点のローム大粒が粗く混合
8層	暗黄褐色土	暗褐色土と濁ったロームが混合
9層	黒黄褐色土	黒色土と濁ったローム、ロームの大粒が 粗く混合

P11		
1層	暗褐色土	柱痕 少量の濁ったロームが混入
2層	暗褐色土	ローム微粒少含
3層	暗褐色土	ロームの大粒混合
4層	暗褐色土	ローム微粒、ローム小粒含
5層	暗褐色土	ローム小粒含

P13		
11層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合 ローム微粒少含
12層	暗褐色土	ローム微粒多含
13層	暗褐色土	暗褐色土と極少量の黒色土が混合 ローム微粒少含
14層	暗褐色土	ローム微粒多含
15層	暗褐色土	暗褐色土とロームの小粒、微粒が混合
16層	暗黄褐色土	濁ったロームと暗褐色土が混合 ローム小粒少含

P15		
1層	暗褐色土	暗褐色土が主体に濁ったロームが極少量混入
2層	暗褐色土	少量の濁ったロームがやや粗く混合
3層	暗黄褐色土	ロームの大粒と暗褐色土が粗く混合
4層	暗褐色土	濁ったロームが微含
31層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
32層	暗褐色土	暗褐色土と極少量の濁ったロームとローム微粒が混合
33層	黒褐色土	黒色土と暗褐色土が混合 ローム微粒少含
34層	暗褐色土	少量の濁ったロームが混合 ローム小粒少含
35層	P15の下場で壁に近い状態 層ではなく壁の部分と認めてよい	

P19		
21層	暗褐色土	柱痕 ローム微粒少含
22層	褐色土	暗褐色土混入
23層	暗褐色土	濁ったローム少含 ローム小粒少含
24層	暗褐色土	ローム微粒、小粒少含
25層	暗黄褐色土	暗褐色土と濁ったロームが混合 ローム小粒少含

P20		
41層	暗褐色土	暗褐色土と褐色土が混合
42層	暗褐色土	ローム微粒多含
43層	暗褐色土	暗褐色土と極少量の黒色土が混合 ローム微粒少含
44層	暗褐色土	ローム小粒、ローム微粒少含
45層	暗褐色土	暗褐色土と少量の濁ったローム混合 ローム小粒少含

P21		
1層	暗褐色土	暗褐色土が主体
2層	暗黄褐色土	暗褐色土とローム粒が粗く混合
3層	暗黄褐色土	暗褐色土とロームが混合

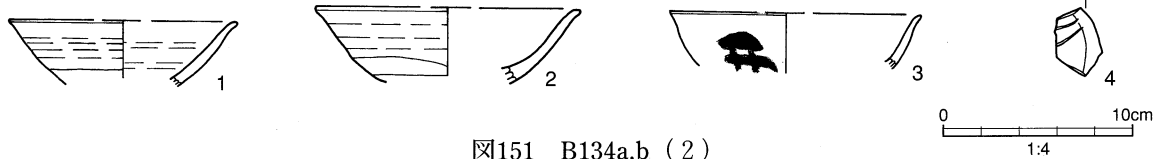


図151 B134a,b (2)

### B131

検出地区 L5-18-2・4g、19-1・2gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡である。長軸3.74m×短軸3.74m、長軸方位はN-42°-Wを示す。柱痕はP1・P5で検出された。掘込みは極めて浅く、0.07~0.22mである。覆土は暗褐色土などを主体としている。

遺物 土師器・須恵器片などが出土する。縄文早期・条痕文片が主体とを占める。

所見 柱穴規模は小さな建物跡である。P2が外側に突出するが、本建物跡と捉えた。

### B132

検出地区 L5-27-4g、28-1・2gにて検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡であるが、南東側柱列のみ中間柱が2基となっている。長軸4.24m×短軸3.92m、方位はN-33°-Eを示す。柱痕はP1とP5bを除いて検出した。掘込みは浅く0.28~0.56mであり、P4・P5a・P6・P7・P10は浅かった。覆土は暗褐色土・暗黄褐色土を主体としたものである。

遺物 土師器・須恵器片などが出土する。縄文早期・条痕文片が主体とを占める。

所見 基本的には2間四方であるが、南東側柱列のみ3間となる変則的な掘立柱建物跡である。上谷遺跡にはII地区を中心として多い柱穴配置例となっているが、住居としての建物跡なのか、倉庫跡なのか判断に迷う遺構である。

B133

検出地区 L5-37-2・4g、38-1・2gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.01×短軸4.16m、長軸方位はN-19° -Wを示し、南側に対して北側が開く建物跡である。柱痕はP5・P7・P10を除き、検出された。掘込みは0.27~0.37mと全体的に浅く、柱穴規模が大きいP1~3も深さに変化はなかった。覆土は暗褐色土・黒褐色土を主体としたものである。

遺物 土師器・須恵器片などが出土する。縄文早期・条痕文片が主体とを占める。

所見 長軸方向が長く、細身の建物跡であり、建物跡規模に対して柱穴が浅いものとなっていた。

B134a,b

検出地区 L5-18-2~4gにて検出した。

遺構 2軒の重複した掘立柱建物跡である。また、A243と重複する。

B134aは2×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.16m×短軸3.84m、長軸方位はN-46° -Wを示す。本建物跡に属する柱穴は、P2・12・13・20・7・8・9の7基と捉えた。掘込みは0.33~0.62mと深さが一様ではなかった。A243と重複する柱穴の掘込みが深い傾向を示している。覆土はロームを包含する充填土であった。

B134bは2×3間の掘立柱建物跡である。長軸3.84m×短軸3.84m、方位はN-44° -Wを示す。本建物跡に属する柱穴は、P1・10・11・15・5・6・4・3・19・20の10基と捉えたが、P15・19ははずれるかも知れない。掘込みの深さは0.28~0.60mと柱穴による差は大きい。やはりB134aと同様にA243との重複部に配された柱穴が、掘込みの深い傾向を示していた。覆土はロームを包含する充填度である。

遺物 土師器・須恵器の小片が出土するが、掲示できるものはなかった。

所見 2棟ともA243と重複し、特に住居跡との重複部で更に柱穴が切合っており、柱穴の配置が不明瞭となる掘立柱建物跡である。それぞれ北東側柱の中間柱穴が判然としなかったが、P3をB134aに属するものと柱間距離より判断したが、両者兼用したかも知れない。

また、竪穴住居跡を含めた先後関係は、A243→B134a→B134bと覆土の重複から判断した。P19土師器やはり覆土から、B134bより古いものと捉えられた。

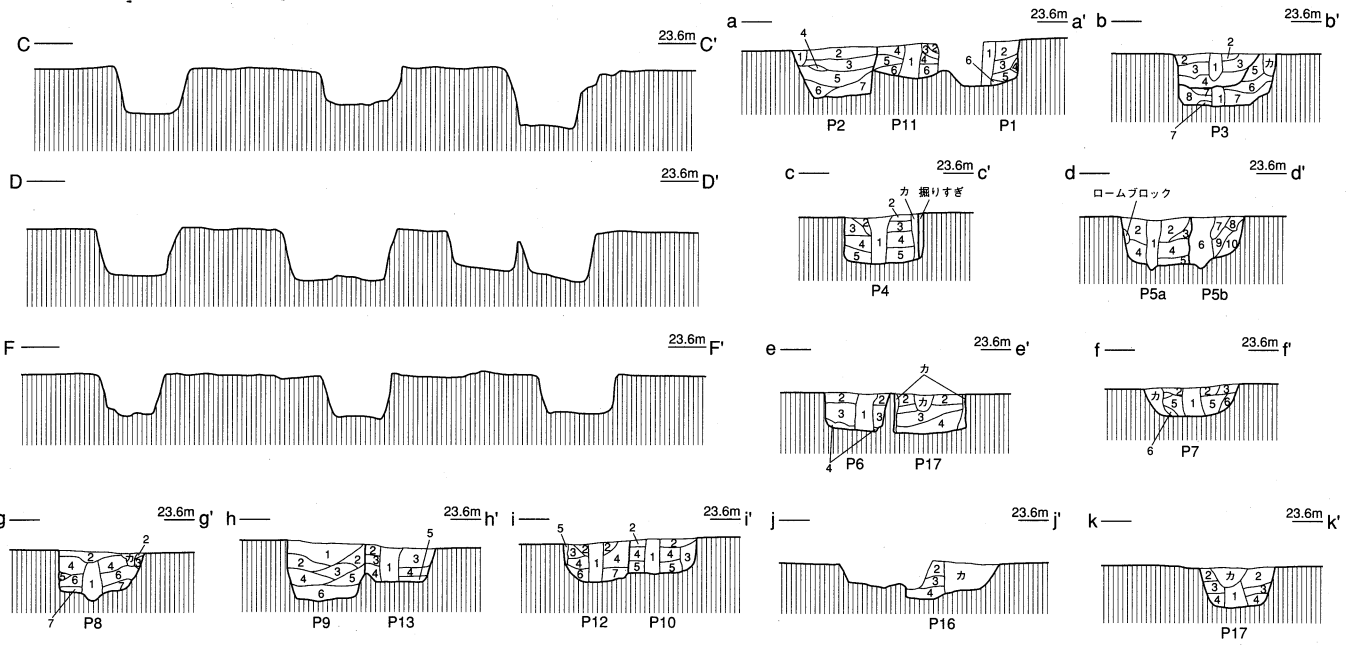
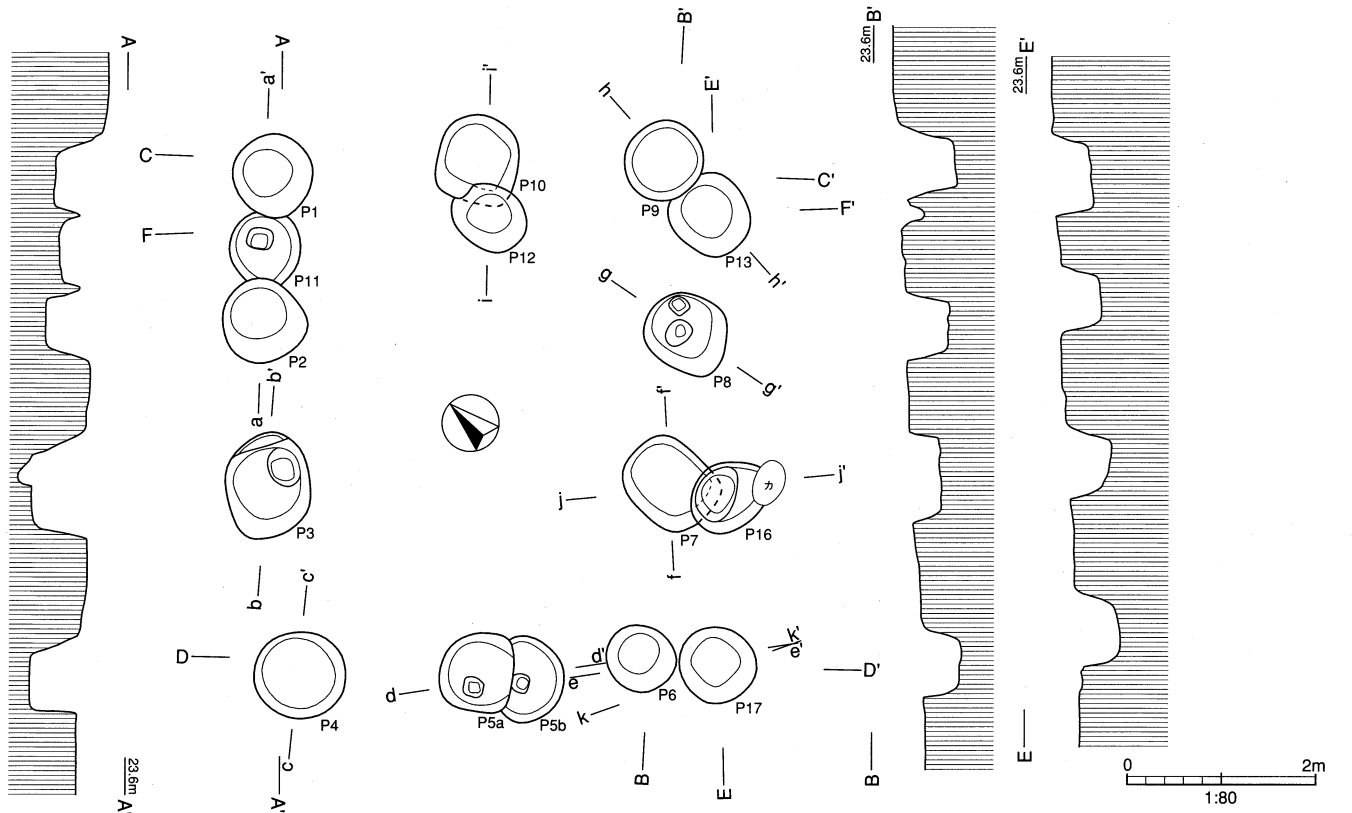
表51 B134a,b遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 坏	(120)× -× (34) ロクロ成形 外面 体部下端一回転ヘラケズリ	淡褐 良	比較的 緻密	口縁片	
2 土師器 坏	(140)× -× (40) ロクロ成形	淡褐 良	雲母微細 粒	口縁片	
3 土師器 坏	(132)× -× (28) ロクロ成形	淡褐 良	雲母 赤色スコ リア微細 粒 緻密	口縁片	
4 土師器 坏	-× -× - ロクロ成形 外面 底部一回転ヘラケズリ	淡褐 良	雲母微細 粒 緻密	底部片	

B135a・b

検出地区 L5-27-1~4gにて検出した。



- P1**
- |    |       |                    |
|----|-------|--------------------|
| 1層 | 黒色土   | ローム粒を少量含           |
| 2層 | 暗褐色土  | ロームが微量に混合 ローム粒多含   |
| 3層 | 黒褐色土  | ロームが混合ローム粒を多量に含    |
| 4層 | 黒褐色土  | ローム粒微含             |
| 5層 | 暗褐色土  | ロームが少量混合 ローム粒微含    |
| 6層 | 暗黄褐色土 | ロームと黒色土が混合 ローム粒を多含 |
- P2**
- |    |      |                    |
|----|------|--------------------|
| 1層 | 黒色土  | ロームが少量混合 ローム粒微含    |
| 2層 | 黒褐色土 | ロームが少量混合 ローム粒微含    |
| 3層 | 黒色土  | ロームが少量混合 ローム粒を多含   |
| 4層 | 黄褐色土 | ロームを主体に黒色土を少量混合    |
| 5層 | 黒色土  | ロームが少量混入 ローム粒多含    |
| 6層 | 黒褐色土 | ロームと黒色土が混合 ローム粒を多含 |
| 7層 | 黒褐色土 | 黒色土とロームが混合 ローム粒を多含 |

- P3**
- |    |      |                              |
|----|------|------------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含                       |
| 2層 | 黒色土  | ローム粒を少含 径10mm大のロームブロックを微含    |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含 径10mm大のロームブロックを少含     |
| 4層 | 黒褐色土 | 黒色土主体とした土 ローム粒を少量含 ローム粒を多量に含 |
| 5層 | 黒褐色土 | 黒色土とロームが混合 ローム粒を多含           |
| 6層 | 黒褐色土 | 黒色土とロームが混合 ローム粒少含            |
| 7層 | 黒褐色土 | 黒色土とロームが混合 ローム粒を微粒含          |
| 8層 | 黒褐色土 | 黒色土主体に少量混合 ローム粒を微粒含          |

図152 B135a,b

P4	1層 黒色土	ロームの微粒が混合	ローム粒微含
	2層 黒褐色土	黒色土にロームが少量混合	ローム粒微含 径10mm大のロームブロックを微量含
	3層 黒褐色土	ロームが少量混合	ローム粒を少含 径10mm大のロームブロックを微含
	4層 黒褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒を多含 径10mm～20mm大のロームブロック少含
	5層 黒褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒を少含 径10mm～20mm大のロームブロックを少含
P5	1層 黒色土	ローム粒を微含	
	2層 暗褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒少含
	3層 黒褐色土	黒色土主体にロームが少量混入	ローム粒を微含
	4層 黒褐色土	黒色土主体にロームが少量混入	ローム粒を微含 径10mm～20mm大のロームブロック少含
	5層 黒褐色土	黒色土主体にローム少量混入	ローム粒少含
	6層 黒色土	黒色土主体にロームが微量混入	ローム粒微量
	7層 黒褐色土	黒色土主体にロームが少量混入	ローム粒を少含
	8層 黒褐色土	ロームが少量混入	
	9層 暗褐色土	黒色土とロームが粗く混合	
	10層 黄褐色土	ロームを主体に黒色土が微量に混合	
P6	1層 黒褐色土	黒色土を主体にロームが微量に混合	微量に含
	2層 黒褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒を微含
	3層 黒褐色土	ロームと黒色土が混合	ローム粒を少含
	4層 黒褐色土	黒色土を主体にロームが少量混入	
P7	1層 黒褐色土	黒色土とロームが微量に混入	ローム粒微含
	2層 黒褐色土	黒色土とロームが少量混入	ローム粒を少量含
	3層 暗褐色土	ロームと黒色土が混合	ローム粒を多量に含
	4層 ローム	ソフトロームのブロック	
	5層 暗褐色土	ロームと少量の黒色土を混合	ローム粒少含 径10mm大のロームブロック微含
	6層 暗黄褐色土	ロームと少量の黒色土が混合	焼土粒を微含
P8	1層 黒色土	ローム粒微含	
	2層 黒褐色土	ロームが少量混合	ローム粒を微含
	3層 黄褐色土	ソフトロームのブロック	
	4層 黒褐色土	黒色土主体としロームが少量混入	ローム粒少量含 径10mm大のロームブロックも少量含
	5層 黒褐色土	黒色土とロームが混合	
	6層 黒色土	黒色土を主体としロームが少量混合	ローム粒微含 径10mm大のロームブロックを少含
	7層 黒色土	ロームが少量混合	ローム粒を多量に含 径10mm～30mm大のロームブロック少量含
P9	1層 黒褐色土	黒色土と少量のロームが混合	ローム粒、焼土粒微含
	2層 黒褐色土	黒色土主体に少量のロームが混合	ローム粒少含 径10mm大のロームブロックを多含
	3層 暗褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒多含 径10mm大のロームブロックも多量含
	4層 黒褐色土	黒色土と少量のロームが混合	ローム粒微含
	5層 黒色土	ローム粒少含	
	6層 黒褐色土	黒色土を主体に少量のロームが混合	ローム粒微含 焼土粒少含
P10	1層 黒褐色土	黒色土とロームが微量に混入	ローム粒微含
	2層 黒褐色土	黒色土主体にロームが少量混入	ローム粒含
	3層 暗褐色土	黒色土とロームが混入	ローム粒微含
	4層 黒色土	ロームが少量混合	ローム粒を少含 径10mm大のロームブロック微含
	5層 黒褐色土	ロームが少量混合	ローム粒、焼土粒も少含
P11	1層 黒色土	ローム粒を微含	
	2層 黒褐色土	ローム少量混入	ローム粒微含
	3層 暗褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒微含
	4層 黒褐色土	黒色土を主体としロームが少量混合	ローム粒微含
	5層 暗褐色土	ロームが少量混入	
	6層 黒褐色土	黒色土を主体にロームが少量混合	ローム粒少含
P12	1層 黒褐色土	黒色土を主体にロームが少量混合	
	2層 黒褐色土	黒色土を主体にロームが少量混合	ローム粒、焼土粒を少含
	3層 暗褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒、焼土粒を少含
	4層 暗褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒微含 径10mm大のロームブロックも微含
	5層 黄褐色土	ソフトロームブロック	
	6層 黒褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒微含
	7層 暗褐色土	黒色土とロームが混合	ローム粒を少含、 焼土粒を微含
P13	1層 黒褐色土	黒色土を主体にロームの微粒が混合	ローム粒も微含
	2層 黒褐色土	黒色土を主体としロームが少量混合	ローム粒少含 焼土粒を微含
	3層 暗褐色土	ロームと黒色土が混合	ローム粒を微含 径10mm大のロームブロックを微含
	4層 黒褐色土	黒色土を主体にロームが少量混合	ローム粒を少含
	5層 暗褐色土	ロームと黒色土が混合	ローム粒を多含 径10mm大のロームブロック微含
P16	2層 暗褐色土	ロームが混合	焼土粒を微含
	3層 暗褐色土	基本的に2層と同じ	色調的に第2層より明るい
	4層 暗褐色土	暗褐色土と黒褐色土が混合	ローム粒を多量に含
P17	1層 黒褐色土	ローム微量混入	
	2層 暗褐色土	ロームを主体に黒褐色が少量混合	
	3層 黒色土	黒色土主体	ロームが微量に混合
	4層 黒褐色土	ロームが少量混入	

図153 B135a,b (2)

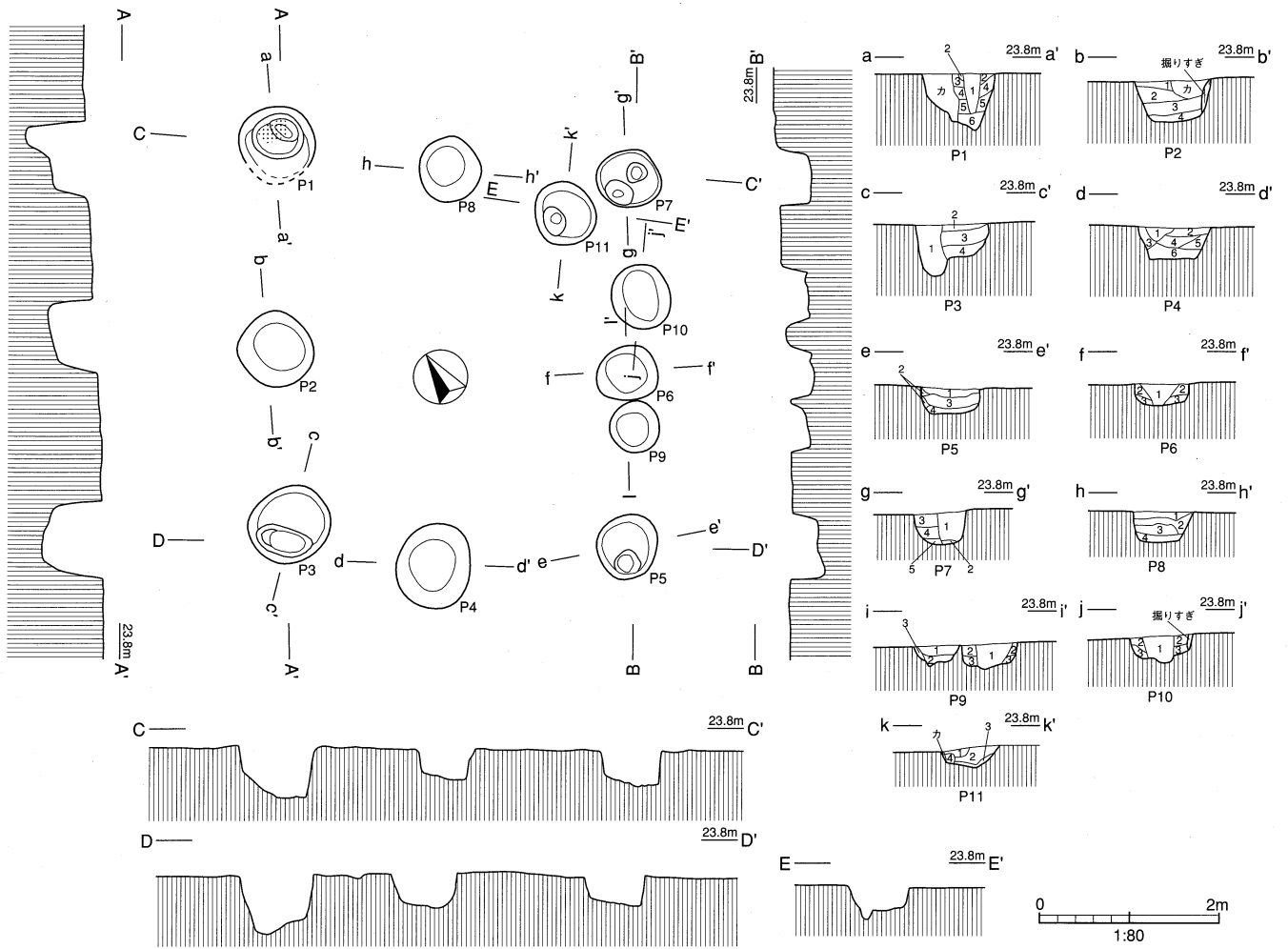
遺 構 2棟の重複した掘立柱建物跡である。

B135aは2×2間の掘立柱建物跡である。長軸4.88m×短軸(4.24)m、長軸方位はN-42°-Eを示す。本建物跡に配される柱穴はP11～P13・P16・P17・P5b・P3・P4と捉えた。P3・P4はB135aに再利用されていた。柱痕はP11～P13・P17・P5bに検出された。掘込みは0.38～0.60mであるが、全体的に平均化したものである。覆土は黒褐色土・暗褐色土を主体としていた。

B135bは2×3間の掘立柱建物跡である。長軸5.52m×短軸4.16m、長軸方位はN-47°-Eを示す。本建物跡に配される柱穴はP1～P10であり、P5はP5aが相当する。柱痕は全ての柱穴で検出した。掘込みは0.29～0.58mであるが、平均化していた。覆土は黒褐色土・暗褐色土を主体としていた。

遺 物 「西」の墨書土器片が多く出土している。埋置か流込みかは捉えられなかった。

所 見 重複する柱穴からは先後関係を殆ど捉えられず、P2・P11の覆土からかろうじてB135a→B135bと判断した。



- P1**
- |    |      |                                |
|----|------|--------------------------------|
| 1層 | 灰褐色土 | 白色粘土と黒褐色土混合                    |
| 2層 | 黒褐色土 | 黒色土主体 白色粘土 ローム微量含              |
| 3層 | 暗褐色土 | ロームと黒褐色土混合 径10~20mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 黒褐色土 | 黒褐色土主体 ローム少量含                  |
| 5層 | 黒褐色土 | 黒褐色土主体 ローム粒微含                  |
| 6層 | 黒褐色土 | 黒褐色土主体 ローム少量含                  |

- P2**
- |    |      |                           |
|----|------|---------------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含                    |
| 2層 | 黒色土  | ローム少量混 径5~30mm大のロームブロック多含 |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム少量混                    |
| 4層 | 暗褐色土 | 黒褐色土とローム混合                |

- P3**
- |    |      |                 |
|----|------|-----------------|
| 1層 | 黒褐色土 | 径5mm大のロームブロック少含 |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム少含           |
| 3層 | 黒褐色土 | ローム少含 焼土粒微含     |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム少含           |

- P4**
- |    |       |                            |
|----|-------|----------------------------|
| 1層 | 黒色土   | ローム少含                      |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム少含                      |
| 3層 | 暗黄褐色土 | 暗褐色土とローム混合                 |
| 4層 | 黒褐色土  | 黒色土とローム混合 ローム粒少含           |
| 5層 | 暗褐色土  | ロームと黒褐色土混合 径5mm大のロームブロック少含 |
| 6層 | 暗褐色土  | ロームと黒褐色土混合 ローム粒多含          |

- P5**
- |    |      |              |
|----|------|--------------|
| 1層 | 黒褐色土 | 黒色土主体 ローム粒少含 |
| 2層 | 暗褐色土 | 黒褐色土とローム混合   |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒多含       |
| 4層 | 黒褐色土 | ローム粒多含       |

- P6**
- |    |      |                  |
|----|------|------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム微含            |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム少含            |
| 3層 | 暗褐色土 | 黒色土とローム混合 ローム粒少含 |

- P7**
- |    |      |              |
|----|------|--------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム混入 ローム粒少含 |
| 2層 | 黄褐色土 | ハードローム       |
| 3層 | 黒色土  | ローム粒少含       |
| 4層 | 黒色土  | ローム微含 ローム粒少含 |
| 5層 | 黒褐色土 | ロームが粗く混入     |

- P8**
- |    |      |                       |
|----|------|-----------------------|
| 1層 | 黒色土  | ローム粒微含                |
| 2層 | 黒褐色土 | ローム少含                 |
| 3層 | 黒色土  | ローム微含 径5mm大のロームブロック少含 |
| 4層 | 黒色土  | ローム微含 径5mm大のロームブロック少含 |

- P9**
- |    |       |                |
|----|-------|----------------|
| 1層 | 黒褐色土  | 黒色土とロームが粗く混入   |
| 2層 | 暗褐色土  | 暗褐色土主体の土       |
| 3層 | 暗黄褐色土 | ローム主体の土に黒色土が少混 |

- P10**
- |    |      |                  |
|----|------|------------------|
| 1層 | 黒褐色土 | ローム少含 ローム粒、焼土粒微含 |
| 2層 | 暗褐色土 | ロームと黒褐色土混合       |
| 3層 | 暗褐色土 | ロームと黒褐色土混合 焼土粒微含 |

- P11**
- |    |       |              |
|----|-------|--------------|
| 1層 | 黒褐色土  | ローム少含 ローム微含  |
| 2層 | 黒褐色土  | ローム少含 ローム多含  |
| 3層 | 暗褐色土  | ロームと黒褐色土混合   |
| 4層 | 暗黄褐色土 | ローム主体 黒褐色土少含 |



検出地区 L5-26-4g・27-3g・36-2g・37-1gにわたって検出した。

遺構 2×2間の掘立柱建物跡と捉えた。長軸4.40m×短軸3.80m、長軸方位はN-34° -Eを示している。柱痕はP1・P3・P6・P7・P10にて検出した。掘込みはP1～P3が深く0.50～0.68m、他は0.18～0.36mであった。覆土は暗褐色土・黒褐色土を主体としていたが、P1の柱痕内に白色粘土が混合していた。

遺物 土師器・須恵器片などが出土するが、土師器甕や小礫が多い傾向がある。

所見 2間四方の建物跡を基本とするが、南東側柱列が3間となる変則的な建物跡かも知れない。この場合、P6の代わりにP9・P10が配置される。建替えとは捉えたが、先後関係は捉えられなかった。

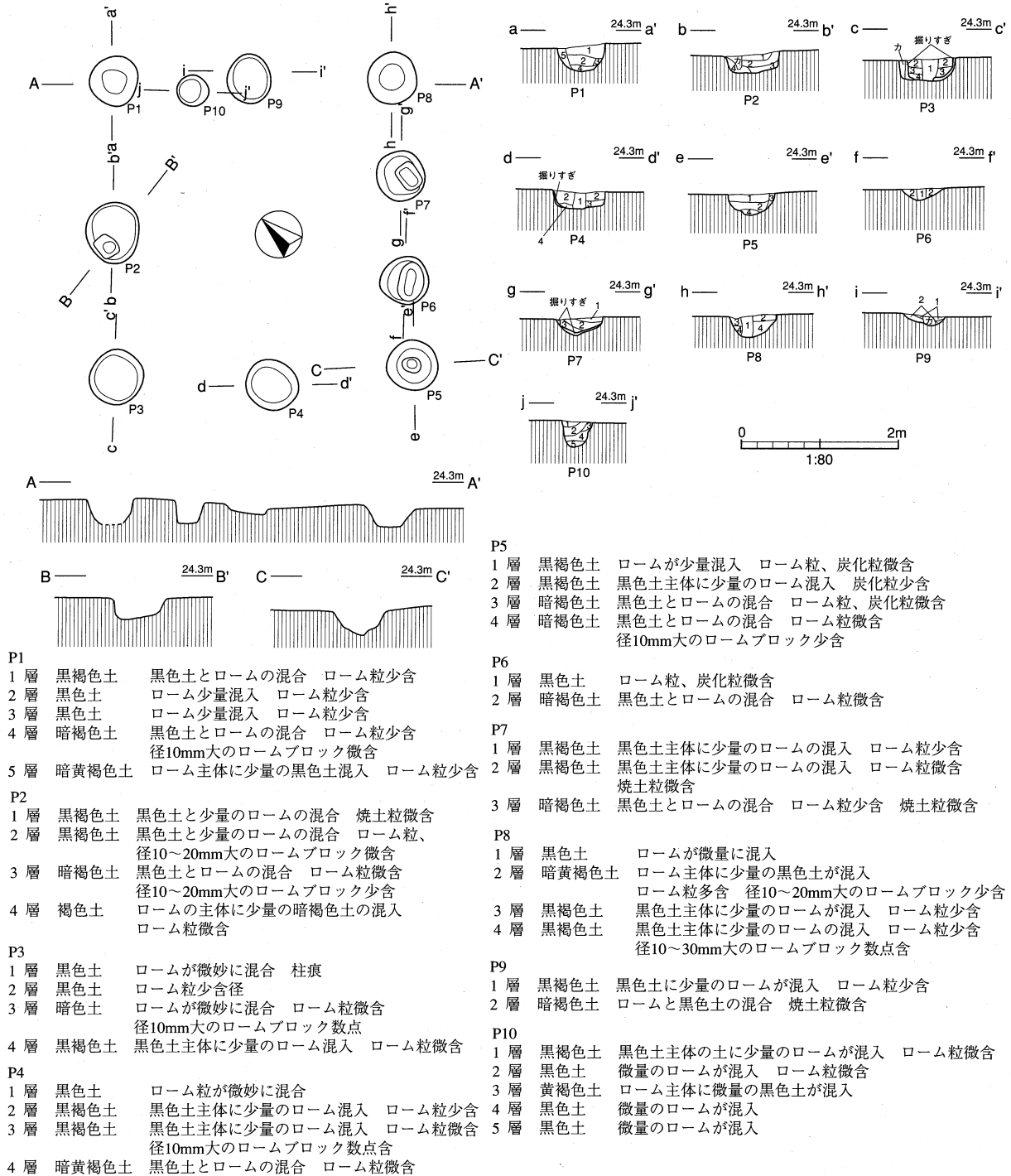
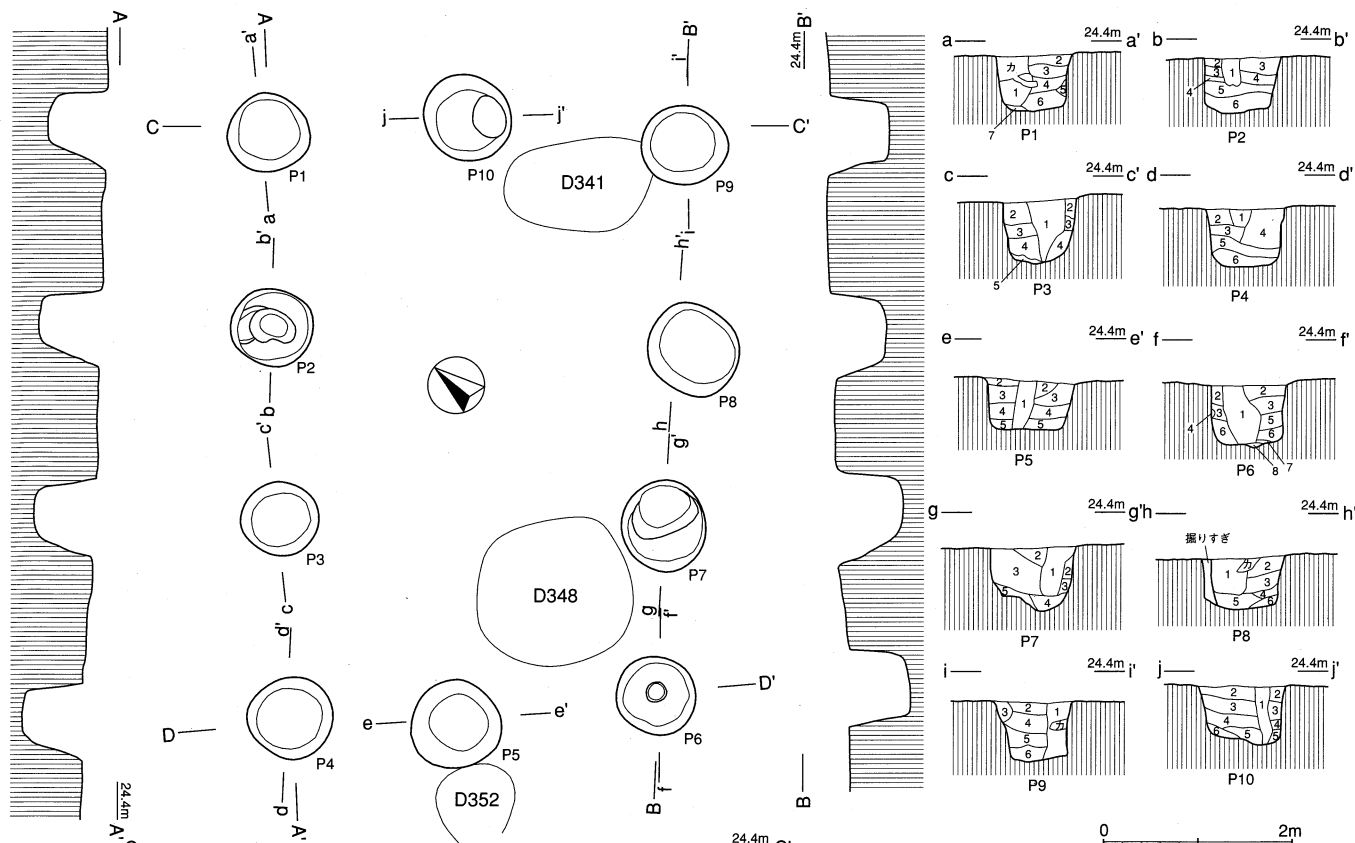


図155 B137



1層	黒色土	ローム少量混	1層	黒褐色土	ローム少量混	ローム粒少量
2層	黒褐色土	ローム少量混	2層	黒色土	ローム少量混	部分的に径10mm大のロームブロック少含
3層	暗褐色土	ローム少量混	3層	暗褐色土	ローム少量混	径10mm大のロームブロック少含
4層	黒褐色土	黒色土主体	4層	黒褐色土	ローム粒少含	
5層	暗黄褐色土	ロームと黒褐色土混合	5層	暗黄褐色土	ロームと黒褐色土混合	ローム粒少含
6層	黒褐色土	ローム混合	6層	暗褐色土	ローム混合	径10mm大のロームブロック少含
7層	暗黄褐色土	暗褐色土とローム混合	7層	暗黄褐色土	暗褐色土とローム混合	

**P2**

1層	黒色土	ローム少量混
2層	黒褐色土	ローム少量混
3層	暗褐色土	ローム少量混
4層	黒褐色土	黒色土主体
5層	暗黄褐色土	黒色土主体
6層	黒褐色土	黒色土とロームが少量混

**P6**

1層	黒褐色土	ローム少含	ローム粒多含	径10mm大のロームブロック少含
2層	黒色土	ローム少含	ローム粒少量	
3層	黒色土	ローム少含	ローム粒多含	径10mm大のロームブロック少含
4層	黄褐色土	ロームブロック		
5層	暗褐色土	黒色土褐色土とローム混合	ローム粒少含	
6層	黒色土	ローム少量混	ローム粒少含	
7層	暗黄褐色土	ロームと黒色土褐色土混合		
8層	黒色土	ローム粒少含		

**P3**

1層	暗褐色土	褐色土と少量のロームが混合	ローム粒多含
2層	黒黄褐色土	ローム主体の土に黒色土少量	
3層	黒褐色土	ローム少量混	径10~30mm大のロームブロック多量含
4層	暗黄褐色土	ロームと黒褐色土混合	ローム粒多量
5層	黒褐色土	黒色土主体	ロームブロック多量

**P7**

1層	黒褐色土	ローム少量含	ローム粒多量
2層	黒褐色土	ローム少含	ローム粒少量
3層	黒褐色土	ローム少含	ローム粒多量
4層	黒褐色土	ローム混合	径10~20mm大のロームブロック少含
5層	暗褐色土	ロームと黒色土褐色土混合	径10~30mm大のロームブロック多量

**P8**

1層	黒色土	ローム少量含	ローム粒多量	径10mm大のロームブロック少含
2層	黒褐色土	ローム混合	ローム粒少含	焼土粒微含
3層	黒褐色土	ローム微含	ローム粒少含	
4層	暗褐色土	ロームと黒色土褐色土混合	径10mm大のロームブロック少含	
5層	暗褐色土	黒色土ローム混合	径10~20mm大のロームブロック少含	ローム粒多含
6層	黒色土	ローム、ローム粒微含		

**P4**

1層	黒色土	ローム微量含
2層	暗褐色土	ロームと黒色土混合
3層	暗褐色土	黒色土とローム少量混
4層	黄褐色土	ローム主体
5層	黒色土	ローム少含
6層	黒褐色土	黒色土とロームが混合

**P9**

1層	黒色土	ローム少量含	炭化材微含
2層	黒褐色土	ローム混合	ローム粒少含
3層	黒褐色土	ローム混合	ローム粒多含
4層	黒褐色土	ローム少量混合	と粒量
5層	黒色土	ローム少量混	ローム粒多量
6層	黒色土	ローム粒少含	径10mm大のロームブロック少量

**P5**

1層	黒色土	黒色土とローム微量含
2層	黒褐色土	ローム少含
3層	黒褐色土	黒褐色土とローム混合
4層	黒色土	ローム少含
5層	黒褐色土	ローム混合

**P10**

1層	黒色土	ローム微量	炭化材微含
2層	黒色土	ローム微量	ローム粒微含
3層	黒褐色土	ローム少量含	ローム粒微含
4層	黒褐色土	ローム少量混	ローム粒多含
5層	黒色土	ローム少量混	ローム粒少量
6層	暗褐色土	ローム混合	径10mm大のロームブロック微含

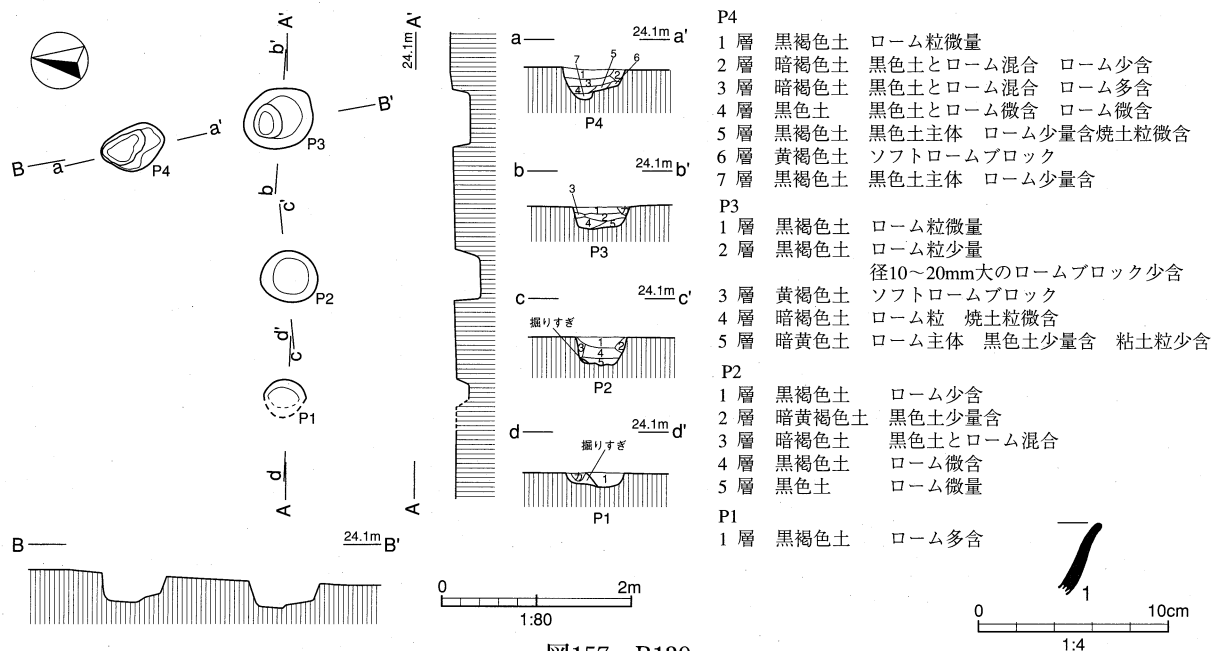


図157 B139

### B137

検出地区 L5-35-4g、36-1・3gにて検出した。

遺構 基本は2×3間の掘立柱建物跡であるが、南東側柱列は中間柱穴が2基となり、変則的な建物跡である。長軸3.96m×短軸3.36m、長軸方位はN-42°-Eを示す。柱痕はP3・P4・P6・P8で検出した。全体的に掘込みは極めて浅く、0.08~0.33mと平均化している。覆土は、黒褐色土・黒色土を主体としていた。

遺物 土師器・須恵器片が主体を占めるが、出土遺物は少ない。

所見 南東側柱列のみ3間となる、変則的な掘立柱建物跡である。上谷遺跡の特徴的な建物跡であるが、本建物跡の場合、倉庫跡とするには柱穴の掘込みの深さがなく、倉庫としたか住居としたのか判断に迷う遺構である。

### B138

検出地区 L5-35-1~4gにて検出した。

遺構 2×3間の掘立柱建物跡である。長軸6.08m×短軸4.16m、長軸方位はN-49°-Eを示す。柱穴は全体的に掘込みは0.49~0.68mと深い。柱痕は全ての柱穴で検出されたが、P2・P4・P7・P8は柱痕が覆土中で留まっており、柱穴の深さが柱材の埋込みの深さではなかった。覆土は、黒褐色土・暗褐色土・暗褐色土・黒色土を主体としていた。

遺物 土師器・須恵器片を主体としている。

所見 各柱穴の規模が大きく、掘込みも深い建物跡である。やや南西側柱列に比し、北東側柱列が開く建物跡である。

### B139

検出地区 L5-35-1~4gにて検出した。

遺構 4基の柱穴のみを検出した、遺構規模が捉えられない建物跡である。柱痕は検出できなかったが、P3の覆土の乱雑さから柱材は引抜枯れたものと捉えた。柱穴の掘込みはむ全体的に浅く、0.18~0.35mである。覆土は黒色土・黒褐色土を主体としていた。

遺物 須恵器・坏片1片のみ出土であった。

所見 検出柱穴数が少なく、遺構規模が捉えられない。南東側柱列は、P1の柱穴規模や掘込みが浅いことから中間柱と想定でき、2間以上の建物跡と考えられるが、判断できなかった。

上谷遺跡V地区掘立柱建物跡一覧

遺構番号	検出区	間数		主軸方位		柱穴規模(長軸×短軸×深さ)	備考
		長軸	短軸	長軸	短軸		
B125	L5-35-1~4	2×3		N-63°-W		P1 0.92×0.73×0.44 P2 0.67×0.53×0.28 P3 0.76×0.67×0.38 P4 0.82×0.66×0.36 P5 0.97×0.78×0.56 P6 0.80×0.64×0.56	柱痕検出されず
		5.38		4.08			
B126	L5-35-3 44-2 45-1 ~4	2×3		N-39°-W		P1 0.84×0.73×0.64 P2 0.88×0.82×0.60 P3 0.90×0.89×0.72 P4 1.10×0.91×0.72 P5 0.92×0.88×0.68 P6 1.00×0.92×0.80 P7 0.88×0.86×0.72 P8 0.84×0.76×0.68 P9 0.88×0.86×0.52 P10 0.86×0.86×0.56 ~0.80	全柱穴にて柱痕を確認
		6.56		4.20			
B127	L5-46-2・4 47-1・2	2×3		N-52°-W		P1 1.01×0.91×0.65 P2 0.95×0.74×0.46 P3 0.93×0.84×0.45 P4 0.76×0.76×0.48 P5 0.88×0.88×0.46 P6 0.90×0.90×0.51 P7 0.94×0.90×0.54 P8 0.86×0.76×0.62 P9 0.92×0.81×0.56 P10 0.95×0.82×0.54	P2・8にて柱痕未検出
		4.76		3.28			
B128a	L5-49-3 58-2 59-1 ~3	2×2		N-38°-E		P1 0.86×0.75×0.56 P2 0.96×0.81×0.42 P3 0.77×0.70×0.44 P4a 0.67×(0.66)×0.48 P5 0.72×0.72×0.61 P6 0.96×0.74×0.68 P7 1.01×0.88×0.66 P8 0.92×0.70×0.44	全柱穴にて柱痕を確認
		4.20		4.12			
		先後関係・B128b→B128a					
B128b	L5-49-3 58-2 59-1 ~3	2×2		N-83°-E		P16 0.76×0.70×0.46 P17 0.81×0.80×0.58 P18 0.91×0.82×0.61 P19 0.83×0.79×0.60 P20 0.82×0.80×0.51 P2 (B128aと兼用) P3 (B128aと兼用) P4b (0.34)×0.72×0.41	柱痕検出されず
		5.36		5.16			
B129	L5-10-3 19-2 20-1 ~4	2×3		N-66°-W		P1 0.67×0.62×0.66 P2 0.63×0.61×0.41 P3 0.72×0.63×0.51 P4 0.72×0.65×0.40 P5 0.80×0.63×0.40 P6 0.65×0.65×0.68 P7 0.68×0.61×0.36 P8 0.72×0.65×0.34 P9 0.64×0.61×0.32 P1 0.68×0.59×0.44	全柱穴で柱痕を確認
		6.78		4.00			
B130	L5-10-3 19-2 20-1 ~4	2×1		N-67°-W		P1 0.61×0.54×0.11 P2 0.56×0.39×0.22 P3 (0.56)×0.53×0.18 P4 0.43×0.39×0.16 P5 0.41×0.39×0.27 P6 0.47×0.39×0.21	P1・2・6にて柱痕を確認
		4.32		3.98			
B131	L5-18-2・4 19-1・2	2×2		N-42°-W		P1 0.55×0.47×0.16 P2 0.22×0.16×0.07 P3 0.38×0.32×0.10 P4 0.22×0.20×0.06 P5 0.51×0.47×0.22 P6 0.55×0.40×0.21 P7 0.46×0.36×0.16 P8 0.46×0.46×0.20	P1・5にて柱痕を確認
		3.74		3.74			
		柱間距離・4.52×4.18					
B132	L5-27-4 28-1 ~2	2×2		N-33°-E		P1 0.95×0.72×0.54 P2 0.80×0.76×0.54 P3 0.96×0.78×0.54 P4 0.96×0.78×0.54 P5a (0.76)×0.82×0.46 P5b (1.00)×0.88×0.36 P6 0.64×0.60×0.40 P7 0.66×0.58×0.28 P8 0.81×0.76×0.56 P9 0.71×0.64×0.50	P1を除いて柱痕検出 覆土は比較的突固められて いた
		4.24		3.92			
B133	L5-37-2・4 38-1・2	2×3		N-19°-W		P1 0.86×0.74×0.28 P2 (0.86)×0.86×0.27 P3 0.84×0.72×0.36 P4 0.64×0.61×0.29 P5 0.68×(0.60)×0.36 P6 0.58×0.56×0.32 P7 0.60×0.52×0.27 P8 0.76×0.58×0.28 P9 0.72×(0.60)×0.34 P10 0.74×0.72×0.37	P1~4・6・9にて 柱痕を確認
		6.01		4.16			
B134a	L5-18-2~4	2×2		N-46°-W		P2 0.96×0.84×0.61 P12 0.84×-×(0.33) P13 0.88×0.74×0.55 P20 0.64×0.62×0.60 P7 0.94×0.94×0.56 P8 0.88×0.84×0.38 P9 0.87×0.84×0.62 P3 (兼用)	P8・9・13にて柱痕を確認
		4.16		3.84			

上谷遺跡V地区掘立柱建物跡一覧

遺構番号	検出区	間数		主軸方位		柱穴規模 (長軸×短軸×深さ)	備考
		長軸	短軸	長軸	短軸		
B134b	L5-18-2~4	2×2		N-44°-W		P1 0.82×0.68×0.38 P10 (0.48)×0.56×0.28 P11 (0.74)×0.76×0.47 P15 0.68×0.58×0.60 P6 0.98×—×0.58 P5 0.86×0.72×0.42 P4 0.96×0.86×0.46 P3 0.76×0.72×0.28 P19 1.30×0.48×0.54 P20 0.64×0.62×0.60	P3~6・11・19にて柱痕を確認した P19・20は遺漏するか。または片側3間となるか？
		3.84		3.84			
B135a	L5-27-1~4	2×2		N-42°-E		P1 (0.88)×0.74×0.38 P3下 1.08×0.90×0.60 P4 兼用) P5b 0.89×—×0.54 P17 0.80×0.76×0.44 P16 (0.88)×0.72×0.42 P13 (0.80)×0.78×0.56 P12 (0.82)×0.66×0.44	P4・12・13にて柱痕を確認
		4.88		(4.24)			
B135b	L5-27-1~4	2×3		N-47°-E		P1 0.84×0.82×0.37 P2 0.88×0.84×0.52 P3u 0.88×—×0.36 P4 0.96×0.92×0.50 P5a 0.82×0.70×0.48 P6 0.72×0.64×0.36 P7 1.00×0.80×0.29 P8 0.92×0.80×0.42 P9 0.84×0.79×0.58 P10 0.90×0.84×0.36	P1~4・8・10にて柱痕を確認
		5.52		4.16			
B136	L5-26-4 27-3 30-2 37-1	2×2		N-34°-E		P1 (0.88)×0.80×0.68 P2 0.84×0.76×0.50 P3 0.88×0.82×0.66 P4 0.94×0.82×0.36 P5 0.58×0.68×0.36 P6 0.66×0.62×0.28 P9 0.56×0.54×0.18 P10 0.63×0.60×0.24	P1・3・7・9・10にて柱痕を確認
		4.40		3.80			
B137	L5-35-4 36-1 3	2×3		N-42°-E		P1 0.63×0.61×0.28 P2 0.69×0.68×0.26 P3 0.68×0.68×0.26 P4 0.68×0.62×0.22 P5 0.68×0.62×0.29 P6 0.64×0.59×0.16 P7 0.64×0.60×0.20 P8 0.66×0.62×0.28 P9 0.63×0.56×0.08 P10 0.38×0.38×0.33	P3・4・6・8にて柱痕を確認P10F P10は柱穴配置上から遺漏
		3.96		3.36			
B138	L5-35-1~4	2×3		N-49°-E		P1 0.82×0.82×0.65 P2 0.84×0.81×0.68 P3 0.80×0.78×0.63 P4 0.89×0.84×0.64 P5 0.91×0.89×0.59 P6 0.86×0.79×0.66 P7 0.98×0.84×0.66 P8 0.98×0.88×0.56 P9 0.84×0.84×0.64 P10 0.94×0.87×0.49	全柱穴にて柱痕を確認
		6.08		4.16			
B139	L5-35-1~4	(2)×—		—			柱痕は確認できなかった
		—		—		P1 0.42×—×0.18 P2 0.59×0.52×0.35 P3 0.79×0.62×0.20 P4 0.66×0.44×0.29	

### 第3項 土 坑

上谷遺跡V地区においては、奈良・平安時代の土坑を28基検出した。V地区の奈良・平安時代の土坑の遺構分布としては、V地区に散在しており、特に集中する調査地点はなかった。また、掘立柱建物跡の柱穴ではあろうかと想定される柱穴のうち、淡土で検出したものも土坑と扱っているものもある。

土坑が設けられた目的も殆どが捉えられず、また、奈良・平安時代とした土坑のうち時代が動くものもあるかも知れない。

#### D287

検出地区 L5-51-1gにて検出した。

遺 構 長軸0.95m×短軸0.92m×深さ0.16m、方位は形状から計測はしなかった。平面形は略円形である。ソフトロームを浅く掘込み、断面形は皿状の土坑である。坑底に、硬化面などは認められなかった。覆土は色調・包含物で捉え2層に分層し、自然堆積であった。

遺 物 揭示すべき遺物は出土しなかった。

所 見 覆土などから、奈良・平安時代の所産と捉えた。

#### D298

検出地区 L5-42-4g、52-2gにて検出した。

遺 構 長軸1.62m×短軸1.51m×深さ0.15m、方位はN-43° -Eを示す。平面形は不整形円形である。ソフトロームを掘凹めた、断面形は皿状の土坑である。坑底に硬化面などは認められなかった。遺構確認面において焼土を認めた。覆土は黒色土の自然堆積と捉えた。

遺 物 土師器・須恵器の各小片が若干出土している。

所 見 出土遺物から奈良・平安時代の所産と捉えた。焼土層は土坑の埋没過程における火の使用であり、本遺構とは直接的な関わりをもたない。しかし坑底との差があまりなく、時間的な経過は少ないと捉えている。

表53 D298遺物観察表

(単位 m m)

	種 別 器 形	法 量 口径×底径×器高 成 形・調 整 等 の 特 徴	色 調 焼 成	胎 土	遺 存	備 考
1	土師器 坏	(140)×(70)×37 外面 ナデ 底部一回転糸切り 内面 ナデ	橙褐 良	長石 スコリア 細粒 比較 的緻密	1/3	
2	須恵器 甕	—×—×— 外面 格子目タタキ後ハラケズリ 内面 ヘラナデ 当具痕	外黒褐 内茶褐 良 堅緻	雲母長石 赤色スコ リア細粒 概ね緻密	胴部片	

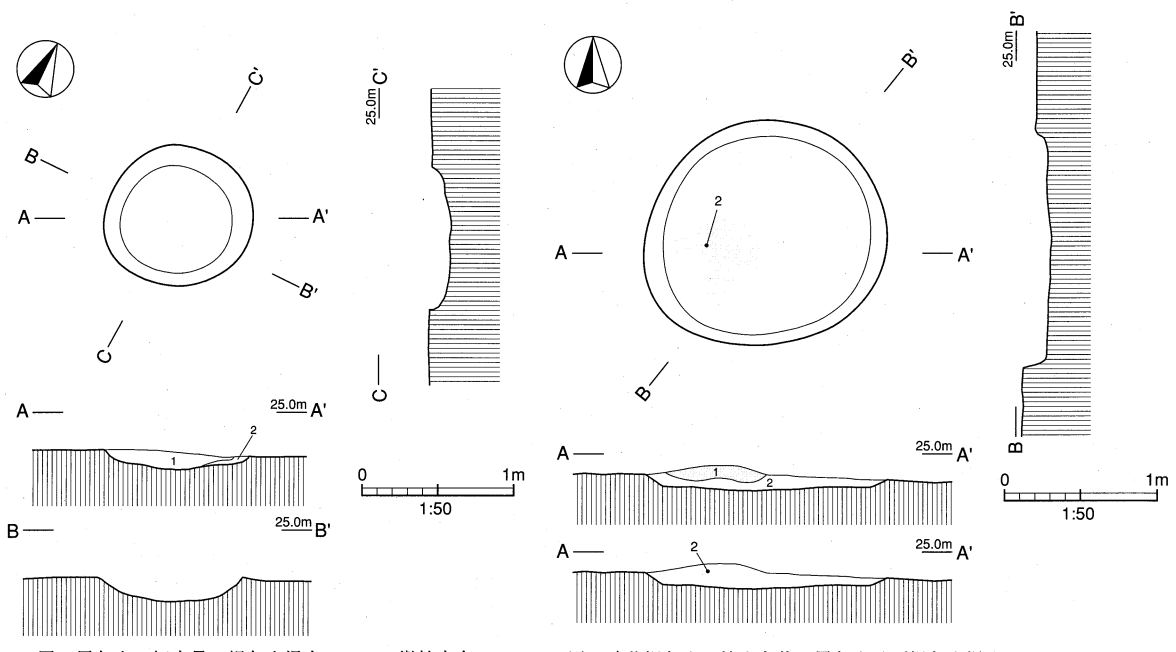
#### D317

検出地区 L5-58-2gにて検出した。

遺 構 長軸0.49m×短軸0.37m×深さ0.29m、方位はN-39° -Eを示す。平面形は略円形であり、小規模な土坑である。ソフトロームを略垂直に掘込み、一見、柱穴の様である。覆土は、黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺 物 土師器・坏の小片が出土したのみである。

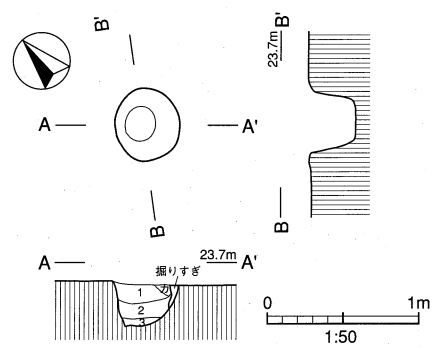
所 見 遺物・覆土から奈良・平安時代の所産と捉えた。



1層 黒色土 極少量の褐色土混合 ローム微粒少含  
2層 褐色土 褐色土主体土 黒色土混合 ローム微粒含

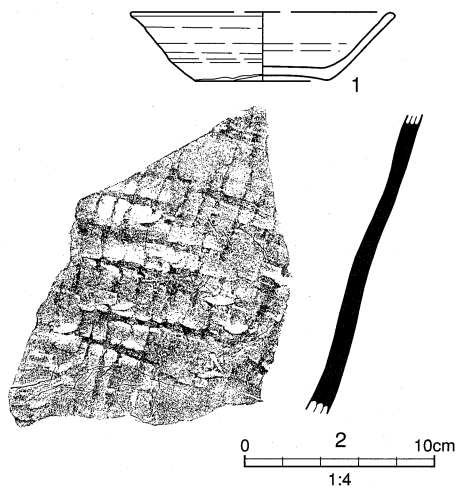
1層 暗黄褐色土 焼土主体 黒色土及び褐色土混入  
2層 黒色土 径10mm前後のロームブロック少含

D287



1層 黒褐色土 ローム微含  
2層 黒褐色土 ロームが少量混入  
3層 暗褐色土 ローム少量混入 ローム粒微含

D317



D298

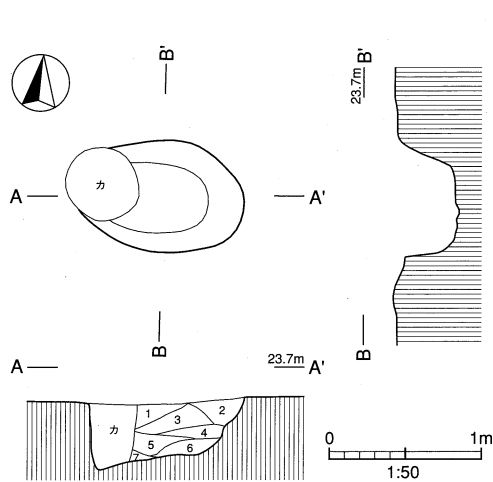
図158 D287・D298・D317

D318

検出地区 L5-48-4gにて検出した。  
遺構 長軸(1.12)m×短軸0.76m×深さ0.40m、方位はN-90°を示す。平面形は長楕円形である。ハードロームまで掘込み、坑底は凹凸を有しており、壁は略垂直に立上っている。覆土は黒褐色土を主体として、ロームの多寡で主に分層したが、堆積の乱雑さから人為堆積と捉えた。  
遺物 須恵器・胴部小片が出土するのみであった。  
所見 覆土の色調などから奈良・平安時代の所産と捉えた。西壁側に攪乱が入込み覆土の状況が一部判然としないが、遺構廃絶後の人為堆積というより、柱穴の充填土が柱材の引抜きにより乱雑となった様な堆積状態である。

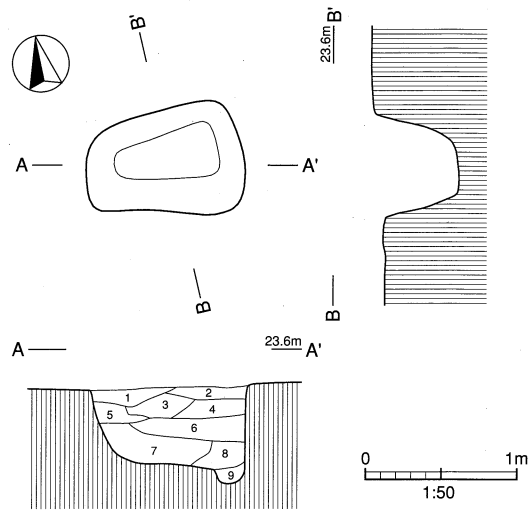
D321

検出地区 L5-38-3gにて検出した。  
遺構 長軸1.03m×短軸0.69m×深さ0.52m、方位はN-90°を示す。平面形は台形状である。B133の柱穴群内に所在する土坑である。ハードロームまで深く掘込み、坑底は平坦であり、壁は略垂直に立



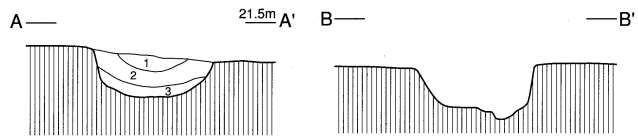
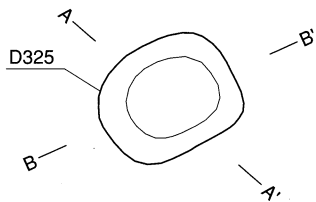
- 1層 黒褐色土 ローム微粒含
- 2層 暗褐色土 ロームと黒褐色土が粗く混合
- 3層 黒色土 ローム粒多含
- 4層 黒褐色土 ローム粒多含
- 5層 黒色土 ローム粒少含
- 6層 黄褐色土 多量のロームブロックが集合した層
- 7層 黒褐色土 ローム粒少含

D318

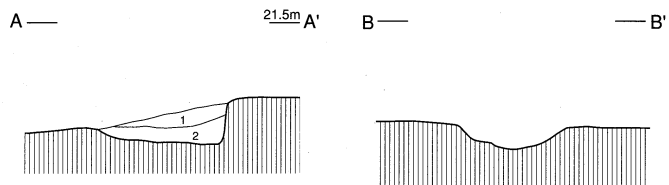
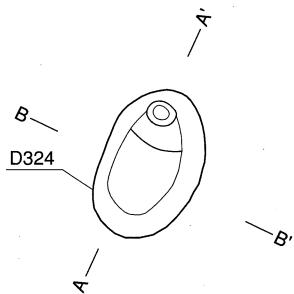


- 1層 暗褐色土 暗褐色土と濁ったロームが混合 ローム大粒少含
- 2層 黒色土 黒色土と少量の暗褐色土が混合
- 3層 黒色土 濁ったロームが極少量含 暗褐色土も滲むように少量含
- 4層 黒褐色土 黒色土と暗褐色土が混合 濁ったロームも部分的に含
- 5層 暗黄色土 濁ったロームとロームブロックが粗く混合
- 6層 暗褐色土 褐色土が極少量混合
- 7層 暗褐色土 濁ったロームとロームブロックとロームが粗く混合  
大粒のローム多含
- 8層 暗褐色土 少量の黒色土が混合 ローム大粒少含
- 9層 暗黄褐色土 濁ったロームを主体の層

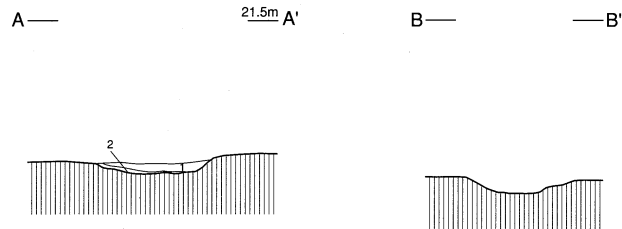
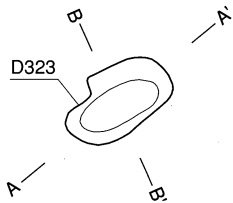
D321



- 1層 暗褐色土 暗褐色土が主体になる土 若干濁ったロームが滲むように混入
- 2層 暗黄褐色土 濁ったロームが主体となる 若干暗褐色土が混合



- 1層 褐色土 暗褐色土と褐色土がほぼ均一に混合
- 2層 暗褐色土 暗褐色土が主体の層



- 1層 褐色土 褐色土が主体の層
- 2層 暗褐色土 褐色土が若干滲むように混入
- 3層 暗褐色土 暗褐色土と極少量の濁ったロームが混合

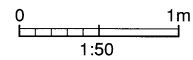


図159 D318・D321・D323・D324・D325



上がっている。覆土はろ一むを多含する暗褐色土・黒褐色土・黒色土を主体とするが、覆土堆積の乱雑さから人為堆積と捉えた。

遺物 縄文時代から奈良・平安時代までの遺物が出土している。土師器片が主体を占めるが、出土遺物は多くはない。

所見 覆土の色調や出土遺物から、奈良・平安時代の所産と捉えた。B133に関連するものとも考えられたが、判然とせず、土坑として分離した。覆土は乱雑であり、一見、柱穴の覆土に近似するが、遺構規模の大きさから柱穴とは捉えなかった。

#### D323

検出地区 L4-79-4gにて検出した。

遺構 長軸0.73m×短軸(0.34)m×深さ0.11m、方位はN-72° -Wを示す。平面形は楕円形である。ソフトロームを掘凹めただけの土坑である。坑底はやや凹凸を有し、壁はやや斜めに立上がっている。覆土は暗褐色土を主体とし、自然堆積と捉えた。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 覆土より奈良・平安時代の所産としたが、判然としない遺構でもある。D324・D325と近接し、3基が直線的配置された土坑である。D324と遺構規模は異なるが、掘込みや覆土が近似している。

#### D324

検出地区 L4-79-4gにて検出した。

遺構 長軸1.01m×短軸0.66m×深さ0.25m、方位はN-72° -Wを示す。平面形は楕円形である。ソフトロームを掘込んだ土坑であるが、斜面部に位置し西側の壁は殆ど検出されなかった。坑底はやや丸みや凹凸を有する。東壁は垂直に、南・北壁は緩く立上がっていた。覆土は暗褐色土を主体として、自然堆積と捉えた。

遺物 土師器の小片が、稀に出土するのみである。

所見 覆土より奈良・平安時代の所産としたが、判然としない遺構でもある。西側にD323、東北側にD325と近接している。D323と遺構規模は異なるが、掘込みや覆土が近似している。

#### D325

検出地区 L4-89-1・2gにて検出した。

遺構 長軸0.89m×短軸0.74m×深さ0.27m、方位はN-68° -Wを示す。平面形は隅丸方形である。ソフトロームを垂直に近く掘込み、坑底は全体として平坦である。覆土は暗褐色土を主体とし、自然堆積である。

遺物 土師器の小片が出土するが、稀である。

所見 覆土などより奈良・平安時代の所産と捉えた。D324が南西側に隣接し、覆土も維持するが、坑底の状態が異なり、遺構の性格を異にするかもしれない。

#### D326

検出地区 L4-88-2gにて検出した。

遺構 長軸0.77m×短軸0.74m×深さ0.52m、方位はN-5° -Eを示す。平面形は略円形である。ハードロームまで柱穴状に掘込んだ土坑である。覆土は捉えられなかった。

遺物 土師器の小片が稀に出土している。

所見 出土遺物や覆土から奈良・平安時代の所産と捉えた。覆土が捉えられなかったため、判然としないが、単独の掘立柱の可能性のある遺構である。D327と隣接している。

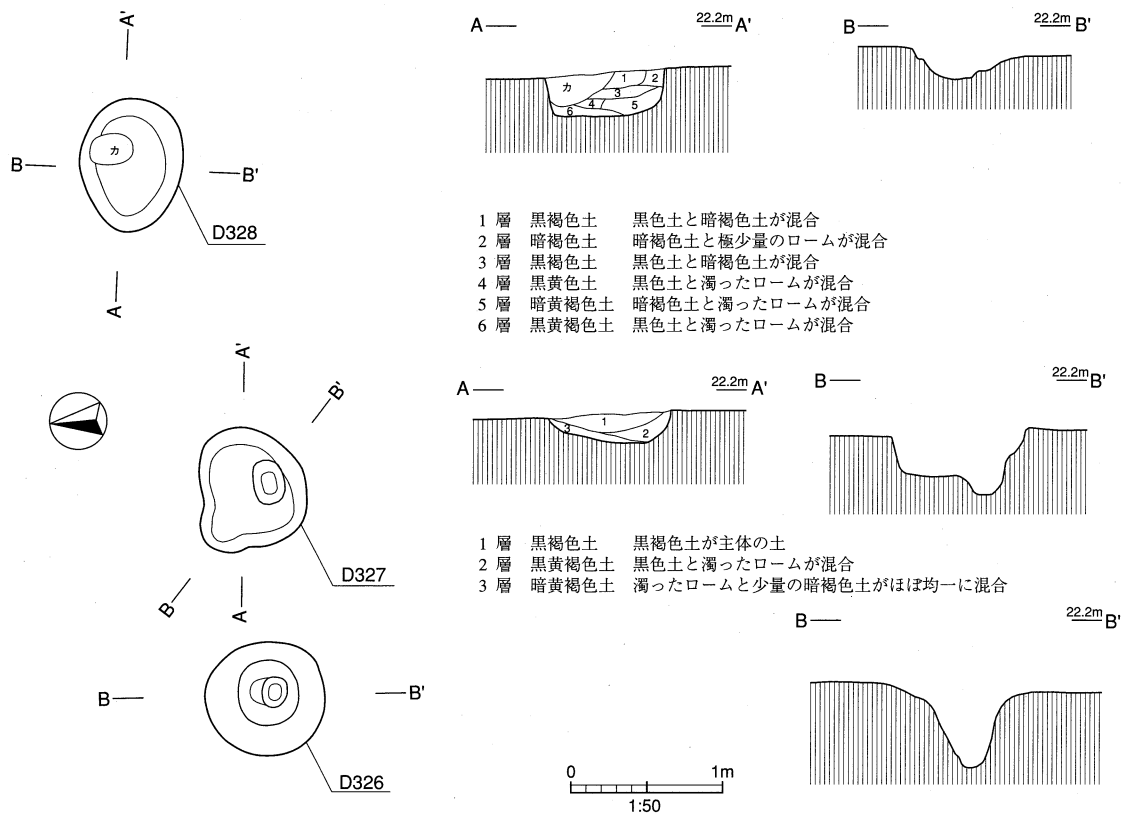


図160 D326・D327・D328

#### D327

検出地区 L4-88-2gにて検出した。

遺構 長軸0.81m×短軸0.62m×深さ0.26m、方位はN-64°-Eを示す。平面形は不整楕円形となっている。ソフトロームを垂直に近い状態で掘込み、やや丸みを帯びた坑底である。東壁中央に更に小ピットを掘込んでいた。覆土は基調により3層に分そうし、自然堆積と捉えた。

遺物 縄文中期・加曽利Eと土師器の小片が出土したが、稀である。

所見 D326を西側に、D328を東側にそれぞれ隣接する土坑である。出土遺物や覆土から奈良・平安時代と捉えたが、用途は不明である。坑底の壁際に掘込まれた小ピットを含めて考えると、柱穴と捉えるかも知れない。

#### D328

検出地区 L4-88-4gにて検出した。

遺構 長軸0.86m×短軸0.67m×深さ0.21m、方位はN-82°-Wを示す。平面形は卵形となっている。ソフトロームを斜めに掘込み、丸みを有した坑底となっている。覆土は黒色土を中心にロームを包含した人為堆積である。

遺物 土師器の小片が、稀に出土する。

所見 覆土堆積の乱雑さから人為堆積と捉えたが、柱材を引抜いた様な堆積状態である。D326・D327とともに柱穴と類似する点があり、断面形に異なりを示すが、同一の掘立柱建物跡の柱穴も否定できない遺構である。

#### D329

検出地区 L4-88-1gにて検出した。

遺構 長軸1.02m×短軸0.96m×深さ0.56m、方位はN-65°-Eを示す。平面形は楕円形である。ソフトロームを掘込み、坑底の東西の各壁際に更に小ピットを2基掘込んでいる。このため坑底に凹凸を

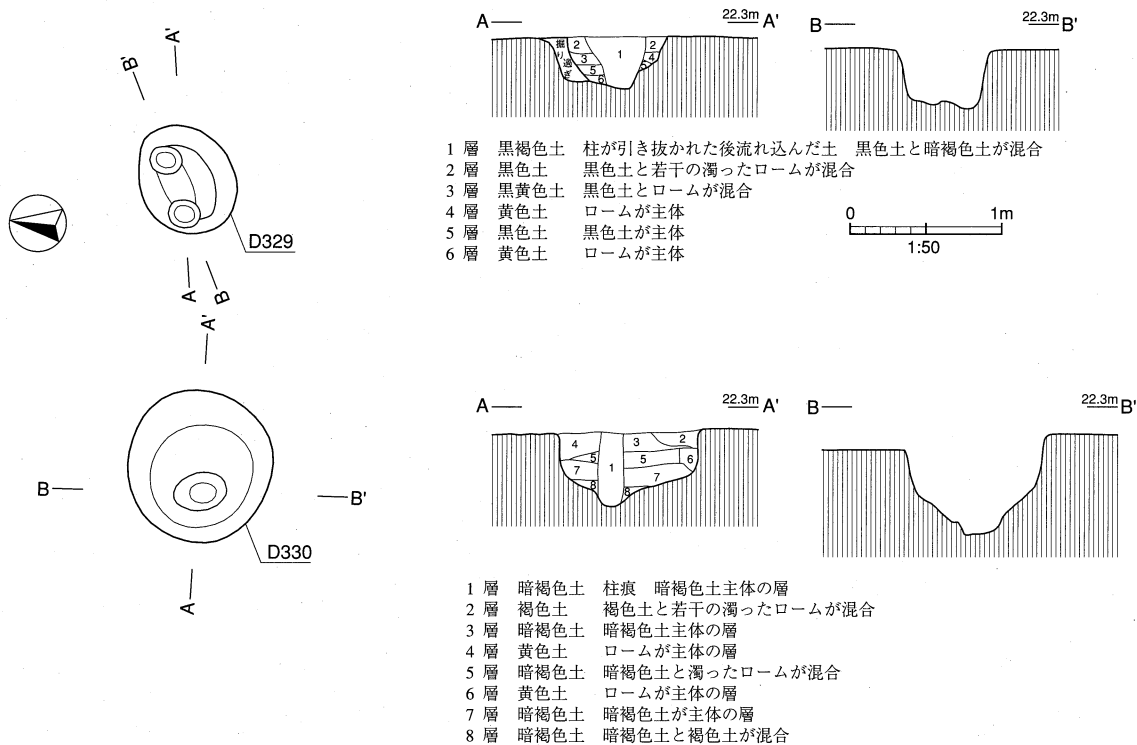


図161 D329・D330

生じている。覆土には柱痕を検出し、掘立柱として捉えられた。

遺物 土師器の小片が、稀に出土する。

所見 出土遺物や覆土から奈良・平安時代の所産と捉えた。柱痕覆土の上部が大きく開くことから、柱材は脇を掘込んだ後の引抜きと判断した。

D330

検出地区 L4-88-1gにて検出した。

遺構 長軸0.72m×短軸0.62m×深さ0.41m、方位はN-64°-Eを示す。平面形は略円形である。坑底中央に更に小ピットが掘込まれ、覆土から柱材が置かれたピットと考えられた。坑底は壁からやや丸みをもって下がるが、壁の立上がりは略垂直で壁の崩落はみられなかった。覆土は暗褐色土・褐色土を主体とした人為堆積で、充填土である。

遺物 土師器の小片が、稀に出土する。

所見 遺物や覆土から奈良・平安時代の所産と捉えた。柱痕と覆土の整然とした堆積から、柱材は立腐れと判断した。隣接するD329とともに掘立柱建物跡の柱穴と想定したが、同一の建物跡の柱穴かは捉えられなかった。

D333

検出地区 L4-99-4g、L5-9-2gにて検出した。

遺構 長軸1.52m×短軸0.95m×深さ0.49m、方位はN-1°-Wを示す。平面形は小判形である。ハードロームを掘込んだやや凹凸のある坑底であり、壁の立上がりは垂直に近くなっている。覆土はロームブロックを多含した埋土であり、人為的投入土によって埋没している。

遺物 縄文早期・燃糸文や土師器の各小片が、稀に出土している。

所見 ロームブロックを多含し、掘込んだ直後に埋戻した様な覆土である。用途は不明である。周辺の遺構状況から奈良・平安時代の所産と捉えたが、時代の移動があるかも知れない。

D335

検出地区 L5-28-4gにて検出した。

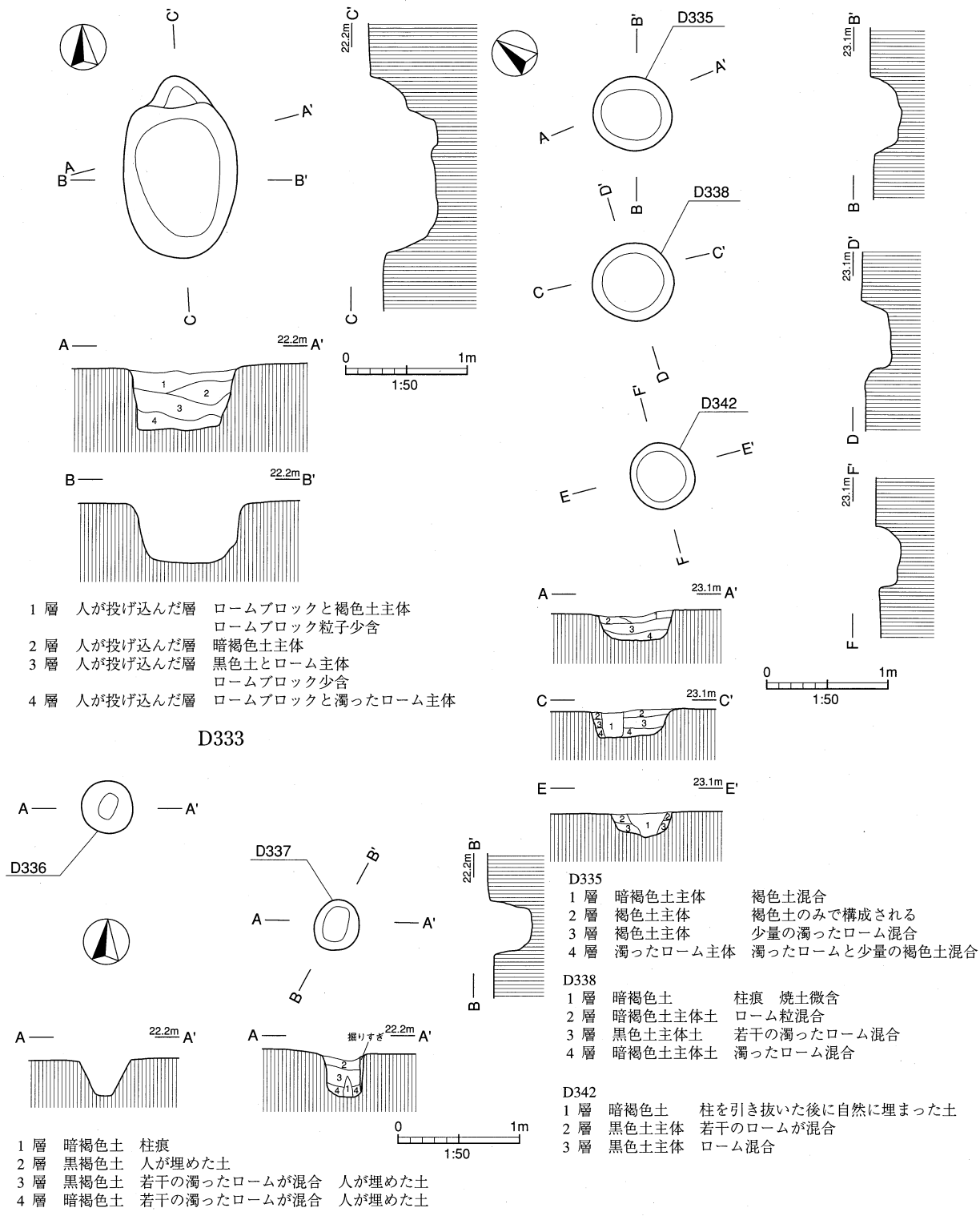


図162 D333・D335・D336・D337・D338・D342

遺 構 長軸0.65m×短軸0.61m×深さ0.24m、方位は形状から計測しなかった。平面形は円形である。ロームを掘込んだ坑底は凹凸を有し、やや急に壁は立上がっている。覆土は褐色土を主体として、突固められた様子が認められた。

遺 物 出土遺物は無かった。

所 見 覆土の突固められた様子から、掘立柱の柱穴と捉えた。また、覆土の整然さから柱材は立腐れと判断した。奈良・平安時代の所産である。

D336

検出地区 L5-10-3gにて検出した。

遺構 長軸0.42m×短軸0.42m×深さ0.29m、方位は形状より計測しなかった。平面形は円形である。坑底は平坦で、壁の立上がりは急である。覆土は揭示できなかったが、黒色土を主体とする。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 D335と近似する土坑から、掘立柱の柱穴と捉えた。奈良・平安時代の所産である。

D337

検出地区 L5-20-2gにて検出した。

遺構 長軸0.41m×短軸0.36m×深さ0.34m、方位は形状より計測しなかった。平面形は略円形である。ロームを略垂直に掘込み、坑底はやや丸みを帯びる。覆土はロームを包含した黒褐色土を主体とし、充填土である。下部に柱痕を検出した。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 覆土下部のみに柱痕を検出したことから、柱材は折損し、立腐れたものと捉えた。掘立柱の柱穴である。奈良・平安時代の所産である。

D338

検出地区 L5-88-4gにて検出した。

遺構 長軸0.70m×短軸0.62m×深さ0.23m、方位は形状より計測しなかった。平面形は円形である。ソフトロームを掘込んだ平坦な坑底で、壁はやや急に立上がっている。柱痕を検出した。覆土は暗褐色土を主体として充填されたものであり、突固められていた。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 掘立柱の柱穴である。D335・D341と近接し、それぞれ同一建物跡の柱穴かも知れない。奈良・平安時代の所産である。

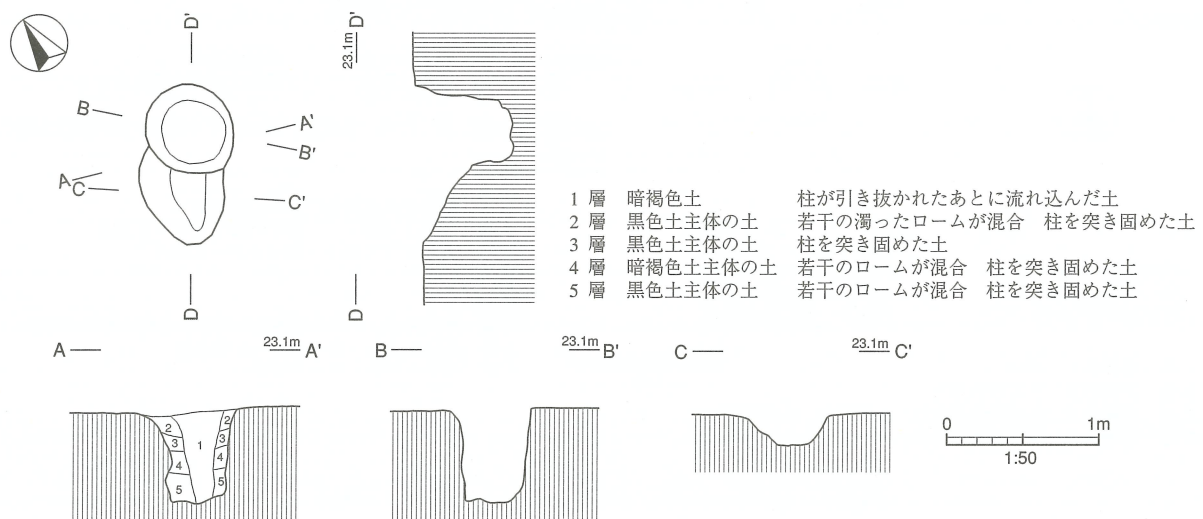


図 D339

D339

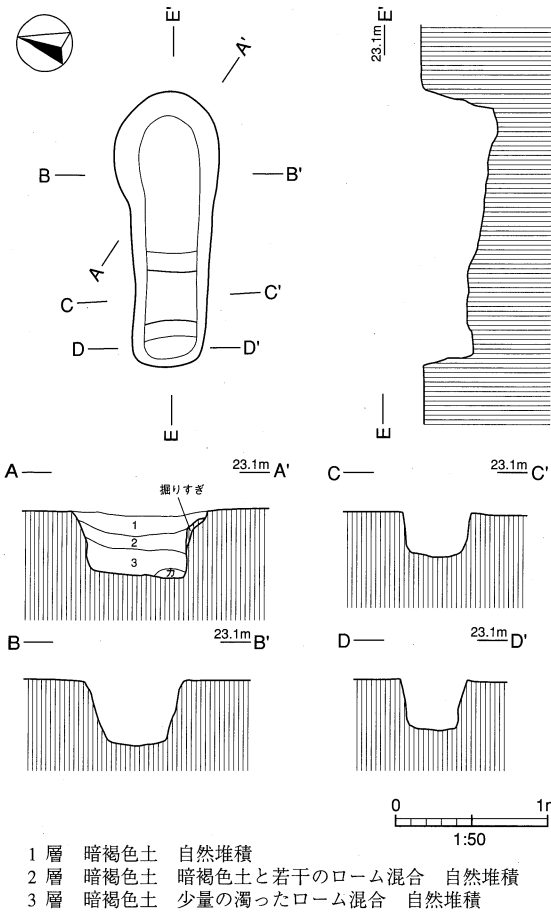
検出地区 L5-19-3gにて検出した。

遺構 長軸0.59 (最大長軸1.06) m×短軸0.56m×深さ0.61m、方位は計測しなかった。b坑は長軸(0.47)m×短軸0.56m×深さ0.21m、方位はN-22° -Eとなっている。平面形は円形に楕円形が付いた形状である。ハードロームまで略垂直に掘込み、坑底は凹凸が著しい。柱痕を検出した覆土は突固められ

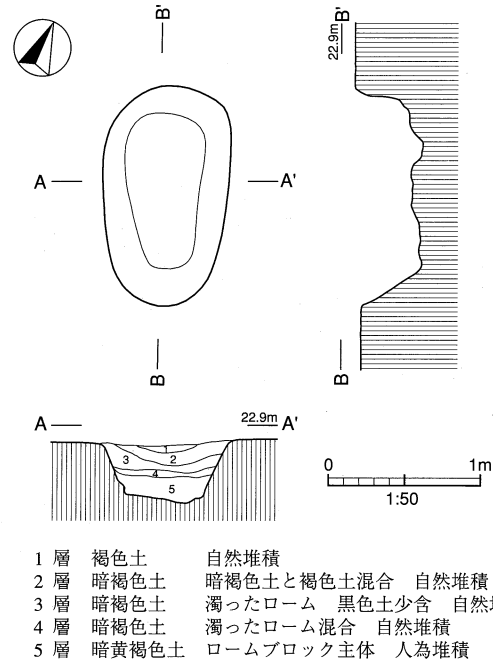
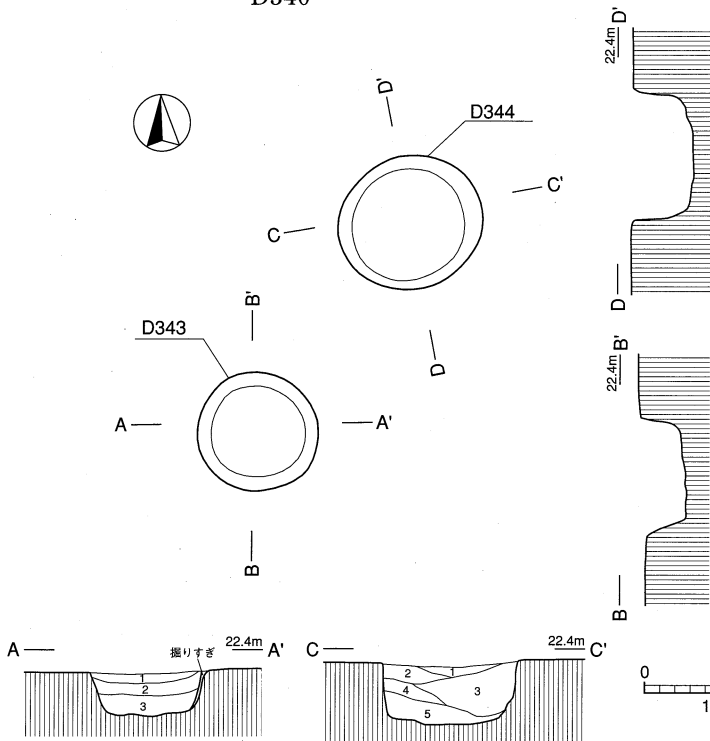
ており、ロームを多含した黒色土を主体とした充填土である。

遺物 縄文早期・撚糸文片及び土師器の小片が出土するが、稀である。

所見 柱痕覆土の上部がやや開き、柱材は立腐れと捉えられた掘立柱の柱穴である。



D340



D341

図164 D340・D341・D343・D344

#### D340

検出地区 L5-18gにて検出した。

遺構 長軸1.82m×短軸0.54m×深さ0.29～0.48m、方位はN-77° -Eを示す。平面形は土筆状である。ハードロームを掘込み、坑底は中央にテラスを有し、西壁側は一段低くなる。また、中央から東壁にかけて次第に下り、壁は垂直に近いものである。覆土は暗褐色土を主体として、自然堆積と捉えた。

遺物 土師器・須恵器の各小片が、少量出土した。

所見 用途不明の土坑である。出土遺物などから奈良・平安時代の所産と捉えた。

#### D341

検出地区 L5-38-2gにて検出した。

遺構 長軸1.46m×短軸0.83m×深さ0.34m、方位はN-23° -Wを示す。平面形は長楕円形である。ハードロームを掘込み、凹凸著しい坑底である。壁の立上がりは急である。覆土は坑底直上層は投入土であり、中層～上層は自然堆積と捉えた。

遺物 土師器の小片が出土するが、稀である。

所見 用途不明の土坑である。出土遺物などから奈良・平安時代の所産と捉えた。

#### D342

検出地区 L5-89-1gにて検出した。

遺構 長軸0.55m×短軸0.51m×深さ0.19m、方位は形状より計測しなかった。平面形は円形である。ソフトロームを掘込んだやや凹凸ある坑底で、壁の立上がりは急である。柱痕を検出した。覆土は黒色土を主体とし、やや突固められた様子が窺えた。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 掘立柱の柱穴である。柱痕上部の広がりから、柱材は脇を掘込まれ、引抜枯れたものと判断した。D335・D338との近接や、同程度の遺構規模などから、同一建物跡の可能性も否定できなかった。奈良・平安時代の所産である。

#### D343

検出地区 L5-39-3gにて検出した。

遺構 長軸0.80m×短軸0.78m×深さ0.27m、方位は形状より計測しなかった。平面形は円形である。ロームを掘込んだやや凹凸を有する坑底で、壁は略垂直に立上がっている。覆土は暗褐色土を主体とし、突固められた充填土である。

遺物 土師器・須恵器片が出土するが、稀である。須恵器甕は常陸産である。1は土師器・坏で判読不明だが、墨書土器片である。2は須恵器・坏で墨痕が残っていた。

所見 柱痕は検出できなかったが、覆土から掘立柱の柱穴と捉えた。覆土の整然さから柱材は立腐れと判断している。D344と近接し、遺構規模などが類似することから同一の建物跡の柱穴とも思われる。奈良・平安時代の所産である。

#### D344

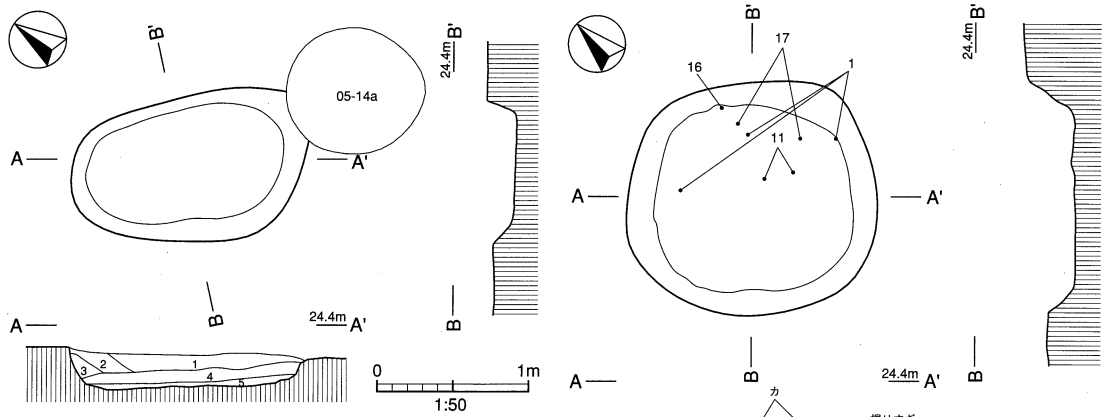
検出地区 L5-39-3gにて検出した。

遺構 長軸0.96m×短軸0.87m×深さ0.39m、方位はN-58° -Eを示す。平面形は円形である。ハードロームを本だ坑底は平坦ではあるが、若干の凹凸を有していた。覆土は突固められた様子から、ロームを包含した充填土と捉えた。

遺物 縄文早期・条痕文片が1点出土したが、流込みと捉えた。

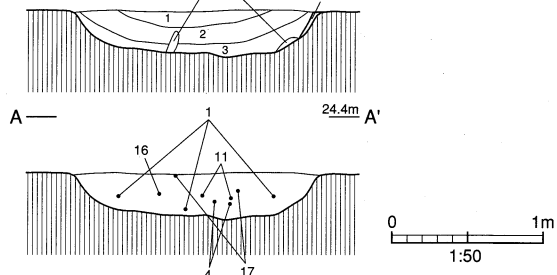
所見 柱痕は検出できなかったが、覆土が突固められた様子から掘立柱の柱穴と判断した。D343

と近接し、類似した遺構規模であることから同一の建物跡の柱穴とも思われる。奈良・平安時代の所産である。

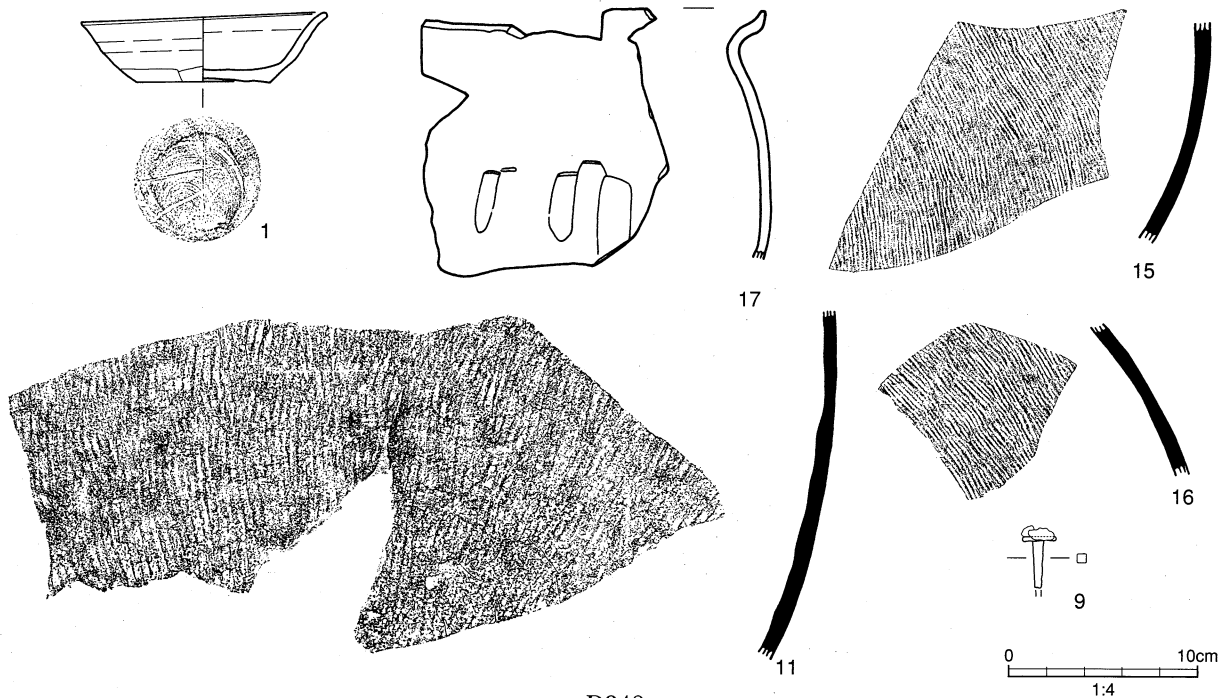


- 1層 黒色土 ローム微量 焼土粒微含
- 2層 黒褐色土 ローム少量混 ローム粒多含
- 3層 暗褐色土 ローム少量混 ローム粒多含
- 4層 黒褐色土 ローム少量混 ローム粒少含
- 5層 暗褐色土 ローム少量混 ローム粒多量

D347



- 1層 黒褐色土 ローム少量混 焼土粒微含
- 2層 黒色土 ローム微量 ローム粒少含
- 3層 黒色土 ローム少量混 ローム粒少含



D348

図 D347・D348

D347

検出地区 L5-35-4gにて検出した。

遺構 長軸1.57m×短軸0.95m×深さ0.34m、方位はN-48° -Wを示す。平面形は隅丸長方形である。ソフトロームを掘込んだ平坦な坑底で、壁は急に立上がっている。覆土はロームの多寡で分層し、



黒褐色土が主体となっている。

遺物 土師器の小片などが出土しているが、出土は少ない。

所見 B138の柱穴群内の北東コーナーに検出した遺構で、当初は、B138との関連遺構とも考えていた。しかし判然とせず、土坑として扱うことにした。用途は不明であり、奈良・平安時代の所産と捉えたが、時代の移動があるかもしれない。

#### D348

検出地区 L5-35-2gにて検出した。

遺構 長軸1.71m×短軸1.56m×深さ0.25m、方位はN-30° -Wを示す。平面形は隅丸形状である。ソフトロームを掘込んだ比較的平坦な坑底で、僅かに凹凸を有している。壁はやや湾曲して立上がっているが、傾斜はきついものである。覆土は包含するロームの多寡で分層したが、黒色土を主体とした自然堆積と捉えている。

遺物 土坑としては多く、土坑中央より北東側に出土が集中する傾向があった。出土層においての出土傾向は把握できなかった。ただ、須恵器・甕片では覆土中層～上層に多かった。

所見 D347と同様、B138の柱穴群内の南東コーナーに検出した土坑である。やはりB138に関連する遺構かとも思われたが判然とせず、単独の土坑として報告することとした。遺物は須恵器・甕の出土分布傾向から、遺構廃絶後の流込みとは思えず、廃棄したものと捉え、廃棄場所としての用途も有していたと判断した。奈良・平安時代の所産と捉えたが、B138との先後関係は不明である。

表54 D348遺物観察表

(単位mm)

種別器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 坏	128×70×37 ロクロ成形 体部外傾 口縁外反 外面 体部下端一回転ヘラケズリ 底部一回転糸切り後回転ヘラケズリ	橙褐色 普	砂粒赤色 粒	2/3	線刻「×」 宛書「□」 底部外面
11 須恵器 甕	-×-×- タテのタタキ目	暗赤褐色 普	白色粒	胴部片	
15 須恵器 甕	-×-×- やや細かなタテに近い斜位のタタキ目	灰色 良	緻密	胴部片	
16 須恵器 甕	-×-×- や細かなタテに近い斜位のタタキ目	灰色 良	緻密	胴部片	15と同一個体?
17 土師器 甕	-×-×- 頸部括れ、口縁は大きく外に開く 口唇はつまみ上げて直立に近い 口縁～頸部一ナデ 胴部中位以下ヘラケズリ	褐色 普	砂粒 雲母	口縁～ 胴部	常絵型

#### D349

検出地区 L5-6-1gにて検出した。

遺構 長軸1.06m×短軸0.70m×深さ0.28m、方位はN-15° -Eを示す。平面形は楕円形である。ソフトロームを掘込みんだ土坑で、坑底はやや丸みを有している。壁は斜めに立上がり、坑底と壁の境が不明瞭である。覆土は、暗褐色土を主体とした自然堆積と捉えた。

遺物 土師器・須恵器の各小片が出土するが、稀である。墨書・線刻土器が各1点出土した。線

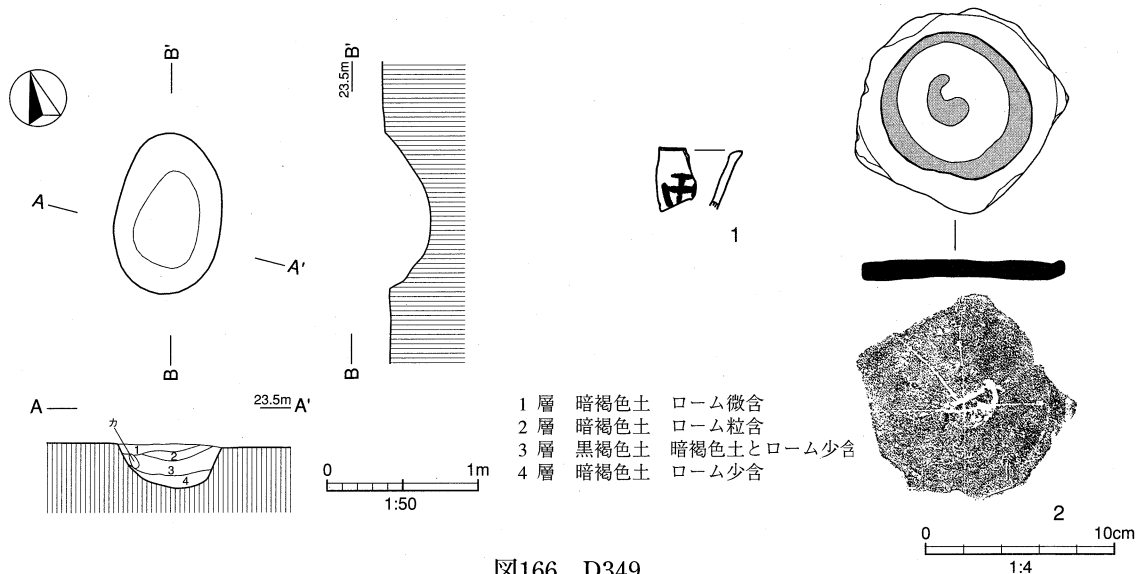


図166 D349

刻土器は硯に転用していた。

所見 用途不明の土坑である。出土遺物から奈良・平安時代の所産と捉えた。

表55 D349遺物観察表

(単位mm)

種別 器形	法量 口径×底径×器高 成形・調整等の特徴	色調 焼成	胎土	遺存	備考
1 土師器 坏	-× -× -ロクロ成形 外面 ナデ 内面 丁寧なヘラミガキ	橙褐色 良	雲母 スコリア 微細粒 緻密	口縁片	墨書「西」 体部外面正位 内黒 (可能性高い)
2 須恵器 坏	-× -× -ロクロ成形 外面 底部-静止ヘラ切り後回転ヘラケズリ 内面 ナデ	灰 良	雲母 石英細粒 比較的 緻密	底部片	線刻「□」 底部外面 転用硯 常陸産

### D353

検出地区 L5-16-1gにて検出した。

遺構 長軸0.95m×短軸0.90m×深さ0.29m、方位はN-3°-Wを示す。平面形は円形である。ハートロームを掘込んだやや凹凸ある坑底であり、壁は垂直に近く立上がっている。覆土はローム包含の多寡で分層したが、黒褐色土を主体とした人為堆積と捉えた。

遺物 土師器・須恵器片の小片が出土するが、稀である。

所見 掘立柱の柱穴覆土と類似し、人為堆積と捉えた土坑である。用途は捉えられなかった。柱穴覆土と類似するなどから、奈良・平安時代の所産と捉えた。

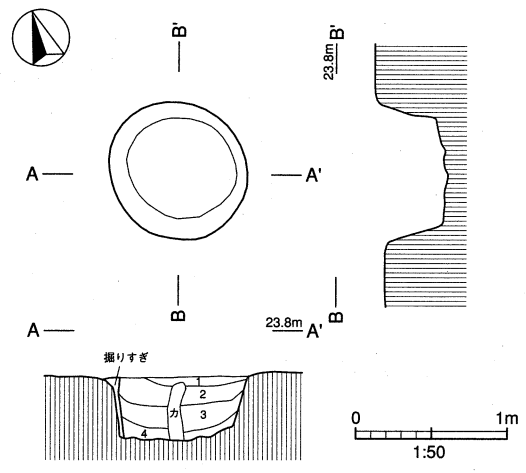
### D354

検出地区 L5-26-4gにて検出した。

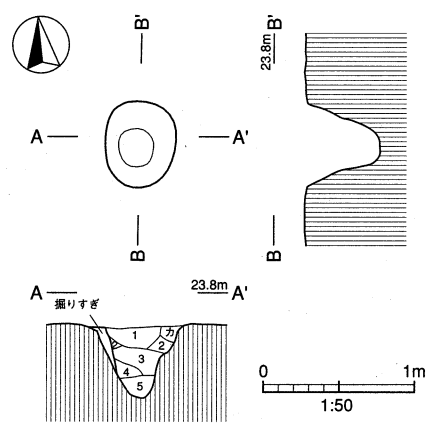
遺構 長軸0.58m×短軸0.45m×深さ0.51m、方位はN-11°-Eを示す。平面形は略円形であり、遺構規模は小さい。ロームを垂直に近く掘込み坑底とするが、坑底は丸みを帯びている。覆土は黒色土を主体としており、人為堆積か自然堆積かは捉えられなかった。ただ、堆積状況から遺構埋没後に動かされている可能性が窺えた。

遺物 出土遺物は無かった。

所見 掘込みなどから掘立柱の柱穴に類似する土坑であるが、柱穴かは捉えられなかった。覆土は攪乱を被るため判然としないが、柱材の引抜きに伴う覆土の動きに類似していた。出土遺物は無いが、遺構状況より奈良・平安時代の所産と捉えた。

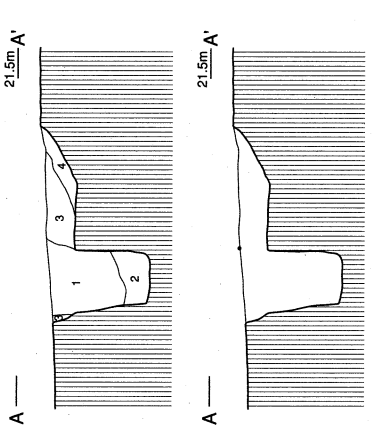
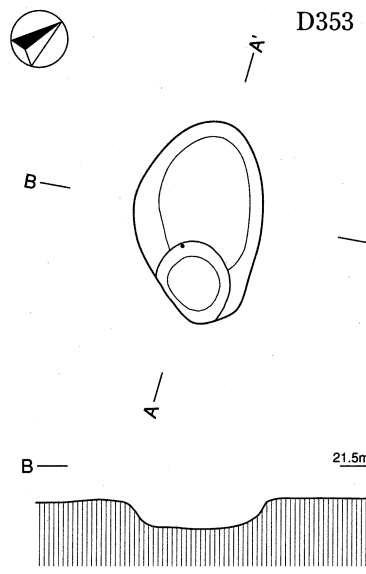


- 1層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒多含
- 2層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒多含
- 3層 黒褐色土 ローム少量混入 ローム粒少含
- 4層 暗褐色土 黒褐色土とローム混合 ローム粒少含



- 1層 黒色土 ローム粒少含
- 2層 暗褐色土 黒色土とロームが混合
- 3層 黒褐色土 黒色土主体にローム少量混合
- 4層 暗褐色土 黒色土主体にローム少量混合
- 5層 黒色土 ローム粒少含

D354



- 1層 暗褐色土 少量の褐色土が粗く混入 少量の白色粘土と少量の焼土が斑状に混入
- 2層 黒褐色土 黒色土を主体に少量の暗褐色土がやや粗く混入 焼土と白色粘土を少含
- 3層 暗褐色土 少量の黒色土が滲むように混入 ローム粒子も全体的に混入
- 4層 暗褐色土 極少量の褐色土が滲むように混入 部分的にローム大量含

D359

図167 D353・D354・D359

D359

検出地区 L4-90-4gにて検出した。  
 遺構 2基の土坑の重複である。

D359aは、長軸(1.20)m×短軸0.86m×深さ0.20m、方位はN-52° -Wを示す。平面形は歪んだ略楕円形である。ソフトロームを浅く掘込んだ坑底は平坦であり、壁は斜めに立上がっている。覆土はロームを包含した暗褐色土を主体とする。

D359bは、長軸(0.60)m×短軸(0.45)m×深さ0.65m、方位はN-84° -Eを示す。平面形は略円形である。D359aの埋没後、略垂直に掘込んだ土坑であり、坑底も平坦であった。形状は掘立柱建物跡の柱穴である。覆土は白色粘土を包含する。

遺構 土師器小片が出土している。

所見 D359bの覆土に白色粘土が混入することは、周辺の掘立柱建物跡の柱穴覆土例と同様であり、建物跡の柱穴と捉えられるが、柱穴配置で建物跡と土師器成らず、単独の土坑として扱った。

D359aはd 359bとあまり時間差のない土坑と判断したが、用途は捉えられなかった。

































































































































